

動物看護科 教育課程(新)

区分	科目名			科目コード	1年		2年		3年		合計				
	分野	学習目標/大科目名	科目		単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間			
(専門基礎分野)	基礎動物学		生命倫理・動物福祉	NA24	1	30					1	30			
			動物形態機能学Ⅰ	NA24	2	60					2	60			
			動物形態機能学Ⅱ	NA24	2	60					2	60			
			動物繁殖学	NA24			1	30			1	30			
			動物行動学	NA24			1	30			1	30			
			動物栄養学Ⅰ	NA24	1	30					1	30			
			動物栄養学Ⅱ	NA24			1	30			1	30			
			比較動物学	NA24							2	60			
			動物看護関連法規	NA24							1	15			
			動物愛護・適正飼育関連	NA24							1	15			
	基礎動物看護学		動物看護学概論	NB24	1	30					1	30			
			動物病理学	NB24			1	30			1	30			
			動物薬理学Ⅰ	NB24			1	30			1	30			
			動物薬理学Ⅱ	NB24					1	30	1	30			
			動物感染症学Ⅰ	NB24			1	30			1	30			
			動物感染症学Ⅱ	NB24			1	30			1	30			
			動物感染症学Ⅲ	NB24					1	30	1	30			
			公衆衛生学Ⅰ	NB24	1	30					1	30			
			公衆衛生学Ⅱ	NB24	1	30					1	30			
			臨床動物看護学		動物内科看護学Ⅰ	NC24	1	30					1	30	
	動物内科看護学Ⅱ	NC24			2	60					2	60			
	動物外科看護学	NC24					2	60			2	60			
	動物臨床看護学総論	NC24					1	30			1	30			
	動物臨床看護学各論Ⅰ	NC24			2	60					2	60			
	動物臨床看護学各論Ⅱ	NC24							2	60	2	60			
	動物臨床検査学	NC24					1	30			1	30			
	動物医療コミュニケーション	NC24							1	30	1	30			
	愛護動物学Ⅰ	ND24			1	30					1	30			
	愛護動物学Ⅱ	ND24			1	30					1	30			
	愛護・適正飼養学		人と動物の関係学	ND24	1	30					1	30			
			適正飼養指導論Ⅰ	ND24			1	30			1	30			
			適正飼養指導論Ⅱ	ND24					1	30	1	30			
			動物生活環境学	ND24					1	30	1	30			
ペット関連産業概論			ND24	1	30					1	30				
必修科目(専門基礎分野)計					16	480	14	420	11	300	41	1,200			
(専門科目分野)			実習	修得した知識の実践力を身につける	動物形態機能学実習	NE24	1	30					1	30	
					動物内科看護学実習Ⅰ	NE24	2	60					2	60	
					動物内科看護学実習Ⅱ	NE24	2	60					2	60	
					動物臨床検査学実習	NE24			2	60			2	60	
	動物外科看護学実習Ⅰ	NE24					1	30			1	30			
	動物外科看護学実習Ⅱ	NE24							2	60	2	60			
	動物臨床看護学実習	NE24							2	60	2	60			
	動物愛護・適正飼養実習	NE24							2	60	2	60			
	動物看護総合実習Ⅰ	NE24			1	30					1	30			
	動物看護総合実習Ⅱ	NE24					2	60			2	60			
	動物看護総合実習Ⅲ	NE24									3	90			
	必修科目(専門基礎分野)計					6	180	5	150	9	270	20	600		
	必修科目(専門基礎分野+専門分野)計					22	660	19	570	20	570	61	1,800		
(社会人基礎分野)	社会の中で自分の役割を考える	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	NF24	1	30					1	30			
			キャリアデザインⅡ	NF24			1	30			1	30			
			キャリアデザインⅢ	NF24					1	30	1	30			
			ボランティア活動Ⅰ	NF24	1	30					1	30			
	社会人として必要なビジネス能力	ボランティア活動	ボランティア活動Ⅱ	NF24			1	30			1	30			
			損害保険学	NG24	1	15					1	15			
			基本IT技術Ⅰ	NG24			2	60			2	60			
			基本IT技術Ⅱ	NG24					1	30	1	30			
	社会人として持つべき基礎的教養	イベントプロデューサー	イベントプロデューサー	NH24	1	15					1	15			
			社会常識	NH24			1	30			1	30			
			ビジネス文章力Ⅰ	NH24	1	30					1	30			
			コミュニケーション学	NH24	1	30					1	30			
	専門を深める	環境整備	プレゼンテーション	NH24			1	30			1	30			
			環境整備	NH24	1	30					1	30			
			動物飼育実習Ⅰ	NI24	1	30					1	30			
			動物飼育実習Ⅱ	NI24			2	60			2	60			
		ドッグトレーニング実習	動物飼育実習Ⅲ	NI24					1	30	1	30			
			ドッグトレーニング実習Ⅰ	NI24			1	30			1	30			
			ドッグトレーニング実習Ⅱ	NI24					1	30	1	30			
			トータルケア実習Ⅰ	NI24			3	90			3	90			
動物看護師総合学	トータルケア実習Ⅱ	トータルケア実習Ⅱ	NI24					3	90	3	90				
		愛玩動物看護師試験対策	NI24					1	30	1	30				
		愛玩動物看護師試験対策	NI24					2	60	2	60				
		愛玩動物看護師試験対策	NI24												
必修科目(社会人基礎分野)計					8	210	12	360	10	300	30	870			
必修科目(専門基礎分野+専門分野+社会人基礎分野)計					30	870	31	930	30	870	91	2,670			
選択科目	専門を深める	アニマルヘルパー	AN24	1	30			1	30	1	30				
	基礎的教養	ビジネス文章力	AN24	1	30			1	30	1	30				
選択科目(社会人基礎分野+専門分野)計					2	60	2	60	2	60	6	180			
必修科目+選択科目 総計					32	930	33	990	32	930	97	2,850			

\*単位と時間の関係は 講義は15~30時間/単位(自宅学習を含む)のもの、実習は15~45時間/単位のものに分かれる

\*科目履修(単位)認定の要件: 80%以上の出席 および 期末試験 60点以上を基本とするが、科目により実技試験、あるいはレポートに換える場合もある

\*卒業の要件: 必修科目90単位(2,640時間)以上の履修

※実習に関しては、50分を1単位時間とする。

科目名	生命倫理・動物福祉		単位数	1	科目コード	NA2401		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉(アニマルウェルフェア)について学ぶ。							
授業の一般目標	<p>1. 生命倫理の概念 1) 生命倫理の考え方について理解する 2) 生命倫理と獣医療の関わりについて理解する</p> <p>2. 動物福祉の概念 1) 動物福祉の考え方について理解する 2) 「5つの自由」(飢え・渇きからの自由、痛み・負傷・病気からの自由、不快からの自由、本来の行動がとれる自由、恐怖・抑圧からの自由)について理解する 3) 世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動について理解する 4) 「動物の権利」、「動物福祉」思想や課題について理解する 5) 動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について理解する 6) 安楽死の考え方について理解する</p> <p>3. 愛玩動物の福祉 1) 愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題について理解する 2) 国内外の動物保護活動の現状と課題について理解する 3) 飼養放棄や殺処分問題、対策について理解する 4) 動物のみだりな殺傷・虐待(積極的な虐待とネグレクト)の現状、対策について理解する 5) 飼養動物の災害時の対応について理解する</p> <p>4. 産業動物の福祉 1) 産業動物における福祉上の問題について理解する 2) 国際的な福祉基準について理解する 3) 産業動物の福祉を向上させるための具体的方法について理解する</p> <p>5. 実験動物の福祉 1) 実験動物における福祉上の問題について理解する 2) 3R (Replacement (代替)、Reduction (削減)、Refinement (改善))の概念と具体的方法について理解する</p> <p>6. 展示動物の福祉 1) 展示動物における福祉上の問題について理解する 2) 展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容について理解する</p>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物愛護や福祉について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物福祉の概念を理解し、動物の愛護や獣医療の現場で直面する生命倫理、動物保護施設収容動物福祉、産業動物の福祉を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	生命倫理の概念とさまざまな動物観①	生命倫理の考え方 生命倫理と獣医療の関わり				教科書P.171~173		
第2回	生命倫理の概念とさまざまな動物観②	動物に対するさまざまな考え方や影響を与える要因 動物観の歴史の変遷				教科書P.174~184		
第3回	動物福祉の概念①	動物福祉とは 近代・現代の動物愛護運動				教科書P.187~193		
第4回	動物福祉の概念②	動物の権利(animal rights)と動物福祉(animal welfare) 日本における動物愛護と世界における動物福祉				教科書P.193~196		
第5回	動物福祉の概念③	動物病院での安楽死の考え方				教科書P.197~200		
第6回	動物福祉の評価	動物福祉の評価とは 動物福祉の生理学的指標・行動学的指標				教科書P.205~214		
第7回	動物福祉と社会	動物福祉と社会、法律と動物福祉、経済活動と動物福祉 動物福祉教育・動物保護活動				教科書P.217~228		
第8回	愛玩動物の福祉①	愛玩動物の飼育の現状と福祉、家庭での適正飼養と動物福祉上の問題、 愛玩動物の繁殖・流通・利用に関する福祉上の問題				教科書P.231~239		
第9回	愛玩動物の福祉②	飼育放棄と飼い主のいない犬・猫の問題 愛玩動物福祉のための対策				教科書P.239~249		
第10回	産業動物の福祉	産業動物福祉改善の歴史と定義～動物福祉向上の方策				教科書P.253~276		
第11回	実験動物の福祉	実験動物の福祉と動物実験に関する法規制～労働安全衛生				教科書P.281~292		
第12回	展示動物および使役動物の福祉 野生動物の福祉	展示動物の福祉～使役動物の福祉～身体障害者補助犬(補助犬)を中心に一 野生動物の福祉～対策と課題				教科書P.295~315		
第13回	さまざまな動物の福祉	愛玩動物、産業動物、展示動物・使役動物、野生動物それぞれの福祉について				グループワーク		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	西 景子		実務経験紹介					

科目名	動物形態機能学 I			単位数	2	科目コード	NA2402	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	前期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。「動物形態機能学 I」と「動物形態機能学 II」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物形態機能学」の履修となる。動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。							
授業の一般目標	<p>1. 生命のすがた 2. 循環器とその調節 3. 呼吸器とその調節 4. 消化器と栄養代謝 5. 内分泌とホルモン 6. 泌尿器と体液調節 7. 脳と神経 8. 運動器 9. 血液と造血器 10. 皮膚と感覚器の内容のうち以下の学びについて理解する。</p> <p>1. 生命のすがた 1) 細胞の構造について理解する 2) DNAの働きについて理解する 3) 上皮組織、腺組織、支持組織、筋組織、神経組織について理解する 4) 器官の成り立ちと維持、調整システムについて理解する</p> <p>2. 循環器とその調節 1) 心臓の構造について理解する 2) 心筋細胞の電気現象と心筋の興奮伝導系について理解する 3)ポンプとしての心臓機能と心電図、心音について理解する 4)心臓機能の調節機構について理解する 5) 血管の種類と構造、機能について理解する 6) 血圧調節機構について理解する</p> <p>7. 脳と神経 1) ニューロンの構成と活動電位、シナプス伝達について理解する 2) 脳の構造と機能について理解する 3) 脊髄の構造と機能について理解する 4) 体性神経の構成と機能について理解する 5) 自律神経の構成と機能について理解する</p> <p>9. 血液と造血器 1) 血球成分と血漿成分について理解する 2) 赤血球の構造と機能について理解する 3) 白血球の構造と機能について理解する 4) 血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解について理解する</p> <p>10. 皮膚と感覚器 1) 皮膚の構造と機能について理解する</p>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1巻」 ヒューマン・アニマル・ボンド「デジタルアナトミーWEB」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	細胞・組織・循環器・呼吸器、消化器、内分泌(ホルモン)について、それぞれの説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物形態機能学総論を理解し、生物学の復習、動物の体の機能・構造、器官系について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1～2回	生命のすがた①	体を形づくる基本物質～遺伝情報					P3～P15	
第3～4回	生命のすがた②	上皮組織・腺組織・支持組織・筋組織・神経組織、気管の成り立ちと維持・調節システム					P16～P27	
第5～6回	血液と造血器	血球成分と血漿成分～血小板機能と血液凝固機構および線維素溶解					P31～P42	
第7～8回	血液循環とその調節①	循環器系の概要～心筋の自動性と興奮の伝わり					P45～P50	
第9～10回	血液循環とその調節②	心臓の周期～血管の仕組みと働き					P51～P60	
第11～12回	血液循環とその調節③	血液循環の調節～脾臓の仕組み					P61～P71	
第13～14回	生体の防御機構	生体を守る防御機構～獲得免疫					P77～P85	
第15～16回	脳と神経①	脳と神経系の役割～興奮の伝導とシナプス伝達					P91～P100	
第17～18回	脳と神経②	シナプス～神経回路					P101～P114	
第19～20回	脳と神経③	神経系～脳神経					P115～P123	
第21～22回	脳と神経④	脊髄と脊髄神経～行動の神経調節					P123～P139	
第23～24回	感覚と情報伝達①	感覚系とは～嗅覚					P145～P157	
第25～26回	感覚と情報伝達②	味覚、聴覚・平衡感覚					P158～P170	
第27～28回	感覚と情報伝達③	視覚					P171～P185	
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する					※学生証が必要	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	林 弘之			実務経験紹介				

科目名	動物形態機能学Ⅱ		単位数	2	科目コード	NA2403																																																																								
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期																																																																								
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-																																																																								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 「動物形態機能学Ⅰ」と「動物形態機能学Ⅱ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物形態機能学」の履修となる。 動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基礎を確立する。																																																																													
授業の一般目標	<p>1. 生命のすがた 2. 循環器とその調節 3. 呼吸器とその調節 4. 消化器と栄養代謝 5. 内分泌とホルモン 6. 泌尿器と体液調節 7. 脳と神経 8. 運動器 9. 血液と造血器 10. 皮膚と感覚器の内容のうち以下の学びについて理解する。</p> <p>3. 呼吸器とその調節 1) 呼吸器の構造について理解する 2) 換気の仕組みについて理解する 3) 肺胞におけるガス交換について理解する 4) 血液による酸素と二酸化炭素の運搬について理解する 5) 呼吸運動の調節機構について理解する</p> <p>4. 消化器と栄養代謝 1) 消化管(口腔、咽喉、食道、胃、小腸、大腸)の構造と機能について理解する 2) 唾液腺、膵臓、肝臓の構造と機能について理解する 3) 消化と吸収の仕組みについて理解する 4) 各種栄養素(糖質、タンパク質、脂質)の代謝について理解する</p> <p>5. 内分泌とホルモン 1) 内分泌の定義について理解する 2) ホルモンの性質、機能、生成、分泌、フィードバック調節について理解する 3) 主な内分泌臓器の構造と機能について理解する 4) 主なホルモンの作用と標的器官について理解する</p> <p>6. 泌尿器と体液調節 1) 腎臓及びネフロン(腎小球、近位小管、ループ、遠位小管、集合管)の構造と機能について理解する 2) クリアランスの意味を知り、腎血漿流量と糸球体濾過量の調節機構について理解する 3) 尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について理解する 4) 体液の分布と区分、調節機構について理解する 5) 電解質バランスについて理解する 6) 酸・塩基平衡について理解する</p> <p>8. 運動器 1) 骨格の構成について理解する 2) 骨の形状と構造について理解する 3) 関節の構造と働きについて理解する 4) 骨格筋の構造と収縮機構について理解する 5) 主な骨格筋の名称と機能について理解する</p>																																																																													
受講条件	動物形態機能学Ⅰを履修している																																																																													
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1巻」 ヒューマン・アニマル・ボンド「デンタルアナトミーWEB」																																																																													
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 泌尿器、脳・神経、運動器、血液、皮膚・感覚器について、それぞれの説明ができる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 自ら疑問点を見出し、追究することができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																																																													
授業計画(全体)	動物形態機能学総論を理解し、生物学の復習、動物の体の機能・構造、器官系について学ぶ。																																																																													
授業計画(授業単位)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>主題</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1～2回</td> <td>体の支持と運動①</td> <td>体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分、骨格</td> <td>P189～P202</td> </tr> <tr> <td>第3～4回</td> <td>体の支持と運動②</td> <td>骨格筋①</td> <td>P203～P233</td> </tr> <tr> <td>第5～6回</td> <td>体の支持と運動③</td> <td>骨格筋②</td> <td>P203～P233</td> </tr> <tr> <td>第7～8回</td> <td>外皮系と体温調節</td> <td>外皮～皮膚による体温調節機構</td> <td>P239～P251</td> </tr> <tr> <td>第9～10回</td> <td>呼吸とその調節</td> <td>呼吸器の構造、呼吸</td> <td>P255～P263</td> </tr> <tr> <td>第11～12回</td> <td>内分泌とホルモン①</td> <td>内分泌系とは～外分泌や傍分泌との違い～内分泌系の基本構造と機能</td> <td>P267～P278</td> </tr> <tr> <td>第13～14回</td> <td>内分泌とホルモン②</td> <td>視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能</td> <td>P279～P288</td> </tr> <tr> <td>第15～16回</td> <td>消化吸収と栄養代謝①</td> <td>菌の分類と数～腸の仕組みと働き</td> <td>P293～P302</td> </tr> <tr> <td>第17～18回</td> <td>消化吸収と栄養代謝②</td> <td>唾液腺～肝臓</td> <td>P303～P307</td> </tr> <tr> <td>第19～20回</td> <td>消化吸収と栄養代謝③</td> <td>炭水化物の消化と吸収～代謝総論</td> <td>P308～P313</td> </tr> <tr> <td>第21～22回</td> <td>消化吸収と栄養代謝④</td> <td>三大栄養素の分子のしくみ～代謝経路の概要</td> <td>P314～P318</td> </tr> <tr> <td>第23～24回</td> <td>消化吸収と栄養代謝⑤</td> <td>炭水化物(糖質)の代謝経路～ミネラル</td> <td>P319～P328</td> </tr> <tr> <td>第25～26回</td> <td>尿の生成と体温調節①</td> <td>腎臓～体液</td> <td>P335～P351</td> </tr> <tr> <td>第27～28回</td> <td>尿の生成と体温調節②</td> <td>電解質バランス～酸・塩基平衡</td> <td>P352～P365</td> </tr> <tr> <td>第29～30回</td> <td>授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説</td> <td>授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する</td> <td>※学生証が必要</td> </tr> </tbody> </table>						回	主題	授業内容	備考	第1～2回	体の支持と運動①	体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分、骨格	P189～P202	第3～4回	体の支持と運動②	骨格筋①	P203～P233	第5～6回	体の支持と運動③	骨格筋②	P203～P233	第7～8回	外皮系と体温調節	外皮～皮膚による体温調節機構	P239～P251	第9～10回	呼吸とその調節	呼吸器の構造、呼吸	P255～P263	第11～12回	内分泌とホルモン①	内分泌系とは～外分泌や傍分泌との違い～内分泌系の基本構造と機能	P267～P278	第13～14回	内分泌とホルモン②	視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能	P279～P288	第15～16回	消化吸収と栄養代謝①	菌の分類と数～腸の仕組みと働き	P293～P302	第17～18回	消化吸収と栄養代謝②	唾液腺～肝臓	P303～P307	第19～20回	消化吸収と栄養代謝③	炭水化物の消化と吸収～代謝総論	P308～P313	第21～22回	消化吸収と栄養代謝④	三大栄養素の分子のしくみ～代謝経路の概要	P314～P318	第23～24回	消化吸収と栄養代謝⑤	炭水化物(糖質)の代謝経路～ミネラル	P319～P328	第25～26回	尿の生成と体温調節①	腎臓～体液	P335～P351	第27～28回	尿の生成と体温調節②	電解質バランス～酸・塩基平衡	P352～P365	第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する	※学生証が必要								
回	主題	授業内容	備考																																																																											
第1～2回	体の支持と運動①	体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分、骨格	P189～P202																																																																											
第3～4回	体の支持と運動②	骨格筋①	P203～P233																																																																											
第5～6回	体の支持と運動③	骨格筋②	P203～P233																																																																											
第7～8回	外皮系と体温調節	外皮～皮膚による体温調節機構	P239～P251																																																																											
第9～10回	呼吸とその調節	呼吸器の構造、呼吸	P255～P263																																																																											
第11～12回	内分泌とホルモン①	内分泌系とは～外分泌や傍分泌との違い～内分泌系の基本構造と機能	P267～P278																																																																											
第13～14回	内分泌とホルモン②	視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能	P279～P288																																																																											
第15～16回	消化吸収と栄養代謝①	菌の分類と数～腸の仕組みと働き	P293～P302																																																																											
第17～18回	消化吸収と栄養代謝②	唾液腺～肝臓	P303～P307																																																																											
第19～20回	消化吸収と栄養代謝③	炭水化物の消化と吸収～代謝総論	P308～P313																																																																											
第21～22回	消化吸収と栄養代謝④	三大栄養素の分子のしくみ～代謝経路の概要	P314～P318																																																																											
第23～24回	消化吸収と栄養代謝⑤	炭水化物(糖質)の代謝経路～ミネラル	P319～P328																																																																											
第25～26回	尿の生成と体温調節①	腎臓～体液	P335～P351																																																																											
第27～28回	尿の生成と体温調節②	電解質バランス～酸・塩基平衡	P352～P365																																																																											
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する	※学生証が必要																																																																											
成績評価方法	<p>単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&amp;授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合</th> <th>成績評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>50</td> <td>秀 (S):100点～90点</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>優 (A):89点～80点</td> </tr> <tr> <td>宿題授業外レポート</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>良 (B):79点～70点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>可 (D):69点～60点</td> </tr> <tr> <td>発表・作品</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>不可 (E):59点以下</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点	小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点	宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点	授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点	発表・作品							-	不可 (E):59点以下	演習							-		出席			◎				10	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準																																																																						
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点																																																																						
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点																																																																						
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点																																																																						
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点																																																																						
発表・作品							-	不可 (E):59点以下																																																																						
演習							-																																																																							
出席			◎				10																																																																							
担当教員	林 弘之		実務経験紹介																																																																											

科目名	動物繁殖学		単位数	1	科目コード	NA2404		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。							
授業の一般目標	1. 生殖器の形態と機能 1) 生殖器(雌・雄)の基本構造について理解する 2) 主要な性ホルモンの名称、産生部位及び標的器官について理解する 3) 雄の繁殖生理について理解する 4) 雌の繁殖生理について理解する 2. 性周期と交配 1) 性成熟と発情徴候について理解する 2) 排卵(自然排卵・交尾排卵)の仕組みについて理解する 3) 性周期と陰細胞スミアの関係について理解する 4) 交配適期の決定法について理解する 3. 妊娠と分娩 1) 着床・発生・妊娠・胎子の発育について理解する 2) 妊娠期間、偽妊娠について理解する 3) 分娩と助産、帝王切開について理解する 4) 去勢・不妊手術について理解する 5) 人工授精について理解する 4. 新生子管理 1) 新生子のための飼養環境について理解する 2) 初乳の意義と哺乳について理解する 3) 新生子の発育過程について理解する 5. 遺伝学概論 1) 遺伝のメカニズムについて理解する 2) さまざまな遺伝様式(顕性・潜性、伴性遺伝など)について理解する 3) 遺伝子疾患、発生異常について理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物繁殖学の概論、分娩・新生児、遺伝学について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物繁殖学総論を理解し、生殖器の形態と機能や性周期の交配、妊娠と分娩、新生子管理、遺伝学概論を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	性と生殖①	1.生殖とその分類~2.生殖器の基本的なしくみ					教科書 P.373~381	
第2回	性と生殖②	2.生殖器の基本的なしくみ(続き)					教科書 P.374~391	
第3回	性と生殖③	3.生殖機能調節に関わるホルモン					教科書 P.381~384	
第4回	性と生殖④	4.発情徴候と発情周期					教科書 P.385~391	
第5回	性と生殖⑤	5.受精と妊娠					教科書 P.392~396	
第6回	性と生殖⑥	6.分娩と助産、帝王切開					教科書 P.397~402	
第7回	性と生殖⑦	7.遺伝子と器官発生					教科書 P.402~405	
第8回	性と生殖⑧	8.去勢・不妊手術~9.人工授精					教科書 P.406~411	
第9回	新生子管理①	1.新生子期とは~2.新生子のための飼養環境					教科書 P.419~431	
第10回	新生子管理②	2.新生子のための飼養環境(続き)					教科書 P.420~431	
第11回	新生子管理③	3.新生子の解剖学的特徴					教科書 P.432~437	
第12回	新生子管理④	4.新生子の生理的機能					教科書 P.437~441	
第13回	半期内容振り返り	半期内容のまとめ						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							—	不可(E):59点以下
演習							—	
出席			◎				10	
担当教員	林 弘之			実務経験紹介				

科目名	動物行動学		単位数	1	科目コード	NA2405																																																																								
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期																																																																								
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	—																																																																								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。																																																																													
授業の一般目標	<p>1. 動物行動学の基礎</p> <p>1) 動物行動学の4つの問い(適応・進化・機構・発達)について理解する 2) 行動の進化と適応、家畜化について理解する 3) 生得的行動と学習行動について理解する 4) 脳による行動制御について理解する</p> <p>2. 個体維持行動</p> <p>1) 摂食及び飲水行動について理解する 2) 排泄行動について理解する 3) 身づくろい行動について理解する 4) 護身行動について理解する</p> <p>3. 発達過程と社会行動</p> <p>1) 発達ステージ(新生子期・移行期・社会化期・若年期・成熟期・高齢期)と各時期の行動学的特徴について理解する 2) 生殖行動(性行動・母性行動)について理解する 3) コミュニケーション行動について理解する 4) 敵対行動と親和的行動について理解する</p> <p>4. 学習理論</p> <p>1) 行動形成について理解する 2) 馴化と感作について理解する 3) 古典的条件づけとオペラント条件づけについて理解する 4) 学習に影響を与える因子について理解する 5) 基本的なトレーニング法(トイレットトレーニング、クレートトレーニング、甘噛み対策など)について理解する</p> <p>5. 問題行動</p> <p>1) 問題行動の定義と要因(遺伝的要因、生得的要因、環境要因)について理解する 2) 攻撃行動の種類、原因(動機づけ)と治療法について理解する 3) 恐怖・不安に起因する問題行動の原因と治療法について理解する 4) 不適切な排泄行動の原因(動機づけ)と治療法について理解する 5) 高齢性認知機能不全の原因と臨床徴候、対応について理解する</p> <p>6. 行動治療</p> <p>1) 行動診療の進め方について理解する 2) 行動修正法と環境修正法の種類と適応について理解する 3) 行動治療における薬物療法について理解する</p>																																																																													
受講条件	動物看護科に在籍している																																																																													
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」																																																																													
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 犬猫の種としての行動様式やライフステージにおける特徴を説明できる。 2. しつけやトレーニングの学習理論を説明できる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 自ら疑問点を見出し、追究することができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																																																													
授業計画(全体)	動物行動学の4つの問いについて理解し、個体維持行動、発達過程と社会行動、問題行動、行動治療と予防法を学ぶ。																																																																													
授業計画(授業単位)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>主 題</th> <th>授 業 内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>動物行動学の基本概念</td> <td>動物行動学の4つの分野/行動の進化と適応</td> <td>P3~P14</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>維持行動の意味と効果</td> <td>摂食、飲水行動、排泄行動、身づくろい行動、休憩行動について</td> <td>P17~P26</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>発達過程と社会行動①</td> <td>社会行動とは/生殖行動、犬のコミュニケーション行動について</td> <td>P29~P45</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>発達過程と社会行動②</td> <td>猫のコミュニケーション行動/敵対行動と親和行動について</td> <td>P46~P54</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>行動発現のしくみ</td> <td>行動の動機付けと脳による行動の制御/行動の周期性</td> <td>P57~P70</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>行動の発達</td> <td>行動の発達ステージについて</td> <td>P73~P86</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>行動の学習</td> <td>古典的条件付け、オペラント条件付けについて</td> <td>P87~P96</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>問題行動①</td> <td>問題行動とは/問題行動における動物看護師の役割について</td> <td>P101~P107</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>問題行動②</td> <td>問題行動診療と治療の手順(条件付け)について</td> <td>P109~P122</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>問題行動③</td> <td>問題行動の治療法(薬物療法、不妊手術等)について</td> <td>P123~P132</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>犬と猫における主な問題行動①</td> <td>高齢性認知機能低下の原因と症状と対応について</td> <td>P137~P148</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>犬と猫における主な問題行動②</td> <td>行動診療の進め方/コンサルテーション方法について</td> <td>P151~P160</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>犬と猫における主な問題行動③</td> <td>高齢性認知機能低下の原因と症状と対応について</td> <td>P161~P165</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>授業振り返り/単位認定試験</td> <td>授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける</td> <td>※学生証が必要</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>テスト返し/解説</td> <td>前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	主 題	授 業 内 容	備 考	第1回	動物行動学の基本概念	動物行動学の4つの分野/行動の進化と適応	P3~P14	第2回	維持行動の意味と効果	摂食、飲水行動、排泄行動、身づくろい行動、休憩行動について	P17~P26	第3回	発達過程と社会行動①	社会行動とは/生殖行動、犬のコミュニケーション行動について	P29~P45	第4回	発達過程と社会行動②	猫のコミュニケーション行動/敵対行動と親和行動について	P46~P54	第5回	行動発現のしくみ	行動の動機付けと脳による行動の制御/行動の周期性	P57~P70	第6回	行動の発達	行動の発達ステージについて	P73~P86	第7回	行動の学習	古典的条件付け、オペラント条件付けについて	P87~P96	第8回	問題行動①	問題行動とは/問題行動における動物看護師の役割について	P101~P107	第9回	問題行動②	問題行動診療と治療の手順(条件付け)について	P109~P122	第10回	問題行動③	問題行動の治療法(薬物療法、不妊手術等)について	P123~P132	第11回	犬と猫における主な問題行動①	高齢性認知機能低下の原因と症状と対応について	P137~P148	第12回	犬と猫における主な問題行動②	行動診療の進め方/コンサルテーション方法について	P151~P160	第13回	犬と猫における主な問題行動③	高齢性認知機能低下の原因と症状と対応について	P161~P165	第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要	第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する									
回	主 題	授 業 内 容	備 考																																																																											
第1回	動物行動学の基本概念	動物行動学の4つの分野/行動の進化と適応	P3~P14																																																																											
第2回	維持行動の意味と効果	摂食、飲水行動、排泄行動、身づくろい行動、休憩行動について	P17~P26																																																																											
第3回	発達過程と社会行動①	社会行動とは/生殖行動、犬のコミュニケーション行動について	P29~P45																																																																											
第4回	発達過程と社会行動②	猫のコミュニケーション行動/敵対行動と親和行動について	P46~P54																																																																											
第5回	行動発現のしくみ	行動の動機付けと脳による行動の制御/行動の周期性	P57~P70																																																																											
第6回	行動の発達	行動の発達ステージについて	P73~P86																																																																											
第7回	行動の学習	古典的条件付け、オペラント条件付けについて	P87~P96																																																																											
第8回	問題行動①	問題行動とは/問題行動における動物看護師の役割について	P101~P107																																																																											
第9回	問題行動②	問題行動診療と治療の手順(条件付け)について	P109~P122																																																																											
第10回	問題行動③	問題行動の治療法(薬物療法、不妊手術等)について	P123~P132																																																																											
第11回	犬と猫における主な問題行動①	高齢性認知機能低下の原因と症状と対応について	P137~P148																																																																											
第12回	犬と猫における主な問題行動②	行動診療の進め方/コンサルテーション方法について	P151~P160																																																																											
第13回	犬と猫における主な問題行動③	高齢性認知機能低下の原因と症状と対応について	P161~P165																																																																											
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要																																																																											
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する																																																																												
成績評価方法	<p>単位認定 総合成績60点、出席率80%以上  成績点70%、提出物&amp;授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合</th> <th>成績評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>50</td> <td>秀 (S):100点~90点</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>優 (A):89点~80点</td> </tr> <tr> <td>宿題授業外レポート</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>良 (B):79点~70点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>可 (D):69点~60点</td> </tr> <tr> <td>発表・作品</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>不可(E):59点以下</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点	小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点	宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点	授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点	発表・作品							-	不可(E):59点以下	演習							-		出席			◎				10	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準																																																																						
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点																																																																						
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点																																																																						
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点																																																																						
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点																																																																						
発表・作品							-	不可(E):59点以下																																																																						
演習							-																																																																							
出席			◎				10																																																																							
担当教員	光野 京子		実務経験紹介																																																																											

科目名	動物栄養学 I		単位数	1	科目コード	NA2406		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 「動物栄養学 I」と「動物栄養学 II」の履修を以て、愛玩動物看護師カリキュラム「動物栄養学」の履修となる。 5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	<p>1. 基礎栄養</p> <p>1) 5大栄養素(糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)について理解する 2) 栄養要求の種差(必須アミノ酸、必須脂肪酸など)について理解する 3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する 4) 健康維持における栄養の持つ意味について理解する 5) 栄養素の不足、過剰症について理解する</p> <p>2. 栄養要求量</p> <p>1) エネルギー要求量(RER, MERなど)の意味と計算法について理解する 2) 栄養基準(AAFCO, NRCなど)について理解する 3) ライフステージ(成長期、維持期、妊娠期、授乳期、高齢期)ごとの栄養管理について理解する</p> <p>3. フードと栄養指導</p> <p>1) ペットフードの種類、分類について理解する 2) ペットフードのラベル表示について理解し、飼い主に説明できる 3) 中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる 4) 栄養状態の評価法(BCS、体脂肪測定など)について理解する 5) 肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する</p> <p>4. 疾患と栄養 1) さまざまな疾患時の食事療法について理解する 2) 療法食の特徴と効果を理解し、飼い主に説明できる</p> <p>5. 強制給餌と経管・静脈栄養法 1) 強制給餌の方法と注意点について理解する 2) 経管栄養法の種類(経鼻、食道、胃腸チューブなど)と特徴、方法について理解する 3) 静脈栄養法の種類(TPN, PPN)と特徴、方法について理解する 4) チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する</p>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	大栄養素とその代謝について説明することができる。 2. ライフステージや疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素+水(6大栄養素)を理解し、ライフステージによる栄養管理や疾患別による栄養特性を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物栄養学総論①	6大栄養素 (1. タンパク質、2. 脂肪(脂質))						
第2回	動物栄養学総論②	6大栄養素 (3. 炭水化物、4. ビタミン、5. ミネラル、6. 水)						
第3回	動物栄養学総論③/犬猫の必要栄養素の違い	過剰症と欠乏症/食性の違い						
第4回	ペットフードの表記	ペットフード安全法で規定されている表記						
第5回	ライフステージによる栄養管理①	犬のライフステージについて(成長期、維持期)						
第6回	ライフステージによる栄養管理②	猫のライフステージについて(成長期、維持期) 犬と猫の加齢性変化						
第7回	ライフステージによる栄養管理③	繁殖期・妊娠期・授乳期の栄養管理						
第8回	B C S評価およびカロリー計算	B C Sとは/カロリー計算(食物のカロリー・犬や猫のエネルギー要求量)						
第9回	肥満と消瘦/フードの給与回数、給与方法	肥満と消瘦とは/フードのタイプ: 目的別の分類、給与回数、給与方法						
第10回	手作り食	嗜好性とは/ペットフードの適切な取扱い/手作り食						
第11回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患①)	食事療法食の表記と取扱い/下部尿路疾患とは/猫の特発性膀胱炎						
第12回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患②)	尿路結石について①						
第13回	疾患別による栄養特性(下部尿路疾患③)	尿路結石について②						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/mariyama/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/mariyama/</a>			

科目名	動物栄養学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NA2407		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 「動物栄養学Ⅰ」と「動物栄養学Ⅱ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物栄養学」の履修となる。 5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。							
授業の一般目標	<p>4. 疾患と栄養</p> <p>1)さまざまな疾患時の食事療法について理解する</p> <p>2)療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる</p> <p>5. 強制給餌と経管・静脈栄養法</p> <p>1)強制給餌の方法と注意点について理解する</p> <p>2)経管栄養法の種類(経鼻、食道、胃腸チューブなど)と特徴、方法について理解する</p> <p>3)静脈栄養法の種類(TPN、PPN)と特徴、方法について理解する</p> <p>4)チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する</p>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	疾患別の療法食について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
5大栄養素+水(6大栄養素)を理解し、疾患別による栄養特性、強制給餌と経管・静脈栄養素を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	疾患別による栄養特性(皮膚疾患①)	皮膚疾患の種類/食物アレルギー①						
第2回	疾患別による栄養特性(皮膚疾患②)	食物アレルギー②/犬アトピー性皮膚炎						
第3回	疾患別による栄養特性(肥満)	肥満について						
第4回	疾患別による栄養特性(下痢・猫の便秘)	下痢について/猫の便秘について						
第5回	疾患別による栄養特性(心臓病①)	心臓のしくみ						
第6回	疾患別による栄養特性(心臓病②)	僧帽弁閉鎖不全症とは						
第7回	疾患別による栄養特性(慢性腎臓病①)	腎臓のしくみ						
第8回	疾患別による栄養特性(慢性腎臓病②)	慢性腎臓病について						
第9回	疾患別による栄養特性(肝臓病)	肝臓のしくみ/肝臓病について						
第10回	疾患別による栄養特性(糖尿病)	糖尿病について						
第11回	疾患別による栄養特性(関節疾患)	関節疾患について						
第12回	強制的な給餌方法/経路別の栄養	強制給餌方法/経管・計静脈による栄養の種類と違い						
第13回	中毒物・与えてはいけないもの	犬・猫に危険な、あるいは気をつけたい主な食材とその理由						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/</a>			



科目名	比較動物学		単位数	2	科目コード	NB2408																																																																								
授業形態	講義		対象学生	3年生	開設期	半期																																																																								
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-																																																																								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理方法、実験動物の品種や飼育管理方法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体群管理について学ぶ。																																																																													
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>動物の種類及び特性 <ol style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する</li> <li>産業動物 <ol style="list-style-type: none"> <li>家畜(馬・牛・めん羊・山羊・豚・鶏)の歴史と品種、特徴について理解する</li> <li>各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する</li> <li>各家畜の性周期と繁殖生理について理解する</li> <li>各家畜の飼養施設の概要について理解する</li> <li>各家畜の食性と飼養法について理解する</li> </ol> </li> <li>実験動物 <ol style="list-style-type: none"> <li>動物実験の目的、意義について理解する</li> <li>代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する</li> <li>遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する</li> <li>疾患モデル動物について理解する</li> </ol> </li> <li>野生動物 <ol style="list-style-type: none"> <li>野生動物の分類と生物多様性について理解する</li> <li>鳥獣害の現状と保全の意義について理解する</li> <li>絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する</li> <li>外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する</li> </ol> </li> <li>展示動物 <ol style="list-style-type: none"> <li>展示動物の意義と動物園等の役割について理解する</li> <li>動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する</li> <li>動物園等の施設管理について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>																																																																													
受講条件	愛玩動物学の履修																																																																													
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」																																																																													
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点      産業動物用語について簡単に説明ができる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点      臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点      自ら疑問点を見出し、追究することができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点              主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																																																													
授業計画(全体)	畜産(産業動物)について理解し、家畜の種類と特徴や主要家畜の飼養管理法を学ぶ。																																																																													
授業計画(授業単位)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>主 題</th> <th>授 業 内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>家畜(産業動物)とは</td> <td>産業動物について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>家畜の種類と特徴①</td> <td>馬の歴史と品種、特性について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>家畜の種類と特徴②</td> <td>牛の歴史と品種、特性について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>家畜の種類と特徴③</td> <td>綿羊・山羊の歴史と品種、特性について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>家畜の種類と特徴④</td> <td>豚の歴史と品種、特性について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>家畜の種類と特徴⑤</td> <td>鶏の歴史と品種、特性について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>主要家畜の飼養管理法①</td> <td>各家畜の消化器の形態と機能について①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>主要家畜の飼養管理法②</td> <td>各家畜の消化器の形態と機能について②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>主要家畜の飼養管理法③</td> <td>各家畜の性周期と繁殖整理について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>主要家畜の飼養管理法④</td> <td>各家畜の飼育施設の概要について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>主要家畜の飼養管理法⑤</td> <td>各家畜の飼養法について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>日本の畜産業の実際①</td> <td>日本の酪農産業(酪農業)の概要について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>日本の畜産業の実際②</td> <td>日本の牛肥育業の概要/養豚業の概要について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>授業振り返り/単位認定試験</td> <td>授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける</td> <td>※学生証が必要</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>テスト返し/解説</td> <td>前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	主 題	授 業 内 容	備 考	第1回	家畜(産業動物)とは	産業動物について		第2回	家畜の種類と特徴①	馬の歴史と品種、特性について		第3回	家畜の種類と特徴②	牛の歴史と品種、特性について		第4回	家畜の種類と特徴③	綿羊・山羊の歴史と品種、特性について		第5回	家畜の種類と特徴④	豚の歴史と品種、特性について		第6回	家畜の種類と特徴⑤	鶏の歴史と品種、特性について		第7回	主要家畜の飼養管理法①	各家畜の消化器の形態と機能について①		第8回	主要家畜の飼養管理法②	各家畜の消化器の形態と機能について②		第9回	主要家畜の飼養管理法③	各家畜の性周期と繁殖整理について		第10回	主要家畜の飼養管理法④	各家畜の飼育施設の概要について		第11回	主要家畜の飼養管理法⑤	各家畜の飼養法について		第12回	日本の畜産業の実際①	日本の酪農産業(酪農業)の概要について		第13回	日本の畜産業の実際②	日本の牛肥育業の概要/養豚業の概要について		第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要	第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する									
回	主 題	授 業 内 容	備 考																																																																											
第1回	家畜(産業動物)とは	産業動物について																																																																												
第2回	家畜の種類と特徴①	馬の歴史と品種、特性について																																																																												
第3回	家畜の種類と特徴②	牛の歴史と品種、特性について																																																																												
第4回	家畜の種類と特徴③	綿羊・山羊の歴史と品種、特性について																																																																												
第5回	家畜の種類と特徴④	豚の歴史と品種、特性について																																																																												
第6回	家畜の種類と特徴⑤	鶏の歴史と品種、特性について																																																																												
第7回	主要家畜の飼養管理法①	各家畜の消化器の形態と機能について①																																																																												
第8回	主要家畜の飼養管理法②	各家畜の消化器の形態と機能について②																																																																												
第9回	主要家畜の飼養管理法③	各家畜の性周期と繁殖整理について																																																																												
第10回	主要家畜の飼養管理法④	各家畜の飼育施設の概要について																																																																												
第11回	主要家畜の飼養管理法⑤	各家畜の飼養法について																																																																												
第12回	日本の畜産業の実際①	日本の酪農産業(酪農業)の概要について																																																																												
第13回	日本の畜産業の実際②	日本の牛肥育業の概要/養豚業の概要について																																																																												
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要																																																																											
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する																																																																												
成績評価方法	<p>単位認定 総合成績60点、出席率80%以上  成績点70%、提出物&amp;授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合</th> <th>成績評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>50</td> <td>秀 (S): 100点~90点</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>優 (A): 89点~80点</td> </tr> <tr> <td>宿題授業外レポート</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>良 (B): 79点~70点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>可 (D): 69点~60点</td> </tr> <tr> <td>発表・作品</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>不可 (E): 59点以下</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点	小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点	宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点	授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点	発表・作品							-	不可 (E): 59点以下	演習							-		出席			◎				10	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準																																																																						
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点																																																																						
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点																																																																						
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点																																																																						
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点																																																																						
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下																																																																						
演習							-																																																																							
出席			◎				10																																																																							
担当教員	田邊 眞吾、林 弘之			実務経験紹介																																																																										

科目名	動物看護関連法規		単位数	1	科目コード	NA2409		
授業形態	講義		対象学生	3年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。							
授業の一般目標	1. 法学総論 1)法の体系について理解する 2)獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する 2. 愛玩動物看護師法 1)愛玩動物看護師法の目的・定義等について理解する(免許、試験、業務、罰則を含む。) 3. 獣医療関連行政法規 1)獣医師法の概要について理解する 2)獣医療法の概要について理解する 4. 公衆衛生行政法規 1)感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の概要について理解する 2)狂犬病予防法の概要について理解する 5. 薬事行政法規 1)医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について理解する 2)麻薬及び向精神薬取締法の概要について理解する 3)毒物及び劇物取締法の概要について理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護に関連する法律について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
法学総論を理解し、愛玩動物看護師法や獣医療関連行政法規、公衆衛生行政法規、薬事行政法規といった動物看護を実施する上で必要な法規について学ぶ。 この授業の単位認定試験については「動物愛護・適正飼養関連法規」の試験と同時期に実施。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	法学総論	法の体系/獣医療に関する法規と動物看護師の関わりについて						
第2回	愛玩動物看護師法	獣医師法の概要について						
第3回	獣医療関連行政法規①	獣医師法の概要について						
第4回	獣医療関連行政法規②	獣医療法の概要について						
第5回	公衆衛生行政法規①	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律について						
第6回	公衆衛生行政法規②	狂犬病予防法の概要について						
第7回	薬事行政法規①	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律の概要について						
第8回	薬事行政法規②	麻薬及び向精神薬取締法の概要、毒物及び劇物取締法の概要について						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	藤本 嘉明			実務経験紹介				

科目名	動物愛護・適正飼養関連法規		単位数	1	科目コード	NA2410		
授業形態	講義		対象学生	3年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物学」に位置する授業。 動物の愛護及び適正飼養に関する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。							
授業の一般目標	1. 愛護・適正飼養の基本となる概念 1) 愛護・適正飼養に関する法規と愛玩動物看護師の関わりについて理解する 2. 愛護・適正飼養関連行政法規 1) 動物の愛護及び管理に関する法律の概要について理解する 2) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について理解する 3. 社会福祉行政・環境衛生法規 1) 身体障害者補助犬法について概要を理解する 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について理解する 3) 化製場等に関する法律の概要について理解する 4. 野生動物等に関する法律及び条約 1) 生物多様性の概要について理解する 2) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の概要について理解する 3) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の概要について理解する 4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律の概要について理解する 5) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律の概要について理解する 6) 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約の概要について理解する 7) 自然公園法における野生動植物保護に関する制度を理解する 8) 文化財保護法における飼育動物や野生動物の保護に関する制度を理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5 巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物愛護及び適正飼養に関する法律について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
法学総論を理解し、愛護・適正飼養関連行政法規、社会福祉行政・環境衛生法規、野生動物等に関する法律及び条約といった動物の愛護・適正飼養に必要な法規について学ぶ。 この授業の単位認定試験については「動物看護関連法規」の試験と同時期に実施。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	愛護・適正飼養関連行政法規①	動物の愛護及び管理に関する法律の概要について				P. 305-314		
第2回	愛護・適正飼養関連行政法規②	動物の愛護及び管理に関する法律の概要について						
第3回	愛護・適正飼養関連行政法規③	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律の概要について				P. 315-321		
第4回	社会福祉行政・環境衛生法規①	身体障害者補助犬法の概要について 廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について①				P. 327-339		
第5回	社会福祉行政・環境衛生法規②	廃棄物の処理及び清掃に関する法律の概要について② 化製場等に関する法律の概要について						
第6回	野生動物等に関する法律及び条約	外来生物法、種の保存法、鳥獣保護管理法、ワシントン条約、ラムサール条約等の概要について				P. 343-354		
第7回	授業振り返り/単位認定試験	「動物看護関連法規」「動物愛護・適正飼養関連法規」の授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※本校常勤教員にて対応		
第8回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定：総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	藤本 嘉明			実務経験紹介				

科目名	動物看護学概論			単位数	1	科目コード	NB2401	
授業形態	講義			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業。 獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>動物看護の基本となる概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>動物看護の目的、概念について理解する</li> <li>獣医療と動物看護の歴史について理解する</li> <li>獣医療倫理、動物看護師の倫理綱領について理解する</li> <li>動物にとっての健康・福祉・QOLについて理解する</li> <li>動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する</li> </ol> </li> <li>動物看護の提供体制 <ol style="list-style-type: none"> <li>社会における動物病院の役割について理解する</li> <li>一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する</li> <li>インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する</li> <li>診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務について理解する</li> <li>職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する</li> </ol> </li> <li>愛玩動物看護師の社会的立場 <ol style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物看護師の職能団体について理解する</li> <li>愛玩動物看護師の資格制度と業務範囲、資格認定機関について理解する</li> <li>愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する</li> <li>国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護師の職業倫理について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	動物看護学総論を理解し、動物看護師の倫理や動物看護の提供、動物看護技術の特徴について学ぶ。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	獣医療の歴史と概念	1. 獣医療の歴史～4. 国際的な動物看護師の業務や資格制度の違い					教科書 P.3～16	
第2回	動物看護の役割と概念①	1. 動物看護とは～2. 動物看護における倫理					教科書 P.47～51	
第3回	愛玩動物看護師における倫理綱領①	愛玩動物看護師における倫理綱領(I～IIについて)					教科書 P.47～51	
第4回	愛玩動物看護師における倫理綱領②	愛玩動物看護師における倫理綱領(IIIについて)					教科書 P.47～51	
第5回	愛玩動物看護師における倫理綱領③	愛玩動物看護師における倫理綱領(IVについて・まとめ)					教科書 P.47～51	
第6回	動物看護の役割と概念②	3. 動物にとっての福祉・健康・QOL					教科書 P.51～53	
第7回	動物看護の役割と概念③	4. 看護動物に影響を与える環境要因					教科書 P.54～56	
第8回	動物看護の役割と概念④	5. 動物病院における動物看護師の役割					教科書 P.56～61	
第9回	動物看護の役割と概念⑤	6. 動物看護の探求					教科書 P.61～63	
第10回	獣医療における動物看護学の理論と特徴①	1. 動物看護学理論の成立過程～2. 動物看護学の成立					教科書 P.21～25	
第11回	獣医療における動物看護学の理論と特徴②	2. 動物看護学の成立(続き)～3. 動物看護学と高等教育					教科書 P.23～27	
第12回	動物看護過程概論	動物看護過程					-	
第13回	国家資格 愛玩動物看護師誕生への道のり	2. 動物看護学カリキュラムの構築と愛玩動物看護師の誕生 3. 愛玩動物看護師の職能団体					教科書 P.36～44	
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点～90点
小テスト							20	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習	○	○					-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	動物病理学		単位数	1	科目コード	NB2402		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業。 様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>動物病理学の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義について理解する</li> <li>病理組織標本の作製法について理解する</li> <li>病理組織学的検査の実施手順について理解する</li> </ol> </li> <li>細胞や組織に生じる変化 <ol style="list-style-type: none"> <li>変性と物質沈着について理解する</li> <li>壊死とアポトーシスについて理解する</li> <li>細胞増殖のメカニズム、再生と化生について理解する</li> <li>過形成と肥大について理解する</li> <li>低形成と萎縮について理解する</li> </ol> </li> <li>循環障害 <ol style="list-style-type: none"> <li>充血とうっ血について理解する</li> <li>出血の原因と病態について理解する</li> <li>血栓の成因について理解する</li> <li>虚血と梗塞について理解する</li> <li>浮腫と水腫について理解する</li> <li>ショックの原因と分類、病態について理解する</li> <li>播種性血管内凝固(DIC)の病態について理解する</li> </ol> </li> <li>炎症 <ol style="list-style-type: none"> <li>炎症の定義と5大主徴について理解する</li> <li>炎症の分類と原因と特徴について理解する</li> <li>炎症に関与する細胞と化学伝達物質について理解する</li> <li>炎症の経過と治癒について理解する</li> </ol> </li> <li>腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> <li>腫瘍の定義と分類について理解する</li> <li>腫瘍の原因と発生機序について理解する</li> <li>腫瘍と宿主の関係について理解する</li> <li>腫瘍の転移と進行について理解する</li> </ol> </li> <li>先天異常 <ol style="list-style-type: none"> <li>遺伝子・染色体異常について理解する</li> <li>発生異常と奇形について理解する</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物形態機能学の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各種病理学用語を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	動物病理学を理解し、細胞や組織に生じる変化や循環器障害、炎症、腫瘍、先天異常を学ぶ。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物病理学の基礎①	病理学とは 病理検査技術				教科書 P.3~13		
第2回	動物病理学の基礎②	病因/内因/外因(環境要因)				教科書 P.13~23		
第3回	傷害と細胞死①	1. 代謝障害と変性				教科書 P.27~38		
第4回	傷害と細胞死②	1. 代謝障害と変性(続き)~3. 壊死とアポトーシス				教科書 P.27~43		
第5回	細胞や組織の修復と再生①	1. 細胞増殖のメカニズム~2. 細胞傷害に対する細胞の適応				教科書 P.47~52		
第6回	細胞や組織の修復と再生②	3. 創傷の分類と病的損傷~4. 組織、細胞の修復と再生				教科書 P.47~59		
第7回	循環障害①	1. 血液の循環障害				教科書 P.65~76		
第8回	循環障害②	2. 組織液の循環障害~3. ショック				教科書 P.77~82		
第9回	炎症①	1. 炎症の定義~3. 炎症による形態的变化				教科書 P.85~95		
第10回	炎症②	3. 炎症による形態的变化~5. 急性炎症と慢性炎症				教科書 P.87~100		
第11回	腫瘍①	1. 腫瘍の定義~2. 腫瘍の形態学的特徴				教科書 P.105~108		
第12回	腫瘍②	3. 腫瘍の分類と命名~9. 腫瘍の種類				教科書 P.108~126		
第13回	先天異常	1. 遺伝子・染色体異常~2. 発生異常と奇形				教科書 P.129~136		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤邊 厚太			実務経験紹介				

科目名	動物薬理学 I		単位数	1	科目コード	NB2403		
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業 「動物薬理学 I」と「動物薬理学 II」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物薬理学」の履修となる。 代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>動物薬理学の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する</li> <li>薬理作用とその発現機構について理解する</li> <li>薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)と半減期、耐性について理解する</li> <li>薬物間相互作用について理解する</li> <li>副作用と中毒について理解する</li> </ol> </li> <li>愛玩動物看護師による薬物の取扱い <ol style="list-style-type: none"> <li>獣医師による投薬量計算について理解する</li> <li>各種投薬法(投与経路)を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる</li> <li>薬物の適切な管理方法について理解する</li> </ol> </li> <li>神経系に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する</li> <li>鎮痛薬について理解する</li> <li>運動神経系に作用する薬について理解する</li> <li>鎮静薬と抗けいれん薬について理解する</li> <li>問題行動の治療に用いられる薬について理解する</li> </ol> </li> <li>呼吸器系に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>呼吸興奮薬について理解する</li> <li>鎮咳薬について理解する</li> <li>気管支拡張薬について理解する</li> </ol> </li> <li>循環器・泌尿器に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>血管拡張薬(降圧薬)について理解する</li> <li>心不全治療薬(強心薬)について理解する</li> <li>抗不整脈薬について理解する</li> <li>利尿薬について理解する</li> </ol> </li> <li>消化器に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>制吐薬について理解する</li> <li>制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する</li> <li>消化管運動調節薬について理解する</li> <li>止瀉薬について理解する</li> <li>瀉下薬について理解する</li> <li>肝疾患の治療に用いられる薬物について理解する</li> <li>酵素薬について理解する</li> <li>オータコイド、代謝・内分泌系の薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>代表的なオータコイドについて理解する</li> <li>糖尿病治療薬について理解する</li> <li>甲状腺ホルモン製剤について理解する</li> <li>ステロイドホルモン製剤について理解する</li> </ol> </li> <li>血液・免疫系に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>抗血栓薬について理解する</li> <li>血液凝固抑制薬について理解する</li> <li>血液凝固促進薬(止血薬)について理解する</li> <li>非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)について理解する</li> <li>免疫抑制薬について理解する</li> </ol> </li> <li>感染症の治療、予防に用いられる薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>抗真菌薬について理解する(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)</li> <li>抗真菌薬について理解する</li> <li>駆虫薬について理解する</li> <li>殺虫薬について理解する</li> <li>消毒薬について理解する</li> </ol> </li> <li>悪性腫瘍の治療に用いられる薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>抗がん剤について理解する(作用機序による分類)</li> </ol> </li> </ol> </li></ol>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物薬理学の基礎を理解し、動物看護師による薬物の取り扱いや神経系に作用する薬物について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	愛玩動物看護師による薬物の取り扱い	1. 薬理学概論～3. 医薬品の開発				教科書 P.141～149		
第2回	動物薬理学の基礎①	1. 薬と薬理作用～3. 薬の剤形と投与方法(計算)				教科書 P.153～162		
第3回	動物薬理学の基礎②	4. 生体内での薬の動態(吸収、分布、代謝、排泄)				教科書 P.162～168		
第4回	動物薬理学の基礎③	5. 薬効に影響を与える因子～6. 薬の有害作用				教科書 P.168～177		
第5回	神経系に作用する薬①	1. 神経系の基本的事項				教科書 P.185～200		
第6回	神経系に作用する薬②	2. 全身麻酔薬～3. 局所麻酔薬				教科書 P.201～208		
第7回	神経系に作用する薬③	4. 鎮痛薬～5. 骨格筋弛緩薬				教科書 P.209～215		
第8回	神経系に作用する薬④	6. 鎮静薬、抗痙攣薬～7. 問題行動の治療薬				教科書 P.215～219		
第9回	呼吸器系に作用する薬①	1. 呼吸興奮薬～2. 鎮咳薬				教科書 P.229～232		
第10回	呼吸器系に作用する薬②	2. 鎮咳薬(続き)～3. 抗喘息薬(気管支拡張薬)				教科書 P.231～235		
第11回	循環器・泌尿器に作用する薬①	1. 血管拡張薬(降圧薬)～2. 心不全治療薬(強心薬)				教科書 P.241～249		
第12回	循環器・泌尿器に作用する薬②	3. 抗不整脈薬～4. 利尿薬、5. 抗利尿薬				教科書 P.249～257		
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	単位認定試験	授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤辺 厚太			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/</a>			

科目名	動物薬理学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2404		
授業形態	講義		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業 「動物薬理学Ⅰ」と「動物薬理学Ⅱ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物薬理学」の履修となる。 代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>動物薬理学の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する</li> <li>薬理作用とその発現機構について理解する</li> <li>薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)と半減期、耐性について理解する</li> <li>薬物間相互作用について理解する</li> <li>副作用と中毒について理解する</li> </ol> </li> <li>愛玩動物看護師による薬物の取扱い <ol style="list-style-type: none"> <li>獣医師による投薬量計算について理解する</li> <li>各種投薬法(投与経路)を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる</li> <li>薬物の適切な管理方法について理解する</li> </ol> </li> <li>神経系に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>全身麻酔薬と局所麻酔薬について理解する</li> <li>鎮痛薬について理解する</li> <li>運動神経系に作用する薬について理解する</li> <li>鎮静薬と抗けいれん薬について理解する</li> <li>問題行動の治療に用いられる薬について理解する</li> </ol> </li> <li>呼吸器系に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>呼吸器薬について理解する</li> <li>鎮咳薬について理解する</li> <li>気管支拡張薬について理解する</li> </ol> </li> <li>循環器・泌尿器に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>血管拡張薬(降圧薬)について理解する</li> <li>心不全治療薬(強心薬)について理解する</li> <li>抗不整脈薬について理解する</li> <li>利尿薬について理解する</li> </ol> </li> <li>消化器に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>制吐薬について理解する</li> <li>制酸薬と胃粘膜保護薬について理解する</li> <li>消化管運動調節薬について理解する</li> <li>止瀉薬について理解する</li> <li>瀉下薬について理解する</li> <li>肝・膵疾患の治療に用いられる薬物について理解する</li> <li>膵酵素製剤について理解する</li> </ol> </li> <li>オータコイド、代謝・内分泌系の薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>代表的なオータコイドについて理解する</li> <li>糖尿病治療薬について理解する</li> <li>甲状腺ホルモン製剤について理解する</li> </ol> </li> <li>ステロイドホルモン製剤について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>血液・免疫系に作用する薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>抗貧血症について理解する</li> <li>血液凝固抑制薬について理解する</li> <li>血液凝固促進薬(止血薬)について理解する</li> <li>非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)について理解する</li> <li>免疫抑制薬について理解する</li> </ol> </li> <li>感染症の治療、予防に用いられる薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>抗菌薬について理解する(作用機序による分類、抗菌スペクトルなど)</li> <li>抗真菌薬について理解する</li> <li>駆虫薬について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>悪性腫瘍の治療に用いられる薬物 <ol style="list-style-type: none"> <li>抗悪性腫瘍薬について理解する(作用機序による分類)</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物薬理学Ⅰの単位履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 2巻」							
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 薬物の体内動態と作用機序を説明することができる。2. 代表的な薬物の作用・副作用を説明できる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 自ら疑問点を見出し、追究することができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点							
授業計画(全体)	動物薬理学の基礎を理解し、循環器・泌尿器に作用する薬物や消化器に作用する薬物、オータコイド、代謝・内分泌系の薬物、血液・免疫系に作用する薬物・化学療法薬について学ぶ。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	消化器に作用する薬①	1. 制吐薬と催吐薬～3. 消化管運動促進(調整薬) および抑制薬(鎮痙薬)	教科書 P.261～268					
第2回	消化器に作用する薬物②	4. 止瀉(制瀉)薬～6. 肝・膵疾患の治療薬	教科書 P.268～273					
第3回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬①	1. オータコイドとは	教科書 P.279～289					
第4回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬②	2. 抗炎症薬～3. 糖尿病治療薬	教科書 P.289～296					
第5回	オータコイド、内分泌・代謝系の薬③	4. 甲状腺機能障害の治療薬～6. 骨代謝異常の治療薬	教科書 P.297～301					
第6回	血液に作用する薬	1. 貧血の発生機序と抗貧血症～3. 血液凝固促進薬(止血薬)	教科書 P.305～317					
第7回	免疫系に作用する薬	1. 免疫に影響を与える薬～2. ワクチン	教科書 P.321～327					
第8回	化学療法薬①	1. 抗腫瘍薬	教科書 P.331～336					
第9回	化学療法薬②	2. 抗菌薬・抗真菌薬①	教科書 P.336～343					
第10回	化学療法薬③	2. 抗菌薬・抗真菌薬②	教科書 P.336～343					
第11回	化学療法薬④	3. 駆虫薬・抗原虫薬～4. 殺虫薬	教科書 P.343～349					
第12回	化学療法薬⑤	5. 消毒薬	教科書 P.349～353					
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	単位認定試験	授業内にて前期末試験を受ける		※学生証が必要				
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	澤田 厚太			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/sawabe/</a>			

科目名	動物感染症学Ⅰ		単位数	1	科目コード	NB2405		
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業「動物感染症学Ⅰ」と「動物感染症学Ⅱ」、「動物感染症学Ⅲ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物感染症学」の履修となる。微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。							
授業の一般目標	<p>1. 微生物の分類と特徴</p> <p>1) 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2) ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 3) 真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</p> <p>2. 微生物検査</p> <p>1) 検体採取と取扱いについて理解する 2) 無菌環境下での必要な手技について理解する 3) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する 4) 微生物培養法について理解する 5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法(PCR検査含む。)について理解する 6) 薬剤感受性試験について理解する</p> <p>3. 寄生虫の分類と特徴</p> <p>1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 2) 蠕虫(吸虫、条虫、線虫)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 3) 衛生動物(ダニ、ノミなど)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する 5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する</p> <p>4. 動物感染症</p> <p>1) 病原体の感染経路と伝播様式について理解する 2) 感染症の成立要因について理解する 3) 主な感染症(動物臨床看護学各論の代表的な疾患を参照)の症状、治療法、予防法について理解する</p> <p>5. 免疫学の基礎と応用</p> <p>1) 免疫担当細胞とその役割について理解する 2) 自然免疫と獲得免疫について理解する 3) 液性免疫と細胞性免疫について理解する 4) アレルギー(Ⅰ～Ⅴ型)と自己免疫疾患について理解する 5) ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する</p>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物感染症の概論、微生物について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物感染症学総論を理解し、感染の発症・経路や細菌について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	序論 ウイルス学総論①	1. 微生物、感染症および微生物学の歴史 1. ウイルスの分類～4. ウイルスの伝播			教科書 P. 3～24			
第2回	ウイルス学総論②	1. ウイルスの分類～4. ウイルスの伝播(続き)			教科書 P. 9～24			
第3回	細菌学総論①	1. 細菌の分類～3. 細菌の増殖・代謝			教科書 P. 29～45			
第4回	細菌学総論②	4. 細菌の遺伝子～5. 細菌の感染・発症			教科書 P. 46～58			
第5回	真菌学総論	1. 真菌の分類と特徴～4. 人獣共通感染症としての真菌			教科書 P. 63～71			
第6回	プリオン総論 微生物検査法①	1. プリオン病 1. 微生物検査におけるバイオセーフティ			教科書 P. 75～76 教科書 P. 79～86			
第7回	微生物検査法②	2. 滅菌と消毒～3. ウイルス検査法			教科書 P. 87～99			
第8回	微生物検査法③	4. 細菌検査法～8. PCR検査法			教科書 P. 100～113			
第9回	免疫応答の異常	1. 自己免疫による疾患～3. 移植における免疫反応			教科書 P. 119～129			
第10回	動物感染症①	1. 病原体の感染経路と伝播様式～2. 感染症の成立と統御要因			教科書 P. 133～140			
第11回	動物感染症②	3. 感染症と病原体および生体防御機構			教科書 P. 140～151			
第12回	動物感染症③	4. ワクチンの原理と種類～6. 抗生薬と薬剤耐性菌			教科書 P. 151～160			
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ			-			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する			-			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	服部 孝二			実務経験紹介				



科目名	動物感染症学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2306		
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業「動物感染症学Ⅰ」と「動物感染症学Ⅱ」、「動物感染症学Ⅲ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物感染症学」の履修となる。微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。							
授業の一般目標	<p>1. 微生物の分類と特徴</p> <p>1) 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 2) ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する 3) 真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</p> <p>2. 微生物検査</p> <p>1) 検体採取と取扱いについて理解する 2) 無菌環境下での必要な手技について理解する 3) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する 4) 微生物培養法について理解する 5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法(PCR検査含む。)について理解する 6) 薬剤感受性試験について理解する</p> <p>3. 寄生虫の分類と特徴</p> <p>1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 2) 蠕虫(吸虫、条虫、線虫)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 3) 衛生動物(ダニ、ノミなど)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する 4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する 5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する</p> <p>4. 動物感染症</p> <p>1) 病原体の感染経路と伝播様式について理解する 2) 感染症の成立要因について理解する 3) 主な感染症(動物臨床看護学各論の 3.代表的な疾患を参照)の症状、治療法、予防法について理解する 4) 消毒、滅菌法について理解する 5) 院内感染の予防対策について理解する</p> <p>5. 免疫学の基礎と応用</p> <p>1) 免疫担当細胞とその役割について理解する 2) 自然免疫と獲得免疫について理解する 3) 液性免疫と細胞性免疫について理解する 4) アレルギー(I～V型)と自己免疫疾患について理解する 5) ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する</p>							
受講条件	動物感染症学Ⅰの履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物感染症の内部寄生虫、外部寄生虫について説明ができる。2. 犬猫の代表的な感染症をそれぞれ説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物感染症学総論を理解し、ウイルス・細菌、真菌が原因となる犬猫の代表的な感染症について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	感染症の制御・制圧	1. 農林水産省行政による動物感染症対策 2. 厚生労働省行政による動物由来感染症対策				教科書 P.165～173		
第2回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ①	【ウイルス病】 1. 狂犬病～3. 伝染性肝炎				教科書 P.177～185		
第3回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ②	【ウイルス病】 4. 伝染性気管気管支炎(ケンネルコフ)～7. 犬コロナウイルス感染症				教科書 P.185～189		
第4回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ③	【ウイルス病】 8. 猫ウイルス性鼻気管炎～10. 猫汎白血球減少症(猫ヘルペスウイルス感染症)				教科書 P.190～197		
第5回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ④	【ウイルス病】11. 猫白血球ウイルス感染症～14. 猫のSFTS 【細菌病】1. レプトスピラ症～2. ブルセラ症				教科書 P.197～205 教科書 P.206～210		
第6回	感染症学各論 -犬と猫の感染症- ⑤	【細菌病】3. クラミジア症～4. 猫のヘモプラズマ症(赤血球マイコプラズマ症) 【真菌病】1. 皮膚糸状菌症				教科書 P.211～217		
第7回	感染症学各論 -産業動物の感染症- ①	【ウイルス病】1. 口蹄疫～4. アカバネ病				教科書 P.223～232		
第8回	感染症学各論 -産業動物の感染症- ②	【ウイルス病】5. 豚流行性下痢～8. 高病原性鳥インフルエンザ				教科書 P.232～243		
第9回	感染症学各論 -産業動物の感染症- ③	【細菌病】1. 乳房炎～4. 炭疽 【プリオン病】序論～2. 牛海綿状脳症				教科書 P.243～259		
第10回	感染症学各論 -実験動物の感染症- ①	序論 【ウイルス病】1. センダイウイルス感染症～5. ハンタウイルス感染症				教科書 P.263～271		
第11回	感染症学各論 -実験動物の感染症- ② -イキ/チクハットと野生動物の感染症- ①	【細菌病】4. サルモネラ症～4. ネズミコリネ菌症 序論～【ウイルス病】3. ニホモカガのハノカウイルス感染症(伝染性膿疱性皮膚炎)				教科書 P.271～277 教科書 P.281～288		
第12回	感染症学各論 -イキ/チクハットと野生動物の感染症- ②	【細菌病】1. ケットバ(増殖性回腸炎)～5. 飼育下野生動物のエンコ症 【真菌病】1. マガバケリムシ～2. 鳥類のアスペルギルシ症				教科書 P.289～297		
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ				-		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	服部 孝二			実務経験紹介				

科目名	動物感染症学Ⅲ		単位数	1	科目コード	NB2407		
授業形態	講義		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業 「動物感染症学Ⅰ」「動物感染症学Ⅱ」「動物感染症学Ⅲ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物感染症学」の履修となる。 微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病メカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。 感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物の分類と特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</li> <li>2) ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</li> <li>3) 真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性について理解する</li> </ol> </li> <li>2. 微生物検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 検体採取と取扱いについて理解する</li> <li>2) 無菌環境下での必要な手技について理解する</li> <li>3) 微生物染色法、顕微鏡による観察法について理解する</li> <li>4) 微生物培養法について理解する</li> <li>5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法(PCR検査含む。)について理解する</li> <li>6) 薬剤感受性試験について理解する</li> </ol> </li> <li>3. 寄生虫の分類と特徴 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 原虫の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</li> <li>2) 蟻虫(吸虫、条虫、線虫)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</li> <li>3) 衛生動物(ダニ、ノミなど)の分類、形態、生活環及び病原性について理解する</li> <li>4) 寄生虫疾患の検査、診断法について理解する</li> <li>5) 駆虫薬や駆除剤の使用法について理解する</li> </ol> </li> <li>4. 動物感染症 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病原体の感染経路と伝播様式について理解する</li> <li>2) 感染症の成立要因について理解する</li> <li>3) 主な感染症(動物臨床看護学各論の代表的な疾患を参照)の症状、治療法、予防法について理解する</li> <li>4) 消毒、滅菌法について理解する</li> <li>5) 院内感染の予防対策について理解する</li> </ol> </li> <li>5. 免疫学の基礎と応用 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 免疫担当細胞とその役割について理解する</li> <li>2) 自然免疫と獲得免疫について理解する</li> <li>3) 液性免疫と細胞性免疫について理解する</li> <li>4) アレルギー(I～V型)と自己免疫疾患について理解する</li> <li>5) ワクチンの原理と種類、接種プログラムについて理解する</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物感染症学Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD PRESS出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 3巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ワクチンについて説明できる。2. 感染症予防における滅菌・消毒の重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物感染症学総論を理解し、寄生虫や犬猫の代表的な感染症について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物寄生虫学総論	1. 歴史～9. 寄生虫症の治療と看護・ケアおよび予防対策				教科書 P. 301～309		
第2回	原虫類①	1. 総論～4. トリコモナス				教科書 P. 313～319		
第3回	原虫類②	5. トリパノソーマ～9. プロプラズマ類				教科書 P. 320～333		
第4回	蟻虫類①	【総論】 1. 形態～3. 分類 【線虫類】 1. 総論～2. 回虫類(犬・猫・豚回虫)				教科書 P. 337～345		
第5回	蟻虫類②	【線虫類】 3. ギョウ虫類～5. 鉤虫類				教科書 P. 346～351		
第6回	蟻虫類③	【線虫類】 6. 糞線虫類～7. 広東住血線虫、犬糸状虫				教科書 P. 351～354、 P. 358～360		
第7回	蟻虫類④	【線虫類】 11. 東洋眼虫～14. 治療、看護、ケアおよび予防策				教科書 P. 358～366		
第8回	蟻虫類⑤	【吸虫類】 1. 総論～9. 治療、看護、ケアおよび予防策				教科書 P. 367～379		
第9回	蟻虫類⑥	【条虫類】 1. 総論～6. 治療、看護、ケアおよび予防策				教科書 P. 380～395		
第10回	衛生動物①	1. 総論～3. シラミ・ハジラミ類				教科書 P. 403～420		
第11回	衛生動物②	4. ノミ類～5. 双翅類				教科書 P. 420～429		
第12回	寄生虫症の診断と検査	1. 総論～8. 免疫診断法・遺伝子診断法				教科書 P. 435～452		
第13回	半期振り返り	半期の内容のまとめ						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	服部 孝二			実務経験紹介				

科目名	公衆衛生学 I		単位数	1	科目コード	NB2408		
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業 「公衆衛生学 I」と「公衆衛生学 II」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「公衆衛生学」の履修となる。 環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。							
授業の一般目標	<p>1. 公衆衛生の概要</p> <p>1) 公衆衛生の目的について理解する 2) 公衆衛生行政について理解する 3) 国民衛生の動向について理解する 4) One Healthと獣医療の関係について理解する</p> <p>2. 疫学と疾病予防</p> <p>1) 感染の成立について理解する 2) 疾病・健康障害の発生要因について理解する 3) 疫学調査法について理解する 4) 予防疫学について理解する</p> <p>5) 人獣共通感染症とその対策について理解する 6) 狂犬病予防について理解する</p> <p>3. 環境衛生</p> <p>1) 環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する 2) 化学物質によってもたらされる健康障害について理解する 3) 放射線による汚染と障害について理解する 4) 衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する 5) 動物の放牧による人への健康障害について理解する 6) 廃棄物の取扱いについて理解する</p> <p>4. 食品衛生</p> <p>1) 食品衛生と食中毒について理解する 2) 動物性食品の衛生について理解する 3) 食品衛生管理手法(HACCPなど)について理解する</p>							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	主な人獣共通感染症の感染経路や予防方法を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
公衆衛生総論を理解し、動物公衆衛生を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	愛玩動物看護師と公衆衛生	公衆衛生の目的、公衆衛生行政と獣医師、国民衛生の動向、愛玩動物看護師と公衆衛生				教科書P. 3～16		
第2回	食品衛生①	食品衛生法				教科書P. 127～131		
第3回	食品衛生②	食中毒①(細菌性食中毒)				教科書P. 132～141		
第4回	食品衛生③	食中毒②(ウイルス性食中毒～カビ毒による食中毒)				教科書P. 141～145		
第5回	食品衛生④	食品とアレルギー、動物性食品の衛生				教科書P. 145～150		
第6回	食品衛生④	食品の保存方法、食品安全行政の動向				教科書P. 151～155		
第7回	食品衛生⑤	食品由来の健康危害防止				教科書P. 155～160		
第8回	環境衛生①	環境衛生とは地球規模の環境問題				教科書P. 171～181		
第9回	環境衛生②	水の衛生				教科書P. 181～191		
第10回	環境衛生③	生活環境問題				教科書P. 191～197		
第11回	環境衛生④	廃棄物問題				教科書P. 197～203		
第12回	環境衛生⑤	衛生動物				教科書P. 204～207		
第13回	半期振り返り	半期の内容まとめ						
第14回	単位認定試験	授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	藤本 嘉明			実務経験紹介				

科目名	公衆衛生学Ⅱ		単位数	1	科目コード	NB2409		
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「基礎動物看護学」に位置する授業 「公衆衛生学Ⅰ」と「公衆衛生学Ⅱ」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「公衆衛生学」の履修となる。 環境および食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。							
授業の一般目標	1. 公衆衛生の概要 1) 公衆衛生の目的について理解する 2) 公衆衛生行政について理解する 3) 国民衛生の動向について理解する 4) One Healthと獣医療の関係について理解する 2. 疫学と疾病予防 1) 感染の成立について理解する 2) 疾病・健康障害の発生要因について理解する 3) 疫学調査法について理解する 4) 予防疫学について理解する 5) 人獣共通感染症とその対策について理解する 6) 狂犬病予防について理解する 3. 環境衛生 1) 環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する 2) 化学物質によってもたらされる健康障害について理解する 3) 放射線による汚染と障害について理解する 4) 衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する 5) 動物の飼育による人への健康障害について理解する 6) 廃棄物の取扱いについて理解する 4. 食品衛生 1) 食品衛生と食中毒について理解する 2) 動物性食品の衛生について理解する 3) 食品衛生管理手法(HACCPなど)について理解する							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 5巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 公衆衛生学各種用語について簡単に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
公衆衛生総論を理解し、人獣共通感染症や新興感染症と再興感染症、疫学を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	疫病と疾病予防	疫学とは～サーベイランスについて				教科書P. 19～32		
第2回	人獣共通感染症（動物由来感染症）①	病原体等に対する安全対策 ウイルス性人獣共通感染症① 1. ラッサ熱～4. クリミア・コンゴ熱				教科書P. 37～51		
第3回	人獣共通感染症（動物由来感染症）②	ウイルス性人獣共通感染症② 5. 南米出血熱～13. リフトバレー熱				教科書P. 51～58		
第4回	人獣共通感染症（動物由来感染症）③	ウイルス性人獣共通感染症③ 14. ハンタウイルス感染症～22. 新型コロナウイルス感染症				教科書P. 58～69		
第5回	人獣共通感染症（動物由来感染症）④	細菌性人獣共通感染症① 1. ペスト～6. 細菌性赤痢				教科書P. 69～75		
第6回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑤	細菌性人獣共通感染症② 7. サルモネラ症～12. レプトスピラ症				教科書P. 75～80		
第7回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑥	細菌性人獣共通感染症③ 13. カンビロバクター症～18. 紅斑熱群リケッチア症				教科書P. 76～84		
第8回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑦	細菌性人獣共通感染症④ 19. つつが虫～20. オウム病 真菌性人獣共通感染症 1. 皮膚糸状菌症～2. クリプトコッカス症				教科書P. 84～87		
第9回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑧	寄生虫① 原虫性人獣共通感染症、線虫、吸虫、糸虫類等による人獣共通感染症（線虫）				教科書P. 88～93		
第10回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑨	寄生虫② 線虫、吸虫、糸虫類等による人獣共通感染症（吸虫～外部寄生虫）				教科書P. 93～99		
第11回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑩	新興感染症と再興感染症				教科書P. 100～107		
第12回	人獣共通感染症（動物由来感染症）⑪	狂犬病予防の重要性				教科書P. 107～120		
第13回	半期振り返り	半期の内容まとめ						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	藤本 嘉明			実務経験紹介				

科目名	動物内科看護学 I		単位数	1	科目コード	NC2401		
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「臨床動物看護学」に位置する授業 「動物内科看護学 I」と「動物内科看護学 II」の履修を以って、愛玩動物看護師カリキュラム「動物内科看護学」の履修となる。 犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康の保持・増進 <ol style="list-style-type: none"> <li>健康診断の内容と目的について理解する</li> <li>診療補助に必要な技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>診察における愛玩動物看護師の役割について理解する</li> <li>診察室の準備と衛生管理について理解する</li> <li>動物種ごとの適切な接し方について理解する</li> <li>保定の基本的な原理、目的、方法について理解する</li> <li>身体検査・アセスメント項目(体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間(GRT)、浅在リンパ節など)について理解する</li> </ol> </li> <li>検査・処置に必要な技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>注射器の取扱い及び管理方法について理解する</li> <li>採血の目的と方法について理解する</li> <li>採尿の目的と方法(穿刺、カテーテル導尿など)について理解する</li> <li>穿刺と吸引について理解する</li> <li>各種カテーテル挿入について理解する</li> <li>酸素吸入について理解する</li> <li>マイクロチップの挿入について理解する</li> </ol> </li> <li>投薬に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>薬の処方について理解する</li> <li>内服薬の使用法について理解する</li> <li>薬剤の注射法について理解する</li> <li>外用薬の使用法、薬浴の実施法について理解する</li> <li>投薬前後の注意事項について理解する</li> </ol> </li> <li>輸液に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>輸液の適応とリスクについて理解する</li> <li>輸液計画について理解する</li> <li>各種輸液剤の特性や適応について理解する</li> <li>輸液中のモニタリングについて理解する</li> </ol> </li> <li>輸血に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>輸血の適応とリスクについて理解する</li> <li>輸血計画について理解する</li> <li>クロスマッチ試験と血液型について理解する</li> <li>各種輸血剤の適応や特性について理解する</li> </ol> </li> <li>輸血に関わる手技について理解する</li> <li>輸血による副反応について理解する</li> <li>心電図と血圧に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>心電図検査の目的と意義について理解する</li> <li>心電図検査の実施方法について理解する</li> <li>血圧測定の方法と意義、注意点について理解する</li> </ol> </li> <li>X線検査とCT/MRIに関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>X線検査の目的と意義について理解する</li> <li>放射線防護について理解する</li> <li>X線検査の実施方法と撮影体位について理解する</li> <li>造影検査と透視検査について理解する</li> <li>フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する</li> <li>CT及びMRIの概要について理解する</li> </ol> </li> <li>超音波検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する</li> <li>Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する</li> </ol> </li> <li>内視鏡検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>内視鏡検査の目的と意義について理解する</li> <li>内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する</li> <li>スコープの洗浄・消毒法について理解する</li> </ol> </li> <li>神経学的検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>姿勢反応と脊髄反射について理解する</li> <li>脳神経の検査法について理解する</li> <li>神経学的検査の評価記録法について理解する</li> </ol> </li> <li>眼科検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>シムマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する</li> <li>眼圧測定の方法と意義について理解する</li> <li>眼底検査の方法と意義について理解する</li> </ol> </li> <li>皮膚と耳の検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>皮膚病変の観察と記録法について理解する</li> <li>皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する</li> <li>ウッド灯検査と真菌培養法について理解する</li> <li>外耳道の検査方法と意義について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li></ol>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 犬猫の健康管理について説明することができる。2. 内科診療の補助に必要な基礎知識を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物の保持・増進や診察補助に必要な技術、投薬・輸液に関わる技術を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物内科看護学 I について	授業概要・院内での動物看護師の業務						
第2回	カルテ作成	カルテの見方(予防歴・既往歴)・飼い主様への手紙の書き方						
第3回	院内での動物とのかかわり方①	モデル犬の扱い(キャリーケースからの出し方・診察台の上での動物の扱い・保定法)						
第4回	院内での動物とのかかわり方②	モデル犬の扱い(一般身体検査総論・聴診器の取り扱い)						
第5回	院内での動物とのかかわり方③	一般身体検査(頭部・眼・体幹)、電法						
第6回	院内での動物とのかかわり方④	動物へのアプローチ、一般身体検査(頭部・眼)						
第7回	保定方法・採血について①	保定法(立位・座位・伏臥位・横臥位・仰臥位)採血時の補助、採血部位						
第8回	保定方法・採血について②	モデル犬の実習について(バイタルサインチェック、保定法、採血保定)						
第9回	保定方法・採血について③	モデル犬の実習について(バイタルサインチェック、保定法、採血保定)						
第10回	動物の状態評価①、マイクロチップ	栄養状態の管理・評価、嗜好性栄養管理(フードの表示・必要エネルギー量の計算)、マイクロチップ						
第11回	検査・処置の介助に必要な技術①	注射器の取り扱い(注射針・シリンジ・アンプル・バイアル)、輸液ポンプの使用法						
第12回	検査・処置の介助に必要な技術②	輸液療法について(輸液剤の種類、輸液療法中の観察)						
第13回	入院管理	入院室準備、入院・退院手続き						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	高橋 佳代子			実務経験紹介				

科目名	動物内科看護学Ⅱ		単位数	2	科目コード	NC2402		
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「臨床動物看護学」に位置する授業「動物内科看護学Ⅰ」と「動物内科看護学Ⅱ」の履修を以て、愛玩動物看護師カリキュラム「動物内科看護学」の履修となる。犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康の保持・増進 <ol style="list-style-type: none"> <li>健康診断の内容と目的について理解する</li> <li>診療補助に必要な技術</li> </ol> </li> <li>診察における愛玩動物看護師の役割について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 診察室の準備と衛生管理について理解する</li> </ol> </li> <li>動物種ごとの適切な接し方について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>4) 保定の基本的な原理、目的、方法について理解する</li> </ol> </li> <li>身体検査・アセスメント項目(体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間(GRT)、浅在リンパ節など)について理解する</li> <li>検査・処置に必要な技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 注射器の取扱い及び管理方法について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 採血の目的と方法について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 採尿の目的と方法(穿刺、カテーテル導尿など)について理解する</li> </ol> </li> <li>4) 穿刺と吸引について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 各種カテーテル挿入について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>6) 酸素吸入について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>7) マイクロチップの挿入について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4) 投薬に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬の処方について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 内服薬の使用法について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 薬剤の注射法について理解する</li> </ol> </li> <li>4) 外用薬の使用法、美浴の実施法について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 投薬前後の注意事項について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5) 輸液に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 輸液の適応とリスクについて理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 輸液計画について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 各種輸液剤の特性や適応について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>4) 輸液中のモニタリングについて理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>6) 輸血に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 輸血の適応とリスクについて理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 輸血計画について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) クロスマッチ試験と血液型について理解する</li> </ol> </li> <li>4) 各種輸血剤の適応や特性について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 輸血に関わる手技について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>6) 輸血による副反応について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>7) 心電図と血圧に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心電図検査の目的と意義について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 心電図検査の実施方法について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 血圧測定の方法と意義、注意点について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>8) X線検査とCT/MRIに関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) X線検査の目的と意義について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 放射線防護について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) X線検査の実施方法と撮影体位について理解する</li> </ol> </li> <li>2) 造影検査と造影剤について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>5) フィルムの現像とデジタルX線撮影について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>6) CT及びMRIの概要について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>9) 超音波検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 超音波検査の目的と実施方法、保定体位について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) Bモード、Mモード、ドップラー法について理解する</li> </ol> </li> <li>10) 内視鏡検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 内視鏡検査の目的と意義について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 内視鏡検査の実施方法、準備事項について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) スコープの洗浄・消毒法について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>11) 神経学的検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 姿勢反応と背腹反射について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 脳神経の検査法について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 神経学的検査の評価記録法について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>12) 眼科検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 眼圧測定の方法と意義について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 眼底検査の方法と意義について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>13) 皮膚と耳の検査に関わる技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 皮膚病変の観察と記録法について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検について理解する</li> <li>3) ウッド灯検査と真菌培養法について理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>4) 外耳道の検査方法と意義について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol> </li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol></li></ol>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬猫の健康管理について説明することができる。2. 内科診療の補助に必要な基礎知識を説明することができる。</li> </ol> <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。</li> </ol> <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら疑問点を見出し、追究することができる。</li> </ol> <input type="checkbox"/> 態度の観点 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。</li> </ol> <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点							
授業計画(全体)	動物の保持・増進や診察補助に必要な技術、投薬・輸液に関わる技術を学ぶ。							
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容	備考					
第1~2回	動物内科看護学Ⅰ振り返り	動物内科看護学Ⅰ内容の総復習						
第3~4回	投薬に関わる技術	投薬に際して確認すべき項目～投与方法とその介助、調剤手順						
第5~8回	輸血に関わる技術	輸血とは(輸血療法の看護、輸血の手順、ドナー・レシピエントについて)						
第7~8回	生体検査における保定方法①	モデル犬の扱い(各種生体検査保定法・一般身体検査)						
第9~10回	生体検査における保定方法②	モデル犬の扱い(投薬方法・神経学的検査)						
第11~12回	心電図と血圧測定に関わる技術	心電計の種類と構造～血圧評価						
第13~14回	X線検査に関わる技術	X線検査の目的と動物看護師の役割～被曝と被曝管理						
第15~16回	超音波検査に関わる技術	超音波診断装置の原理と構造～超音波診断装置を用いた特殊な検査						
第17~18回	内視鏡検査・その他の画像検査に関わる技術	内視鏡検査・コンピュータ断層撮影法(CT)、MRI検査						
第19~20回	神経学的検査に関わる技術	検査環境・必要な道具、実際の検査方法						
第21~22回	眼科検査に関わる技術	視覚検査～その他の眼科検査						
第23~24回	皮膚検査と耳の検査に関わる技術	皮膚科の検査、耳介の検査、耳道の検査、耳垢検査						
第25~26回	細菌・真菌培養検査について	細菌培養検査(培地について・薬剤感受性試験について・染色方法)						
第27~28回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内に前期末試験を受ける		※学生証が必要				
第29~30回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	高橋 佳代子		実務経験紹介					

科目名	動物外科看護学		単位数	2	科目コード	NC2403																																																																								
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	通期																																																																								
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	-																																																																								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「臨床動物看護学」に位置する授業。 外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。																																																																													
授業の一般目標	<p>1. 外傷、創傷管理</p> <p>1) 創傷の種類と治癒過程と管理方法について理解する 2) ドレーンの装着と管理法について理解する 3) 止血法について理解する</p> <p>4) 骨折・脱臼の管理について理解する</p> <p>2. 術前準備</p> <p>1) 術前手続(飼い主への説明、承諾書など)や術前検査について理解する 2) 無菌的処置の重要性について理解する 3) 手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法について理解する</p> <p>4) 手術器具の準備と滅菌法について理解する 5) 手術室の機器類(无影灯、電気メス本体など)、準備について理解する 6) 器械台の準備について理解する</p> <p>7) 動物の適切なポジショニングについて理解する 8) 術野の消毒について理解する 9) 手洗い、手術着・手袋の着用について理解する</p> <p>3. 麻酔</p> <p>1) 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) 麻酔リスクの評価(ASA分類など)について理解する 3) 麻酔前投与(鎮静など)について理解する</p> <p>4) 注射麻酔(局所麻酔を含む)の手法について理解する 5) 吸入麻酔の手法について理解する 6) 導入時、覚醒時のリスクと対処法について理解する</p> <p>7) 麻酔看護項目(心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼吸終末二酸化炭素濃度など)の監視方法、意義について理解する</p> <p>8) 麻酔記録の作成法について理解する</p> <p>4. 術中補助</p> <p>1) 代表的な手術器具(メス、鉗子など)の名称と使用方法について理解する 2) 代表的な縫合材(縫合針、縫合糸)の分類と使用方法について理解する</p> <p>3) 代表的な歯科器具の名称と使用方法について理解する 4) 直接補助(手袋着用下での補助)の内容について理解する</p> <p>5) 間接補助(手術回りの補助)の内容について理解する</p> <p>5. 術後管理</p> <p>1) 麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて理解する 2) 疼痛管理の意義と方法について理解する 3) 創傷管理と包帯法について理解する</p> <p>4) 退院時の注意点と飼い主への説明事項について理解する 5) 術創の予防及び対処法(体位変換など)について理解する</p> <p>6. 救急救命</p> <p>1) エマージェンシーの原因と病態について理解する 2) 一次救命措置(BLS)について理解する 3) 二次救命措置(ALS)について理解する</p> <p>4) 気管挿管と心肺蘇生の方法について理解する</p> <p>7. 動物理学療法</p> <p>1) 動物理学療法の目的と意義について理解する 2) 代表的な理学療法の原理と手法について理解する</p>																																																																													
受講条件	動物看護科に在籍している																																																																													
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」																																																																													
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 外科診療補助に必要な基礎知識を説明することができる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 自ら疑問点を見出し、追究することができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																																																													
授業計画(全体)	動物に対して外科処置を行う状況・目的を理解し、術前準備や麻酔、術中補助、術後管理、救急救命、理学療法を学ぶ。																																																																													
授業計画(授業単位)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>主題</th> <th>授業内容</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>動物に対して外科処置を行う状況・目的</td> <td>外科診療時の補助に必要な技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2~3回</td> <td>術前準備①</td> <td>術前手続きや術前検査/無菌的処置の重要性について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>術前準備②</td> <td>手術器具の準備、滅菌法について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>術前準備③</td> <td>手術室の衛生的清掃と機器類、準備について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6~8回</td> <td>術前準備④</td> <td>器械台の準備/術者に必要な準備について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>麻酔①</td> <td>麻酔処置時における動物看護師の役割について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10~12回</td> <td>麻酔②</td> <td>麻酔リスク/麻酔前投薬/注射麻酔の手法/吸入麻酔の手法について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13~18回</td> <td>術中補助①</td> <td>代表的な手術機器の名称、使用方法について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>術中補助②</td> <td>直接補助、間接補助の内容について(麻酔モニタリング)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第20~21回</td> <td>術後管理①</td> <td>麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第22~24回</td> <td>術後管理②</td> <td>痛みと創傷管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第25~26回</td> <td>理学療法</td> <td>理学療法の目的と意義について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第27回</td> <td>救急救命処置 I ①</td> <td>救命方法の知識の実践①</td> <td rowspan="2">※2021年8月実施 ペットファーストイベント講座にて</td> </tr> <tr> <td>第28回</td> <td>救急救命処置 I ②</td> <td>救命方法の知識の実践②</td> </tr> <tr> <td>第29~30回</td> <td>授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説</td> <td>授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する</td> <td>※学生証が必要</td> </tr> </tbody> </table>						回	主題	授業内容	備考	第1回	動物に対して外科処置を行う状況・目的	外科診療時の補助に必要な技術		第2~3回	術前準備①	術前手続きや術前検査/無菌的処置の重要性について		第4回	術前準備②	手術器具の準備、滅菌法について		第5回	術前準備③	手術室の衛生的清掃と機器類、準備について		第6~8回	術前準備④	器械台の準備/術者に必要な準備について		第9回	麻酔①	麻酔処置時における動物看護師の役割について		第10~12回	麻酔②	麻酔リスク/麻酔前投薬/注射麻酔の手法/吸入麻酔の手法について		第13~18回	術中補助①	代表的な手術機器の名称、使用方法について		第19回	術中補助②	直接補助、間接補助の内容について(麻酔モニタリング)		第20~21回	術後管理①	麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて		第22~24回	術後管理②	痛みと創傷管理		第25~26回	理学療法	理学療法の目的と意義について		第27回	救急救命処置 I ①	救命方法の知識の実践①	※2021年8月実施 ペットファーストイベント講座にて	第28回	救急救命処置 I ②	救命方法の知識の実践②	第29~30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する	※学生証が必要									
回	主題	授業内容	備考																																																																											
第1回	動物に対して外科処置を行う状況・目的	外科診療時の補助に必要な技術																																																																												
第2~3回	術前準備①	術前手続きや術前検査/無菌的処置の重要性について																																																																												
第4回	術前準備②	手術器具の準備、滅菌法について																																																																												
第5回	術前準備③	手術室の衛生的清掃と機器類、準備について																																																																												
第6~8回	術前準備④	器械台の準備/術者に必要な準備について																																																																												
第9回	麻酔①	麻酔処置時における動物看護師の役割について																																																																												
第10~12回	麻酔②	麻酔リスク/麻酔前投薬/注射麻酔の手法/吸入麻酔の手法について																																																																												
第13~18回	術中補助①	代表的な手術機器の名称、使用方法について																																																																												
第19回	術中補助②	直接補助、間接補助の内容について(麻酔モニタリング)																																																																												
第20~21回	術後管理①	麻酔覚醒後の動物のモニタリングについて																																																																												
第22~24回	術後管理②	痛みと創傷管理																																																																												
第25~26回	理学療法	理学療法の目的と意義について																																																																												
第27回	救急救命処置 I ①	救命方法の知識の実践①	※2021年8月実施 ペットファーストイベント講座にて																																																																											
第28回	救急救命処置 I ②	救命方法の知識の実践②																																																																												
第29~30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する	※学生証が必要																																																																											
成績評価方法	<p>単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&amp;授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合</th> <th>成績評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>50</td> <td>秀 (S): 100点~90点</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>優 (A): 89点~80点</td> </tr> <tr> <td>宿題授業外レポート</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>良 (B): 79点~70点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>可 (D): 69点~60点</td> </tr> <tr> <td>発表・作品</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>不可 (E): 59点以下</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点	小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点	宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点	授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点	発表・作品							-	不可 (E): 59点以下	演習							-		出席			◎				10	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準																																																																						
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点																																																																						
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点																																																																						
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点																																																																						
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点																																																																						
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下																																																																						
演習							-																																																																							
出席			◎				10																																																																							
担当教員	大坪 優太		実務経験紹介																																																																											

科目名	動物臨床看護学総論		単位数	1	科目コード	NC2404		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「臨床動物看護学」に位置する授業。 動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。							
授業の一般目標	<p>1. 動物看護過程の展開</p> <p>1) 動物看護過程の目的や意義、方法について理解する 2) 動物看護過程の各ステップについて理解する 3) アセスメントについて理解する 4) 事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する 5) 問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する 6) 動物看護過程の実施と評価について理解する</p> <p>2. 診療記録</p> <p>1) 診療記録(カルテ)の作成方法について理解する 2) 動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する 3. 動物看護業務</p> <p>1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する 2) ケアの標準化(クリティカルパス)について理解する 3) 事故管理、防止システムについて理解する 4) 若齢動物看護の特徴について理解する 5) 高齢動物看護の特徴や痛慮について理解する 6) 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する 4. ターミナルケアに関わる技術</p> <p>1) ターミナルケアの目的と意義について理解する 2) QOLやホスピス、緩和ケアについて理解する 3) グリーフケアについて理解する 4) 死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する</p>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護の基本的な考えについて説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	動物看護学概論で学習した動物看護過程の展開の復習とさらなる展開を事例を通して学ぶ。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識①	1. チーム獣医療における動物看護師の役割 2. ケアの標準化(クリティカルパス)				教科書 P.3~15		
第2回	動物臨床看護学を学ぶうえで必要な基礎知識②	3. 臨床における動物のQOL維持の重要性 4. 動物看護管理				教科書 P.16~29		
第3回	動物看護過程①	1. 動物看護過程とは 2. アセスメント～情報収集・解釈・判断～				教科書 P.33~41		
第4回	動物看護過程②	3. 動物看護診断～動物看護上の問題点を抽出～ ～6. 動物看護評価				教科書 P.42~50		
第5回	診療記録	1. 診療記録(カルテ)の記入・保存・管理・運用 2. 動物看護記録の目的や書式、作成方法				教科書 P.53~67		
第6回	動物看護業務①	【健康期(若齢・高齢)の動物看護】 1. 若齢期の動物看護				教科書 P.73~77		
第7回	動物看護業務②	【健康期(若齢・高齢)の動物看護】 2. 高齢期の動物看護				教科書 P.78~93		
第8回	動物看護業務③	【健康期(若齢・高齢)の動物看護】 2. 高齢期の動物看護(続き)				教科書 P.78~93		
第9回	動物看護業務④	【急性期の動物看護】 1. 急性期とは ～3. 右後肢断脚手術を実施した犬における術後急性期の動物看護				教科書 P.94~104		
第10回	動物看護業務⑤	【回復期の動物看護】 1. 回復期とは ～3. 前十字靭帯断裂の手術を実施した犬における術後回復期の動物看護				教科書 P.105~125		
第11回	動物看護業務⑥	【慢性期の動物看護】 1. 慢性期とは ～3. 糖尿病に罹患した犬における慢性期の動物看護				教科書 P.127~141		
第12回	動物看護業務⑦	【終末期の動物看護(ターミナルケア)】 1. 終末期(ターミナル期)とは ～4. 死亡した動物への対応とエンゼルケア				教科書 P.142~149		
第13回	動物看護業務⑧	第6回～第12回 まとめ				-		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	阿部 令子			実務経験紹介				



科目名	動物臨床看護学各論 I	単位数	2	科目コード	NC2405																																																																								
授業形態	講義	対象学生	2年次	開設期	半期																																																																								
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-																																																																								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「臨床動物看護学」に位置する授業。 「動物臨床看護学各論 I」と「動物臨床看護学各論 II」の履修を以て、愛玩動物看護師カリキュラム「動物臨床看護学各論」の履修となる。 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか。評価と介入の方法について理解する。																																																																												
授業の一般目標	<p>1. 徴候や疾患の理解と対処</p> <p>1) 代表的な徴候や病態、疾患について理解する 2) 徴候の評価と記録法について理解する 3) 痛みについて理解する 4) 徴候・疾患に基づいた援助について理解する</p> <p>2. 代表的な徴候</p> <p>1) 全身徴候 食欲不進・嘔吐、元氣喪失、発熱、疼痛、腹痛</p> <p>2) 特異的徴候 運動不耐、咳、心雑音、不整脈(房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動)、高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐血、下痢、便秘、血便、黄疸、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、揺尾、発作、視力障害、聴覚、眼振、斜頸、貧血、出血傾向</p> <p>3) 特異的病態 尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固(DIC)</p> <p>3. 代表的な疾患</p> <p>1) 循環器疾患 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心臓腫瘍(心房ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右大動脈弓逆転症、動脈管開存症、犬糸状虫症)</p> <p>2) 呼吸器疾患 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、猫胸、ジステンパー、ケンネルコフ</p> <p>3) 消化器・栄養代謝性疾患 腸石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃弛緩症候群(GDV)、胃炎、蛋白喪失性腸症(PLI)、炎症性腸疾患(IBD)、食事反応性下痢(FRD)、抗逆薬反応性下痢(ARD)、腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、バルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リトビrosis、門脈体循環シント、胆嚢粘液囊腫、肺炎、膵外分泌不全症(EPI)</p> <p>4) 泌尿器疾患 急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症(PLN)、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患(FLUTD)、尿道閉塞症、レプトスピラ症</p> <p>5) 内分泌疾患 甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)、副腎皮質機能低下症(アジソン病)、尿崩症</p> <p>6) 生殖器疾患 潜在精巣炎、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、産後、乳腺炎、大ブールセラ症、乳腺腫瘍</p> <p>7) 整形外科疾患 骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股関節形成不全、レッグヘルテス病、骨肉腫</p> <p>8) 皮膚疾患 膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアレギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天皰癬、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ</p> <p>9) 神経疾患 脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群</p> <p>10) 腫瘍疾患 結膜炎、角膜炎、乾性角膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、白内障、白内障、流涙症、第三眼瞼脱出(チェリーア)、異所性睫毛</p> <p>11) 造血・免疫介在性疾患 免疫介在性溶血性貧血(IMHA)、ネギ中毒、ヘモパズマ症、パペシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性膿瘍(FIP)、猫白痢ウイルス(FeLV)感染症、猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症、リンパ腫、白血病、肥満</p> <p>12) 緊急疾患 交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー</p> <p>4. 猫が動物の看護</p> <p>1) 猫の診断のための検査と治療の手順について理解する 2) 腫瘍腫瘍性疾患について理解する 3) 猫の治療を受けている動物の看護援助について理解する</p>																																																																												
受講条件	動物臨床看護学総論の履修																																																																												
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9 巻」																																																																												
授業の到達目標	<p><input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 各症状別に必要な処置、治療、看護について説明することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 自ら疑問点を見出し、追究することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 態度の観点 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 技能・表現の観点</p>																																																																												
授業計画(全体)	症状別の動物看護から代表的な徴候(症状)を学ぶ																																																																												
授業計画(授業単位)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>主 題</th> <th>授 業 内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1~2回</td> <td>代表的な徴候の理解と対処①</td> <td>1. 徴候とは 2. 代表的な徴候と対処法</td> <td>教科書 P.163~195</td> </tr> <tr> <td>第3~4回</td> <td>代表的な徴候の理解と対処②</td> <td>2. 代表的な徴候と対処法(続き)</td> <td>教科書 P.164~195</td> </tr> <tr> <td>第5~6回</td> <td>呼吸器疾患①</td> <td>1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.205~228</td> </tr> <tr> <td>第7~8回</td> <td>呼吸器疾患②</td> <td>1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.205~228</td> </tr> <tr> <td>第9~10回</td> <td>呼吸器疾患③ 循環器疾患①</td> <td>1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護 1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.205~228 教科書 P.233~258</td> </tr> <tr> <td>第11~12回</td> <td>循環器疾患②</td> <td>1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.233~258</td> </tr> <tr> <td>第13~14回</td> <td>循環器疾患③</td> <td>1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.233~258</td> </tr> <tr> <td>第15~16回</td> <td>消化器疾患①</td> <td>1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.263~288</td> </tr> <tr> <td>第17~18回</td> <td>消化器疾患②</td> <td>1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.263~288</td> </tr> <tr> <td>第19~20回</td> <td>消化器疾患③ 内分泌疾患①</td> <td>1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護 1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.263~288 教科書 P.293~319</td> </tr> <tr> <td>第21~22回</td> <td>内分泌疾患②</td> <td>1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.293~319</td> </tr> <tr> <td>第23~24回</td> <td>内分泌疾患③</td> <td>1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.293~319</td> </tr> <tr> <td>第25~26回</td> <td>血液疾患・免疫介在性疾患①</td> <td>1. 血液疾患・免疫介在性疾患とは~ 4. 血液疾患・免疫介在性疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.323~353</td> </tr> <tr> <td>第27~28回</td> <td>血液疾患・免疫介在性疾患②</td> <td>1. 血液疾患・免疫介在性疾患とは~ 4. 血液疾患・免疫介在性疾患の動物看護</td> <td>教科書 P.323~353</td> </tr> <tr> <td>第29~30回</td> <td>授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説</td> <td>授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する</td> <td>※学生証が必要</td> </tr> </tbody> </table>					回	主 題	授 業 内 容	備 考	第1~2回	代表的な徴候の理解と対処①	1. 徴候とは 2. 代表的な徴候と対処法	教科書 P.163~195	第3~4回	代表的な徴候の理解と対処②	2. 代表的な徴候と対処法(続き)	教科書 P.164~195	第5~6回	呼吸器疾患①	1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護	教科書 P.205~228	第7~8回	呼吸器疾患②	1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護	教科書 P.205~228	第9~10回	呼吸器疾患③ 循環器疾患①	1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護 1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護	教科書 P.205~228 教科書 P.233~258	第11~12回	循環器疾患②	1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護	教科書 P.233~258	第13~14回	循環器疾患③	1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護	教科書 P.233~258	第15~16回	消化器疾患①	1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護	教科書 P.263~288	第17~18回	消化器疾患②	1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護	教科書 P.263~288	第19~20回	消化器疾患③ 内分泌疾患①	1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護 1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護	教科書 P.263~288 教科書 P.293~319	第21~22回	内分泌疾患②	1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護	教科書 P.293~319	第23~24回	内分泌疾患③	1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護	教科書 P.293~319	第25~26回	血液疾患・免疫介在性疾患①	1. 血液疾患・免疫介在性疾患とは~ 4. 血液疾患・免疫介在性疾患の動物看護	教科書 P.323~353	第27~28回	血液疾患・免疫介在性疾患②	1. 血液疾患・免疫介在性疾患とは~ 4. 血液疾患・免疫介在性疾患の動物看護	教科書 P.323~353	第29~30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する	※学生証が必要								
回	主 題	授 業 内 容	備 考																																																																										
第1~2回	代表的な徴候の理解と対処①	1. 徴候とは 2. 代表的な徴候と対処法	教科書 P.163~195																																																																										
第3~4回	代表的な徴候の理解と対処②	2. 代表的な徴候と対処法(続き)	教科書 P.164~195																																																																										
第5~6回	呼吸器疾患①	1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護	教科書 P.205~228																																																																										
第7~8回	呼吸器疾患②	1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護	教科書 P.205~228																																																																										
第9~10回	呼吸器疾患③ 循環器疾患①	1. 呼吸器疾患とは~4. 呼吸器疾患の動物看護 1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護	教科書 P.205~228 教科書 P.233~258																																																																										
第11~12回	循環器疾患②	1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護	教科書 P.233~258																																																																										
第13~14回	循環器疾患③	1. 循環器疾患とは~4. 循環器疾患の動物看護	教科書 P.233~258																																																																										
第15~16回	消化器疾患①	1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護	教科書 P.263~288																																																																										
第17~18回	消化器疾患②	1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護	教科書 P.263~288																																																																										
第19~20回	消化器疾患③ 内分泌疾患①	1. 消化器疾患とは~4. 消化器疾患の動物看護 1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護	教科書 P.263~288 教科書 P.293~319																																																																										
第21~22回	内分泌疾患②	1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護	教科書 P.293~319																																																																										
第23~24回	内分泌疾患③	1. 内分泌疾患とは~4. 内分泌疾患の動物看護	教科書 P.293~319																																																																										
第25~26回	血液疾患・免疫介在性疾患①	1. 血液疾患・免疫介在性疾患とは~ 4. 血液疾患・免疫介在性疾患の動物看護	教科書 P.323~353																																																																										
第27~28回	血液疾患・免疫介在性疾患②	1. 血液疾患・免疫介在性疾患とは~ 4. 血液疾患・免疫介在性疾患の動物看護	教科書 P.323~353																																																																										
第29~30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する	※学生証が必要																																																																										
成績評価方法	<p>単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&amp;授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>知識・理解</th> <th>思考・判断</th> <th>関心・意欲</th> <th>態度</th> <th>技能・表現</th> <th>その他</th> <th>評価割合</th> <th>成績評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>50</td> <td>秀 (S):100点~90点</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20</td> <td>優 (A):89点~80点</td> </tr> <tr> <td>宿題授業外レポート</td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>良 (B):79点~70点</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td>可 (D):69点~60点</td> </tr> <tr> <td>発表・作品</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td>不可 (E):59点以下</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>出席</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>10</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点	小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点	宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点	授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点	発表・作品							-	不可 (E):59点以下	演習							-		出席			◎				10	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準																																																																					
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点																																																																					
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点																																																																					
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点																																																																					
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点																																																																					
発表・作品							-	不可 (E):59点以下																																																																					
演習							-																																																																						
出席			◎				10																																																																						
担当教員	西 景子		実務経験紹介																																																																										

科目名	動物臨床看護学各論Ⅱ		単位数	2	科目コード	NC2406		
授業形態	講義		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「臨床動物看護学」に位置する授業。 「動物臨床看護学各論Ⅰ」と「動物臨床看護学各論Ⅱ」の履修を以て、愛玩動物看護師カリキュラム「動物臨床看護学各論」の履修となる。 様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか。評価と介入の方法について理解する。							
授業の一般目標	<p>1. 観察や検査の理解が不明</p> <p>1) 代表的な徴候や病態、疾患について理解する 2) 徴候の評価と記録法について理解する 3) 痛みの評価について理解する 4) 徴候・疾患に基づいた援助について理解する</p> <p>2. 代表的な徴候</p> <p>1) 全身徴候 食欲不振・嘔吐、元気喪失、発熱、疼痛、崩壊</p> <p>2) 特異的徴候 運動不調、咳、心雑音、不整脈(房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動)、高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐下、下痢、便秘、血便、異臭、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、搐搦、発作、視力障害、聴覚、眼振、斜視、貧血、出血傾向</p> <p>3) 特異的病態 尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固(DIC)</p> <p>3. 代表的な疾患</p> <p>1) 循環器疾患 僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心臓膜横隔膜ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔閉存、右大動脈弓遠位狭窄、動脈管閉塞症、大糸状虫症</p> <p>2) 呼吸器疾患 猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、猫胸、ジステンパー、ケンネルコフ</p> <p>3) 消化器・栄養代謝性疾患 歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群(GDV)、胃炎、蛋白喪失性腸症(PLE)、炎症性腸疾患(IBD)、食事反応性下痢(FRD)、抗毒素反応性下痢(ARD)、腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リビドコース、門脈体循環シャント、胆嚢粘液囊腫、肺炎、尿外分泌不全症(EPI)</p> <p>4) 泌尿器疾患 急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症(PLN)、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患(FLUTD)、尿道閉塞症、レプトスピラ症</p> <p>5) 内分泌疾患 甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)、副腎皮質機能低下症(アジソン病)、尿崩症</p> <p>6) 生殖器疾患 精液溜、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、産後、乳腺炎、大ブールセラ症、乳腺腫瘍</p> <p>7) 整形外科疾患 骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股関節形成、レッグヘルテス病、骨肉腫</p> <p>8) 皮膚疾患 膿皮症、猫膿皮、アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ</p> <p>9) 神経疾患 脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群</p> <p>10) 眼疾患 結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、流涙症、第三眼瞼脱出(チェリリアー)、異所性睫毛</p> <p>11) 造血器・免疫介在性疾患 免疫介在性溶血性貧血(IMHA)、ネキ中毒、ヘモプラスマ症、バネシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎(FIP)、猫白血病ウイルス(FeLV)感染症、猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症、リンパ腫、白血病、肥満</p> <p>12) 緊急疾患 交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー</p> <p>4. 担当動物の看護</p> <p>1) がんの診断のための検査と治療の手順について理解する 2) 腫瘍遺伝性疾患について理解する 3) がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する</p>							
受講条件	動物臨床看護学各論Ⅰの履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各症状別に必要な処置、治療、看護について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
症状別の動物看護から代表的な徴候(症状)を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1~2回	皮膚疾患①	1. 皮膚疾患とは~4. 皮膚疾患の動物看護				教科書 P. 357~383		
第3~4回	皮膚疾患②	1. 皮膚疾患とは~4. 皮膚疾患の動物看護				教科書 P. 357~383		
第5~6回	感覚器疾患①	1. 感覚器疾患とは~4. 感覚器疾患の動物看護				教科書 P. 389~404		
第7~8回	感覚器疾患②	1. 感覚器疾患とは~4. 感覚器疾患の動物看護				教科書 P. 389~404		
第9~10回	神経疾患・整形外科疾患①	1. 神経疾患とは~7. 神経疾患・整形外科疾患の動物看護				教科書 P. 407~435		
第11~12回	神経疾患・整形外科疾患②	1. 神経疾患とは~7. 神経疾患・整形外科疾患の動物看護				教科書 P. 407~435		
第13~14回	排泄機能障害を伴う疾患①	1. 排泄機能障害を伴う疾患とは~6. 排泄機能障害を伴う疾患の動物看護				教科書 P. 441~478		
第15~16回	排泄機能障害を伴う疾患②	1. 排泄機能障害を伴う疾患とは~6. 排泄機能障害を伴う疾患の動物看護				教科書 P. 441~478		
第17~18回	生殖器疾患①	1. 生殖器疾患とは~4. 生殖器疾患の動物看護				教科書 P. 483~497		
第19~20回	生殖器疾患②	1. 生殖器疾患とは~4. 生殖器疾患の動物看護				教科書 P. 483~497		
第21~22回	救急疾患①	1. 救急疾患とは~4. 緊急時の動物看護				教科書 P. 503~524		
第23~24回	救急疾患② 担当動物の看護①	1. 救急疾患とは~4. 緊急時の動物看護 1. 腫瘍疾患とは~8. 担当動物への動物看護				教科書 P. 503~524 教科書 P. 529~566		
第25~26回	担当動物の看護②	1. 腫瘍疾患とは~8. 担当動物への動物看護				教科書 P. 529~566		
第27~28回	担当動物の看護③	1. 腫瘍疾患とは~8. 担当動物への動物看護				教科書 P. 529~566		
第29~30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する				※学生証が必要		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	阿部 令子			実務経験紹介				

科目名	動物臨床検査学		単位数	1	科目コード	NC2407		
授業形態	講義		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「臨床動物看護学」に位置する授業。 様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>臨床検査の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>臨床検査における愛玩動物看護師の役割について理解する</li> <li>基準値、感度、特異度、精度管理について理解する</li> <li>検体採取法(血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など)について理解する</li> </ol> </li> <li>血液検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>血漿、血清の分離法について理解する</li> <li>全血球計算法(CBC)について理解する</li> <li>血液塗抹の作製及び観察法について理解する</li> <li>ヘマトクリット管を用いた検査について理解する</li> <li>凝固検査の目的と意義について理解する</li> <li>血液化学検査の目的と意義について理解する</li> <li>血液ガス検査の目的と意義について理解する</li> <li>免疫学的検査の目的と意義について理解する</li> </ol> </li> <li>尿検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>尿の性状検査について理解する</li> <li>尿沈渣について理解する</li> <li>糞便検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>虫卵・原虫の検出法について理解する</li> <li>細菌の観察法について理解する</li> </ol> </li> <li>細胞診と病理組織検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>細胞診の目的と方法について理解する</li> <li>病理組織検査のための検体の採取について理解する</li> </ol> </li> <li>遺伝子検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>遺伝子検査の目的と応用例について理解する</li> <li>遺伝子検体の採取及び取り扱いについて理解する</li> </ol> </li> </ol> </li></ol>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追及することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主体性と積極性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
臨床検査の基礎を理解し、血液検査や尿検査、糞便検査、細胞診と病理組織検査、心電図検査と血圧検査を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	臨床検査の基礎	臨床検査～主な検査機器						
第2回	血液検査①	採決部位および採血方法～血漿、血清の分離法						
第3回	血液検査②	全血球計算(CBC)～血液塗抹標本の観察法						
第4回	血液検査③	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査、クロスマッチ、血液型判定テスト						
第5回	血液検査④	生化学検査<総論、各論>						
第6回	血液検査⑤	血液ガス分析、免疫学的検査						
第7回	尿検査①	尿検体の採取方法～検査手順、導尿						
第8回	尿検査②	検査手順～尿沈渣標本に出現する有形成分						
第9回	糞便検査	糞便検査の目的と動物看護師の役割～その他の微生物検査						
第10回	細胞診と病理組織検査①	細胞診検査						
第11回	細胞診と病理組織検査②	病理組織検査						
第12回	遺伝子検査	遺伝子検査とは～遺伝子検査の対象疾患						
第13回	穿刺検査	胸水、腹水、脊髄検査						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	西田 沙季			実務経験紹介				

科目名	動物医療コミュニケーション		単位数	1	科目コード	NC2408		
授業形態	講義		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「臨床動物看護学」に位置する授業。 日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。							
授業の一般目標	1. クライアントエデュケーション 1) 適正飼養について理解し、健康管理のために必要な情報を飼い主に提供できる 2) 動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する 3) 病気の適切な予防法(予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など)について理解する 4) 在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する 2. 院内コミュニケーション 1) 飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する 2) 獣医療面接のプロセス(導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など)について理解する 3) チーム獣医療に関するコミュニケーション技能(報告・連絡・相談)について理解する 3. 院内業務 1) 受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について理解する 2) 物品購入や管理について理解する3) ペット保険について理解する							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 B 巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 動物の健康管理について飼い主向けに説明できる。 2. 院内におけるコミュニケーションの重要性を説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
クライアントエデュケーションを理解し、クライアント(飼い主)が求める8つの条件や院内コミュニケーション、グリーフケアを学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	クライアントエデュケーション①	クライアントエデュケーション概論について						
第2回	クライアントエデュケーション②	クライアントサービスについて						
第3回	クライアントエデュケーション③	適正飼育、健康管理の必要な情報提供/動物と飼い主の良好な関係構築について						
第4回	クライアントエデュケーション④	病気の適切な予防法について①						
第5回	クライアントエデュケーション⑤	病気の適切な予防法について②						
第6回	クライアントエデュケーション⑥	病気の適切な予防法について③						
第7回	クライアントエデュケーション⑦	接遇とホスピタリティについて						
第8回	クライアントエデュケーション⑧	在宅治療(往診)におけるコミュニケーション技能について						
第9回	院内コミュニケーション①	飼い主教育を主体としたインフォームドコンセントについて						
第10回	院内コミュニケーション②	医療面接のプロセス/チーム医療に関するコミュニケーション技能について						
第11回	院内マネジメント①	受付業務(診療受付、電話対応、清算、トラブル対応など)について						
第12回	院内マネジメント②	物品購入や管理/動物保健医療について						
第13回	グリーフケア	看取り、お別れ、お見送り、ペットロスのこと						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/</a>			

科目名	愛護動物学Ⅰ		単位数	1	科目コード	ND2401		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。 「愛護動物学Ⅰ」と「愛護動物学Ⅱ」で構成されており、これらの履修を以って愛玩動物看護師カリキュラム「愛護動物学」の履修となる。 愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。 「愛護動物学Ⅰ」ではエキゾチックアニマルと呼ばれる小動物(ウサギ、モルモット、ハムスター、フェレット、チンチラ、フクロモモンガ、ハリネズミ、愛玩鳥)の代表的な品種、生態や習性、起こりやすい主な疾患等を学んだ上で、適切とされている飼育管理方法について、実際の動物を見ながら学び、理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>歴史と品種 <ol style="list-style-type: none"> <li>犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ(品種に適したグルーミングなど)について理解する</li> <li>猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ(品種に適したグルーミングなど)について理解する</li> <li>代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する</li> <li>血統と血統書について理解する</li> </ol> </li> <li>使役動物 <ol style="list-style-type: none"> <li>使役動物(犬、その他の動物)の歴史と福祉について理解する</li> <li>補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の歴史と現状について理解する</li> <li>補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の役割と育成、適性について理解する</li> <li>その他の使役犬(災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など)の種類と特徴及び現状について理解する</li> </ol> </li> <li>愛玩動物の飼育管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>犬の適切な飼育管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など)について理解する</li> <li>猫の適切な飼育管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など)について理解する</li> <li>愛玩鳥の適切な飼育管理方法(飼養環境、体調管理など)について理解する</li> <li>代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼育管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など)について理解する</li> </ol> </li> <li>動物の基本的な取扱い <ol style="list-style-type: none"> <li>動物を安全に散歩・運動・ふれあいをさせることの意義について理解する</li> <li>基本的グルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門囊処置、口腔内衛生管理など)の目的・方法について理解する</li> <li>適切な飼育環境やストレスの緩和方法について理解する</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルとは何かを説明することができる。2. 各動物の特徴や飼育方法について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
愛玩動物の歴史と代表的な品種について理解し、本校で飼育している小動物の飼育管理について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	授業概要 ウサギの品種と特徴①	授業概要説明 ウサギの生態について						
第2回	ウサギの品種と特徴②	ウサギの飼育管理・飼養施設/ウサギの主な疾病						
第3回	ウサギの品種と特徴③	ウサギの飼育管理・飼養施設/ウサギの主な疾病						
第4回	モルモットの特徴①	モルモットの生態について/モルモットの飼育管理・飼養施設/モルモットの主な疾病						
第5回	モルモットの特徴②	モルモットの飼育管理・飼養施設/モルモットの主な疾病						
第6回	ハムスターの品種と特徴①	ハムスターの生態について						
第7回	ハムスターの品種と特徴②	ハムスターの飼育管理・飼養施設/ハムスターの疾病						
第8回	フェレットの特徴	フェレットの生態について/フェレットの飼育管理・飼育管理						
第9回	チンチラの特徴/モモンガの特徴①	チンチラの生態について/フクロモモンガの生態について①						
第10回	モモンガの特徴②/ハリネズミの特徴	フクロモモンガの生態について②/ハリネズミの生態について						
第11回	愛玩鳥の特徴①	愛玩鳥の飼育管理・飼養施設						
第12回	愛玩鳥の特徴②	繁殖・発情行動について						
第13回	愛玩鳥の特徴③	愛玩鳥の主な疾病						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける	※学生証が必要					
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					20	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>				

科目名	愛護動物学Ⅱ		単位数	1	科目コード	ND2402		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。 「愛護動物学Ⅰ」と「愛護動物学Ⅱ」で構成されており、これらの履修を以って愛玩動物看護師カリキュラム「愛護動物学」の履修となる。 愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。 「愛護動物学Ⅱ」では犬猫の歴史や代表的な品種、使役動物として活用されてきた現状を理解し、生態や習性を学んだ上で、適切とされている飼育管理方法について理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>歴史と品種 <ol style="list-style-type: none"> <li>犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ(品種に適したグルーミングなど)について理解する</li> <li>猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れ(品種に適したグルーミングなど)について理解する</li> <li>代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する</li> <li>血統と血統書について理解する</li> </ol> </li> <li>使役動物 <ol style="list-style-type: none"> <li>使役動物(犬、その他の動物)の歴史と福祉について理解する</li> <li>補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の歴史と現状について理解する</li> <li>補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の役割と育成、適性について理解する</li> <li>その他の使役犬(災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など)の種類と特徴及び現状について理解する</li> </ol> </li> <li>愛玩動物の飼育管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>犬の適切な飼育管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など)について理解する</li> <li>猫の適切な飼育管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など)について理解する</li> <li>愛玩鳥の適切な飼育管理方法(飼養環境、体調管理など)について理解する</li> <li>代表的なエキゾチック動物(ウサギ、ハムスターなど)の適切な飼育管理方法(飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など)について理解する</li> </ol> </li> <li>動物の基本的な取扱い <ol style="list-style-type: none"> <li>動物を安全に散歩・運動・ふれあいをさせることの意義について理解する</li> <li>基本的グルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など)の目的・方法について理解する</li> <li>適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	愛護動物学Ⅰの履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬の品種の特徴や飼育管理について説明することができる。 2. 猫の品種の特徴や飼育管理について説明することができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
愛玩動物の歴史と代表的な品種について理解し、犬・猫の品種と特徴を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	犬の品種と特徴①	犬の歴史				P171~P175		
第2回	犬の品種と特徴②	犬の犬種①(JKC第1G~第3G)				P176~P180/P217~P228		
第3回	犬の品種と特徴③	犬の犬種②(JKC第4G~第6G)				P176~P180		
第4回	犬の品種と特徴②	犬の犬種③(JKC第7G~第10G)				P176~P180		
第5回	犬の品種と特徴①	犬の飼育管理①(すまい、食事)について				P181~P188		
第6回	犬の品種と特徴②	犬の飼育管理②(健康管理)/日々の関わりについて				P315~P330		
第7回	猫の品種と特徴①	猫の歴史について				P193~P200		
第8回	猫の品種と特徴②	猫の品種について				P201~P205		
第9回	猫の品種と特徴③	猫の飼育管理①(すまい、食事)について				P206~P212		
第10回	猫の品種と特徴④	猫の飼育管理②(健康管理)、日々の関わりについて				P331~P336		
第11回	使役動物①	使役動物(犬、その他の動物)について				P297~P300		
第12回	使役動物②	盲導犬/介助犬について				P301~307		
第13回	使役動物③	聴導犬/その他の使役犬について				P306~P312		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	小林 永実			実務経験紹介		二		

科目名	人と動物の関係学		単位数	1	科目コード	ND2403		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。 動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。							
授業の一般目標	1. 人間と動物の関わり 1) 動物の飼養・利用の歴史について理解する 2) 欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する 3) 動物の飼養と利用の現状について理解する 2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり 1) 動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する 2) 多頭飼育問題について理解する 3) 愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼養困難になる様々な事情について理解する 3. 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育 1) 動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する 2) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する 3) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性について理解する 4) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する 5) 学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する(文部科学省が道徳教育の一環として認めていることを含む。)							
受講条件	愛玩動物学の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 4巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	.AAA、AAT、AAEについて説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
人と動物の関係と歴史について理解し、人と動物の関係や使役動物から介在動物について学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	人と動物の関係と歴史	人と動物の関係と歴史について						
第2回	学問への道/経緯	基盤になった研究について						
第3回	人と動物の関係①	家畜化について						
第4回	人と動物の関係②	人と犬の関係について						
第5回	人と動物の関係③	人と猫の関係について						
第6回	人と動物の関係④	人と馬の関係について						
第7回	人と動物の関係⑤	人と伴侶動物の新たな関係について						
第8回	人と動物の関係⑥	人と野生動物の関係について						
第9回	使役動物から介在動物へ①	使役動物について						
第10回	使役動物から介在動物へ②	介助犬について						
第11回	使役動物から介在動物へ③	介在動物/動物介在療法について						
第12回	使役動物から介在動物へ④	動物介在教育/動物介在活動について						
第13回	様々な人と動物の関係	子供と動物、高齢者と動物、罪を犯した人と動物の関係について						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	丸山 圭太			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/</a>			

科目名	適正飼養指導論 I		単位数	1	科目コード	ND2404		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。 「適正飼養指導論 I」と「適正飼養指導論 II」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「適正飼養指導論」の履修となる。 愛玩動物の効用や飼育目的を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物の飼養 <ol style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する</li> <li>愛玩動物飼養の現状について理解する</li> <li>愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する</li> <li>愛玩動物の飼養のニーズや目的、グリーフケア、ペットロスについてその概要と飼い主の心情を踏まえた必要な支援について理解する</li> </ol> </li> <li>適正飼養の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>適正飼養に関する支援の目的と活動(民間団体等によるものを含む。)について理解する</li> <li>動物取扱業者における適正飼養について理解する</li> <li>愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する</li> <li>問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する</li> </ol> </li> <li>災害危機管理と支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる</li> <li>愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる</li> <li>災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する</li> <li>動物愛護管理行政 <ol style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する</li> <li>動物愛護週間との役割と実施状況について理解する</li> <li>犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分状況について理解する</li> <li>動物による事故の内容と報告状況について理解する</li> <li>動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する</li> <li>動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	愛玩動物学Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10 巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	適正飼養の重要性を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	愛玩動物の飼養①	1. 適正飼養とは				教科書 P.3~10		
第2回	愛玩動物の飼養②	動物との正しい関わり合い方				-		
第3回	愛玩動物の飼養③	2. 愛玩動物飼養の現状~3. 愛玩動物によって人間が受ける影響と問題点				教科書 P.11~19		
第4回	動物終末期(飼い主) ケア①	1. 動物終末期(飼い主) ケアの総論と動物看護師の役割				教科書 P.23~29		
第5回	動物終末期(飼い主) ケア②	QOLと終末期医療				-		
第6回	動物終末期(飼い主) ケア③	2. 動物医療グリーフケア				教科書 P.29~36		
第7回	動物終末期(飼い主) ケア④	3. ペットロス				教科書 P.36~39		
第8回	動物終末期(飼い主) ケア⑤	看取りとグリーフケア				-		
第9回	適正飼養の推進①	1. 適正飼養に関する支援の目的と活動~2. 動物取扱業者における適正飼養				教科書 P.47~54		
第10回	適正飼養の推進②	1. 適正飼養に関する支援の目的と活動~2. 動物取扱業者における適正飼養(続き)				教科書 P.47~54		
第11回	適正飼養の推進③	3. 愛玩動物の過剰繁殖とその対策				-		
第12回	半期まとめ	各グループに分かれて半期の内容をまとめる				-		
第13回	まとめ内容発表	12回目の内容の発表(半期振り返り)				-		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する				-		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		○					10	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習	◎	◎					20	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			



科目名	適正飼養指導論Ⅱ		単位数	1	科目コード	ND2405	
授業形態	講義		対象学生	3年生	開設期	半期	
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。 「適正飼養指導論Ⅰ」と「適正飼養指導論Ⅱ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「適正飼養指導論」の履修となる。 愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。						
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物の飼養 <ol style="list-style-type: none"> <li>愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する</li> <li>愛玩動物飼養の現状について理解する</li> <li>愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する</li> <li>愛玩動物の飼養のニーズや目的、グリーフケア、ペトロスについてその概要と飼い主の心情を踏まえた必要な支援について理解する</li> </ol> </li> <li>適正飼養の推進 <ol style="list-style-type: none"> <li>適正飼養に関する支援の目的と活動(民間団体等によるものを含む。)について理解する</li> <li>動物取扱業者における適正飼養について理解する</li> <li>愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する</li> <li>問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する</li> </ol> </li> <li>災害危機管理と支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる</li> <li>愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる</li> <li>災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する</li> <li>動物愛護管理行政 <ol style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する</li> <li>動物愛護週間の役割と実施状況について理解する</li> <li>犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する</li> <li>動物による事故の内容と報告状況について理解する</li> <li>動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する</li> <li>動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>						
受講条件	適正飼養指導論Ⅰの単位認定						
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻」						
授業の到達目標							
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	適正飼養の重要性を説明できる。						
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。						
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。						
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。						
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点							
授業計画(全体)	災害時のペット救護に関する問題点や動物愛護管理行政の役割を理解し、動物看護師としてどのように関わられるかを考え学ぶ。 京都動物愛護センターへ行き、研修授業を行う。						
授業計画(授業単位)							
回	主題	授業内容			備考		
第1回	災害危機管理と支援①	1. 災害時におけるペットの救護対策ガイドライン～3. 災害対応における基本的な視点			教科書P77～P83		
第2回	災害危機管理と支援②	4. 平常時及び災害時の飼い主の備え			教科書P84～P91		
第3回	災害危機管理と支援③	5. 動物看護師の平常時における役割、6. 動物看護師の災害時における役割			教科書P92～P98		
第4回	災害危機管理と支援④	グループワーク「災害時のマニュアル作成」①					
第5回	災害危機管理と支援⑤	グループワーク「災害時のマニュアル作成」②					
第6回	動物愛護管理行政①	1. 動物愛護行政とは			教科書P103～P109		
第7回	動物愛護管理行政②	2. 適正飼養の普及啓発			教科書P110～P114		
第8回	動物愛護管理行政③	3. 犬と猫の引き取りと負傷動物の収容、4. 動物取扱業者の規制			教科書P115～P121		
第9回	動物愛護管理行政④	京都動物愛護センターでの研修授業①					
第10回	動物愛護管理行政⑤	京都動物愛護センターでの研修授業②			※レポート提出あり		
第11回	パピー教室の実施①	パピー教室の立案					
第12回	パピー教室の実施②	パピー教室実施のための準備					
第13回	パピー教室の実施③	パピー教室の実演発表					
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、単位認定試験を実施する。			※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義を考え復習する。					
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点50%、提出物&授業態度点20%、出席点10%、発表点20%を換算して総合評価を行う。						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験	◎	○					50
小テスト							
宿題授業外レポート		◎					10
授業態度			○	○			10
発表・作品		○		○	○		20
演習							
出席			◎				10
担当教員	西田 沙季			実務経験紹介			

科目名	動物生活環境学		単位数	1	科目コード	ND2406		
授業形態	講義		対象学生	3年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。 動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼育環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。							
授業の一般目標	1. 飼養環境整備 1) 動物行動学を踏まえた人とペットのための飼養環境整備の必要性や方法(問題行動予防を含む。)について理解する 2) ペット共生住宅の現状、環境整備・管理の方法について理解する 2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン 1) ペットツーリズムの現状と実施方法について理解する 2) ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法について理解する 3) ドッグランの環境整備・管理の方法について理解する 4) ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興について理解する 3. 保護収容施設 1) 動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメディスンについて理解する 2) 動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動について理解する 4. ペットへの教育・訓練施設 1) 動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等について理解する 5. 動物介在教育施設 1) 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法について理解する 6. ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応 1) 飼育マナーの必要性や目的について理解する 2) 飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違いについて理解する 3) 地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種の条例について理解する 4) 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナーについて理解する 5) ペット保険の仕組みと実態について理解する							
受講条件	適正飼養指導論Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	飼養環境整備①	1. 犬と猫の飼養環境整備に関わる法律・基準 4. ペット共生の現状				教科書 P.127~128 教科書 P.143~145		
第2回	飼養環境整備②	2. 犬の飼養環境整備 5. 犬たちとの暮らし方 -環境整備・管理の方法-				教科書 P.129~136 教科書 P.145~153		
第3回	飼養環境整備③	3. 猫の飼養環境整備 6. 猫たちとの暮らし方 -環境整備・管理の方法-				教科書 P.136~143 教科書 P.154~158		
第4回	飼養環境整備④	7. シニアペットとの暮らし方 -環境整備・管理の方法-				教科書 P.158~159		
第5回	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン①	1. ペットツーリズムの現状と実施方法 2. ペット同伴宿泊施設の環境整備と管理				教科書 P.165~173		
第6回	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン②	3. ドッグランの環境整備と管理 4. ペット関連のイベント活動の企画運営や地域振興				教科書 P.174~184		
第7回	保護収容施設①	1. 動物愛護管理センター等の役割 2. 動物収容保護施設での飼養管理				教科書 P.191~199		
第8回	保護収容施設②	3. 災害時のシェルターの役割 4. シェルターメディスン				教科書 P.200~205		
第9回	ペットへの教育・訓練施設①	1. ペット飼育に関する課題~4. 社会科トレーニングの基礎				教科書 P.211~216		
第10回	ペットへの教育・訓練施設②	5. パピークラスにおける教育内容~6. 教育施設の種類				教科書 P.217~224		
第11回	動物介在教育施設	1. 法的背景~2. 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理				教科書 P.227~235		
第12回	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応①	1. 飼育マナーの必要性や目的~ 3. 地方自治体において定められている飼育マナーに関する各種条例				教科書 P.239~246		
第13回	ペット飼育のマナー・事故やケガ等のリスクへの対応②	4. 愛玩動物の種類別に必要とされている飼育マナー				教科書 P.247~257		
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○					20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎					10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	高砂 珠乃			実務経験紹介		-		

科目名	ペット関連産業概論		単位数	1	科目コード	ND2407		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「愛護・適正飼養学」に位置する授業。 ペット関連産業に従事する者として職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。							
授業の一般目標	<p>1. ペット関連産業における職業倫理(行動倫理を含む。)</p> <p>1) 責任と社会的役割を理解する(職業倫理)</p> <p>2) 商取引における関連法規の概要について理解する</p> <p>3) 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する</p> <p>2. ペットの飼養実態と市場規模</p> <p>1) ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する</p> <p>3. 各ペット関連産業の現状と課題</p> <p>1) ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス(生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など)の現状と課題を理解する。</p> <p>4. 動物取扱業1) 動物取扱業制度の概要について理解する</p> <p>2) 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法について理解する</p>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 10 巻」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ペット関連産業についてや動物取扱責任者としての職業倫理や業務内容を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	ペット関連産業概論	ペット関連産業と動物看護師			-			
第2回	ペット業界の歴史	ペット業界の歴史について			-			
第3回	ペット関連産業における職業倫理①	1. ペット関連産業における責任と社会的役割			教科書 P. 265～267			
第4回	ペット関連産業における職業倫理②	2. 商取引における関連法規の概要 3. 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法			教科書 P. 268～274			
第5回	ペットの飼育実態と市場規模	1. ペットの飼育実態～3. ペット産業全体の市場規模			教科書 P. 279～287			
第6回	各ペット関連産業の現状と課題①	1. ペット産業の分類(グループワーク)			教科書 P. 291～292			
第7回	各ペット関連産業の現状と課題②	2. 動物病院の現状			教科書 P. 292～295			
第8回	各ペット関連産業の現状と課題③	3. 動物病院以外のサービス業の現状～6. その他ペット産業の現状			教科書 P. 295～301			
第9回	各ペット関連産業の現状と課題④	グループワーク: ペット産業のそれぞれについて			-			
第10回	動物取扱業①	1. 動物取扱業制度の概要			教科書 P. 305～312			
第11回	動物取扱業②	2. 動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法および衛生管理			教科書 P. 313～319			
第12回	半期まとめ	各グループに分かれて半期の内容をまとめる			-			
第13回	まとめ内容発表	12回目の内容の発表(半期振り返り)			-			
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける			※学生証が必要			
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点～90点
小テスト	○	○					10	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎					20	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	○			10	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	動物形態機能学実習		単位数	1	科目コード	NE2401		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業。 動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、3DCGを用いて主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>運動器 <ol style="list-style-type: none"> <li>骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する</li> <li>代表的な関節の名称と構造、機能について理解する</li> <li>代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する</li> </ol> </li> <li>内臓器官 <ol style="list-style-type: none"> <li>模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する</li> <li>生殖器の雌雄差について理解する</li> <li>顕微鏡の取扱い <ol style="list-style-type: none"> <li>顕微鏡各部位の名称、鏡検条件(倍率など)について理解する</li> <li>顕微鏡の適切な操作方法について修得する</li> <li>顕微鏡の適切な管理方法について修得する</li> </ol> </li> <li>組織像の観察 <ol style="list-style-type: none"> <li>主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する</li> <li>組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」 ヒューマン・アニマル・ボンド「デジタルアナトミーWEB」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	生体を外から観察した際に解剖学的なイメージができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	骨格標本や模型、3DCG(デジタルアナトミーWEB)を用いながらの実習授業。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物形態機能学実習概論	動物形態機能学実習で学ぶべきことは何か、何のために学ぶのかを知る						
第2回	骨格、筋肉および内臓の形態と機能の理解	骨格：形態と機能						
第3回		骨格：位置の把握						
第4回		筋肉：形態と機能						
第5回		筋肉：位置の把握						
第6回		筋肉：主要な筋の働き及び停止部・起始部						
第7回		神経：形態と機能						
第8回		神経：その筋を支配するか神経損傷時の症状						
第9回		各部位・臓器の位置や関係性						
第10回	主要臓器の組織像観察	筋						
第11回		内臓						
第12回	顕微鏡操作法	顕微鏡の各部位と鏡検倍率、鏡検条件の仕組み						
第13回		正しい操作とメンテナンス法						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	林 弘之			実務経験紹介				

科目名	動物内科看護学実習Ⅰ		単位数	2	科目コード	NE2402		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業 「動物内科看護学実習Ⅰ」と「動物内科看護学実習Ⅱ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物内科看護学実習」の履修となる。 内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>身体検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全身状態(意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む。)を評価できる</li> <li>2) バイタルサインを評価できる(体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間(CRT)、股動脈圧)</li> </ol> </li> <li>診察補助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診察の準備や診察室の衛生管理ができる</li> <li>2) 基本的な保定を実施することができる</li> <li>3) 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる</li> <li>4) 採血・採尿(尿カテーテルの挿入を含む。)の手順を習得している</li> <li>5) 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している</li> </ol> </li> <li>輸液・輸血に関する技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 留置針設置の手順を習得し、準備及び補助ができる</li> <li>2) 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる</li> </ol> </li> <li>輸液・輸血中の動物を管理できる</li> <li>マイクロチップに関する技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) マイクロチップの適切な挿入部位について理解する</li> <li>2) マイクロチップ装着手順を習得している</li> </ol> </li> <li>生体検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心電図検査を実施し、結果を記録できる</li> <li>2) X線撮影のための基本的な保定ができる</li> <li>3) 放射線防護のための装備を正しく扱える</li> <li>4) 超音波検査のための基本的な保定ができる</li> <li>5) 神経学的検査の所見を記録できる</li> <li>6) 眼科検査(シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助ができる</li> <li>7) 皮膚検査(掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助ができる</li> <li>8) 外耳道検査の補助ができる</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物看護科に在籍している							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物の基本的な扱い方が出来るように、保定法やバイタルチェックと体重測定法を学ぶ。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1～2回	動物内科看護学実習Ⅰについて	授業概要、身だしなみ・心構えについて、廃棄物の種類、消毒方法 動物病院業務、受付、カルテについて						
第3～4回	実際に動物を扱うにあたって①	バイタルサインチェックの方法・カルテ記入方法・飼い主への手紙記入 動物を扱う際の注意点、保定の方法(ぬいぐるみ使用)						
第5～6回	実際に動物を扱うにあたって②	モデル犬実習(バイタルサインチェック・体重測定・抱っこの仕方・カルテスタンプの 活用・リードでの係留方法)						
第7～8回	実際に動物を扱うにあたって③	モデル犬実習(バイタルサインチェック・各種保定法・採血保定)						
第9～10回	注射針、シリンジ等の取り扱い①	注射器の取り扱い、薬剤の吸引、薬剤量の計算						
第11～12回	注射針、シリンジ等の取り扱い②	静脈留置の準備、マイクロチップ挿入について						
第13～14回	一般身体検査とは	一般身体検査の種類(体幹～姿勢、歩様)						
第15～16回	栄養状態の管理、動物病院業務	BCS・給与フード量の計算、入院室の消毒						
第17～18回	一般身体検査、診療時の保定①	モデル犬実習(バイタルサインチェック・一般身体検査・獣医師診察時の保定)						
第19～20回	一般身体検査、診療時の保定②	モデル犬実習(バイタルサインチェック・一般身体検査・獣医師診察時の保定)						
第21～22回	輸液剤・輸液ポンプ①	アンブル・バイアルの使用、輸液バックの扱い 輸液ポンプの活用(流量設定・予定量・エラー対応について)						
第23～24回	輸液剤・輸液ポンプ②	輸液ライン準備(静脈留置への接続法)・皮下補液について、三方活栓						
第25～26回	輸液剤・輸液ポンプ③	皮下補液の準備(シリンジ法・薬剤混合の方法)、シリンジでの薬剤混合						
第27～28回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第29～30回	テスト返し/解説	前回は行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点～90点
小テスト							-	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品			○	○			10	不可(E):59点以下
演習			○	○			10	
出席			○				10	
担当教員	高橋 佳代子			実務経験紹介				

科目名	動物内科看護学実習Ⅱ		単位数	2	科目コード	NE2403		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	—		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業「動物内科看護学実習Ⅰ」と「動物内科看護学実習Ⅱ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物内科看護学実習」の履修となる。 内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>身体検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全身状態(意識レベル、ボディコンディションスコア、粘膜色、浅在リンパ節、体重測定を含む。)を評価できる</li> <li>2) バイタルサインを評価できる(体温、脈拍数、呼吸数、毛細血管再充満時間(CRT)、股動脈圧)</li> </ol> </li> <li>診察補助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診察の準備や診察室の衛生管理ができる</li> <li>2) 基本的な保定を実施することができる</li> <li>3) 聴診器や体温計、注射器を適切に取り扱うことができる</li> <li>4) 採血・採尿(尿カテーテルの挿入を含む。)の手順を習得している</li> <li>5) 薬剤の取扱い、経口投与・注射の手順を習得している</li> </ol> </li> <li>輸液・輸血に関する技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 留置針設置の手順を修得し、準備及び補助ができる</li> <li>2) 輸液ポンプ、シリンジポンプを使用できる</li> <li>3) 輸液・輸血中の動物を管理できる</li> </ol> </li> <li>マイクロチップに関する技術 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) マイクロチップの適切な挿入部位について理解する</li> <li>2) マイクロチップ装着手順を習得している</li> </ol> </li> <li>生体検査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心電図検査を実施し、結果を記録できる</li> <li>2) X線撮影のための基本的な保定ができる</li> <li>3) 放射線防護のための装備を正しく扱える</li> <li>4) 超音波検査のための基本的な保定ができる</li> <li>5) 神経学的検査の所見を記録できる</li> <li>6) 眼科検査(シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助ができる</li> <li>7) 皮膚検査(搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助ができる</li> <li>8) 外耳道検査の補助ができる</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物内科看護学実習Ⅰの履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物の基本的な扱い方が出来るように、動物に応じたハンドリングや基本的なグルーミングを行う。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1～2回	動物内科看護学Ⅰ振り返り	授業概要、動物内科看護学実習Ⅰ振り返り						
第3～4回	薬の取り扱い①	調剤の流れ、調剤に使用する器材(錠剤の分割)						
第5～6回	薬の取り扱い②	薬袋準備、調剤(粉剤準備)、賦形剤について						
第7～8回	薬の取り扱い③	調剤(液剤の準備) 飼い主への説明、分包機の活用						
第9～10回	生体検査について①	モデル犬の実習(肛門腺の絞り方・耳垢検査のための検体採材)						
第11～12回	生体検査について②	モデル犬の実習(生体検査のための保定法:超音波・X線)						
第13～14回	真菌培養検査について	真菌検査(ウッド灯、抜毛検査) 真菌培養の実施、コロニー観察、油浸レンズ観察						
第15～16回	細菌培養検査について①	細菌培養検査の流れ、採材・塗抹の方法、薬剤感受性試験について						
第17～18回	細菌培養検査について②	薬剤感受性試験の実施、グラム染色実施、顕微鏡での観察方法						
第19～20回	生体検査	心電図検査/血圧測定						
第21～22回	生体検査	神経学的検査						
第23～24回	生体検査	眼科検査(フルオレセイン染色・シルマーテスト)/皮膚検査の補助						
第25～26回	生体検査	皮膚検査(テープ法・滅菌綿棒法、簡易染色手順、NMB染色) 外耳道検査の補助						
第27～28回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第29～30回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点～90点
小テスト							-	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	高橋 佳代子			実務経験紹介				

科目名	動物臨床検査学実習		単位数	2	科目コード	NE2404		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業。 検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	1. 検体検査 1) 検体採取・処理の手順を習得している 2) マイクロピペットや遠心分離器を正しく操作できる 3) 血漿、血清を分離できる 4) 血液塗抹標本を作製、染色できる 5) 血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比を算出できる 6) 全血球計算及び血液化学検査を実施できる 7) 簡易血清学的検査を実施できる 8) 尿検査を実施し、物理化学性状を記録できる 9) 尿沈渣を観察し、所見を記録できる 10) 糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出できる 11) 細胞診の準備、補助ができる							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7 巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各種検査の種類や方法、意義を理解した上で、正常値や異常値を判断できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物臨床検査学 I で学んだことを踏まえた実習授業。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物臨床検査学総論	臨床検査の種類と目的						
第2回	検体検査	マイクロピペットや遠心分離機を正しく操作						
第3回	検体検査	CBC検査の手技の確認						
第4回	検体検査	血漿、血清を分離/血液塗抹標本を作製、染色						
第5回	検体検査	血液塗抹標本を観察/血液生化学検査を実施						
第6回	検体検査	簡易血清学的検査/輸血時のクロスマッチ試験						
第7回	検体検査	尿検査/物理化学性状を記録/尿沈渣を観察						
第8回	検体検査	糞便検査/虫卵・原虫を検査/細胞診の準備、補助						
第9回	生体検査	心電図検査を実施						
第10回	生体検査	X線撮影の基本的な保定/放射線防護の装置の扱いと機器に関わる準備、設定						
第11回	生体検査	超音波検査のための基本的な保定						
第12回	生体検査	神経学的検査の所見を記録						
第13回	生体検査	眼科検査/皮膚検査の補助						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義/復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	西田 沙季			実務経験紹介				

科目名	動物外科看護学実習 I		単位数	1	科目コード	NE2405		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業 「動物外科看護学実習 I」と「動物外科看護学実習 II」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物外科看護学実習」の履修となる。 手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>術前準備 <ol style="list-style-type: none"> <li>手術器具の準備、滅菌ができる</li> <li>手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる</li> <li>手術に必要な機器、器械台を準備できる</li> <li>手術台への動物の固定、術野の消毒ができる</li> <li>手洗い、手術衣や手袋の装着ができる</li> </ol> </li> <li>術中補助 <ol style="list-style-type: none"> <li>麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる</li> <li>モニター機器(心電図、血圧計など)を接続でき、術中監視を行うことができる</li> <li>麻酔記録を作成することができる</li> <li>直接補助(器械の受渡しなど)ができる</li> <li>間接補助(无影灯、保温マットの操作など)ができる</li> <li>歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる</li> </ol> </li> <li>術後管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>術後の創傷管理(ネット、カラー装着などを含む。)ができる</li> <li>動物に包帯(粘着性、自着性など)を装着できる</li> <li>抜糸の補助ができる</li> </ol> </li> <li>救急救命 <ol style="list-style-type: none"> <li>必要な機材、薬剤を迅速に準備できる</li> <li>気管挿管を補助できる</li> <li>心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)の手順を習得している</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物外科看護学を履修している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物外科看護学の理論を基に手術における実践及び術後管理や救命救急を学ぶ。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	リネン類のたたみ方	手術衣・ドレープ類を準備し、滅菌することができる						
第2回	手術室準備・気管内挿管	手術室の準備を行うことができる 気管内挿管の準備・補助ができる						
第3回	手指消毒・ガウン装着①	手指消毒・手術着装着が正しくできる						
第4回	手指消毒・ガウン装着②							
第5回	手袋装着	closed cuff methodで3分以内に手術手袋を装着できる						
第6回	各種器械使用方法	各種手術器械が正しく使うことができる						
第7回	手術器具準備・器具滅菌	手術器具の準備・滅菌ができる						
第8回	救急救命処置 I ①	救命方法の知識の実践①				※2020年12月実施 「ペットファースト」講座にて		
第9回	救急救命処置 I ②	救命方法の知識の実践②						
第10回	救急救命処置 I ③	救命方法の知識の実践③						
第11回	救急救命処置 I ④	救命方法の知識の実践④						
第12回	救急救命処置 I ⑤	救命方法の知識の実践⑤						
第13回	救急救命処置 I ⑥	救命方法の知識の実践⑥						
第14回	授業振り返り／単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける				※学生証が必要		
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	大坪 優太			実務経験紹介				



科目名	動物外科看護学実習Ⅱ		単位数	2	科目コード	NE2406		
授業形態	実習		対象学生	3年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業「動物外科看護学実習Ⅰ」と「動物外科看護学実習Ⅱ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物外科看護学実習」の履修となる。 手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>術前準備 <ol style="list-style-type: none"> <li>手術器具の準備、滅菌ができる</li> <li>手術衣、タオル・ドレープ類を準備し滅菌できる</li> <li>手術に必要な機器、器械台を準備できる</li> <li>手術台への動物の固定、術野の消毒ができる</li> <li>手洗い、手術衣や手袋の装着ができる</li> </ol> </li> <li>術中補助 <ol style="list-style-type: none"> <li>麻酔器の各部名称や使用法を理解し、指示に従って操作できる</li> <li>モニター機器(心電図、血圧計など)を接続でき、術中監視を行うことができる</li> <li>麻酔記録を作成することができる</li> <li>直接補助(器械の受渡しなど)ができる</li> <li>間接補助(無影灯、保温マットの操作など)ができる</li> <li>歯科器具の取扱いを理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる</li> </ol> </li> <li>術後管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>術後の創傷管理(ネット、カラー装着などを含む。)ができる</li> <li>動物に包帯(粘着性、目着性など)を装着できる</li> <li>抜糸の補助ができる</li> <li>救急救命 <ol style="list-style-type: none"> <li>必要な機材、薬剤を迅速に準備できる</li> <li>気管挿管を補助できる</li> <li>心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)の手順を習得している</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物外科看護学実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 8巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 手術準備や術中・術後管理等の各種技法や手順を説明できる。 2. 救急救命の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	手術準備や術中・術後管理等の各種技法を適宜実施できる。 2. 救急救命の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物外科看護学の理論を基に手術における実践及び術後管理や救命救急を学ぶ。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。 「動物外科看護学Ⅰ」「動物外科看護学Ⅱ」での配布資料を持参すること。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1～2回	手術準備	手術台への動物の固定や器械台の準備、術野の消毒ができる						
第3～4回	麻酔器・各種モニター装着	麻酔器の接続やモニター機器を動物に接続することができる				復習		
第5～6回	術中補助	直接補助(手術助手・器械の受け渡しなど)ができる 間接補助(無影灯や手術台の操作など)ができる						
第7～8回	歯科処置準備・補助	歯科器具の取扱い方を理解し、歯科処置(歯石除去など)の補助ができる						
第9～10回	術後管理	術後の創傷管理(ネット・カラー装着なども含む)ができる						
第11～13回	人と動物の関係および行動学	アニマルマッサージを始めるにあたっての基礎知識						
第14～16回	犬の解剖学および生理学	骨格、筋肉/筋肉の停止部と起始部について						
第17～19回	動物の機能回復	運動機能障害とNSAIDsについて、神経機能障害について						
第20～22回	動物の機能回復	椎間板ヘルニア(頸部・胸腰部)、装具・歩行器について						
第19～20回	動物の機能回復	理学療法、運動療法について						
第21～22回	リラクゼーションマッサージテクニック	マッサージテクニックの種類、実践						
第23～24回	リラクゼーションマッサージテクニック	マッサージテクニックの種類、実践						
第25～26回	メンテナンスマッサージテクニック	マッサージテクニックの種類、実践						
第27～28回	実習/フィールドワーク							
第29～30回	授業振り返り/単位認定試験/テスト返し/解説	授業振り返り/授業内にて前期末試験/試験の問題の意義/復習する				※学生証が必要		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点～90点
小テスト							-	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	奥井 裕子			実務経験紹介		-		

科目名	動物臨床看護学実習		単位数	2	科目コード	NE2407		
授業形態	実習		対象学生	3年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業。 動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>動物看護過程の実践(事例演習) <ol style="list-style-type: none"> <li>事例を通して動物看護アプローチの個別性について理解する</li> <li>看護動物の生活環境(家族を含む。)が健康に及ぼす影響を理解する</li> <li>症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響を理解する</li> <li>看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付けることができる</li> <li>看護動物の援助の内容・方法を立案できる</li> <li>動物看護計画を作成できる</li> <li>動物看護記録を作成できる</li> </ol> </li> <li>入院及び栄養管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>入院動物の管理、アセスメントができる</li> <li>ケージの清掃、管理ができる</li> <li>ペインスケールを用いて痛みの程度を評価できる</li> <li>栄養チューブ設置の準備や流動食の調製ができる</li> <li>褥瘡を持つ動物の看護(体位変換など)ができる</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物臨床看護学総論の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 9巻」							
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点      1. 各事例において必要な情報を収集できる。      2. 各事例に合わせた動物看護計画を計画できる。 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点      臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点      自ら疑問点を見出し、追究することができる。 <input type="checkbox"/> 態度の観点      積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点      グループで話し合った動物看護計画を、論理的に説明できる。							
授業計画(全体)	動物看護過程の実践(事例演習)から実践力を身に付けるように授業を進める							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	動物看護過程の展開①<肛門周囲腺腫の看護>	<グループワーク> 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第2回		<グループワーク 発表> グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第3回		<グループワーク> 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第4回	動物看護過程の展開①<骨折の看護>	<グループワーク> 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第5回		<グループワーク 発表> グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第6回		<グループワーク> 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第7回	動物看護過程の展開①<感染症の看護>	<グループワーク> 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第8回		<グループワーク 発表> グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第9回		<グループワーク> 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第10回	動物看護過程の展開①<褥瘡の看護>	<グループワーク> 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第11回		<グループワーク 発表> グループで話し合った動物看護計画を発表する						
第12回		<グループワーク> 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
第13回	期末試験 動物看護過程の展開⑤<がんの看護>	<グループワーク> 看護対象のアセスメントから動物看護計画を立案する						
第14回		<グループワーク 発表> グループで話し合った動物看護計画を発表する	第13～15回を通しての 動物看護計画の立案・発表 を期末試験とする。					
第15回		<グループワーク> 事例をもとに、動物看護記録を作成する						
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S): 100点～90点
小テスト							-	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	阿部 令子			実務経験紹介				

科目名	動物愛護・適正飼養実習			単位数	2	科目コード	NE2408	
授業形態	実習			対象学生	3年生	開設期	通期	
区分	必修			開設時期	通期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業。 動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>動物の基本的な取扱い <ol style="list-style-type: none"> <li>動物種に応じた安全なハンドリングができる</li> <li>動物を安全に散歩・運動させることができる</li> <li>犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具(首輪、胴輪、リード、おもちゃなど)を選択することができる</li> <li>基本的なグルーミング(シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門塞処置、口腔内衛生管理など)を実施できる</li> <li>動物の飼養環境を適切に整備できる</li> </ol> </li> <li>飼い主とのコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> <li>犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる</li> <li>動物の適切な飼養方法(飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む。)について指導できる</li> <li>飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる</li> <li>動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる</li> <li>避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる</li> </ol> </li> <li>動物愛護管理行政 <ol style="list-style-type: none"> <li>動物愛護管理センターの活動を理解する(動物愛護管理センターの見学などを含む。)</li> <li>動物取扱業に指導すべき内容について理解する</li> <li>動物取扱業における顧客等への対応について実践することができる</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」 参考書:(著)向後 千春「世界一わかりやすい教える技術」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	-							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	説明対象・動物種に合わせた適正飼養管理指導ができる。							
授業計画(全体)	後期には、動物看護科1年生とともに小動物の飼育実習を行い、その1年生を指導する。前期(15回)では、その準備を行う。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。 「愛玩動物学Ⅰ」「愛玩動物学Ⅱ」「適正飼養指導論Ⅰ」「適正飼養指導論Ⅱ」各授業配布資料を持参し、授業に臨むこと。							
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業概要 適正飼養(指導)とは	授業概要の説明 愛玩動物における適正飼養、またその指導について考える。						
第2-4回	動物飼育環境の改善	現在の動物飼育環境やハンドリングにおける問題点の抽出、その改善を行う。						
第5回	指導方法①	スモールステップ法で指導する。						
第6回	指導方法②	KPT法で指導する。						
第7回	指導方法③	指導時に感情をコントロールする。						
第8-11回	「指導の質」の向上・統一	指導の質を統一するための指導用コンテンツを作成。						
第12回	指導用コンテンツの運用	作成した指導用コンテンツを運用して指導が可能かを検証(ロールプレイング)						
第13回	指導用コンテンツの最終調整	運用してみたコンテンツの不備を修正する。						
第14-15回	指導用マニュアルの作成	指導用コンテンツを活用できる指導用のマニュアルを作成						
第16回	動物飼育指導実習ガイダンス	動物看護科1年生と合同で授業ガイダンスを実施。						
第17-22回	動物飼育指導実習Ⅰ	作成したマニュアルを運用し、実際に動物看護科1年生に対して動物飼育方法(適正飼育環境・ハンドリング方法)を指導。				動物看護科1年生と合同で授業		
第23回	中間確認	指導用コンテンツ・マニュアルを使った動物飼育指導実習を振り返る。				3年生のみで実施		
第24-28回	動物飼育指導実習Ⅱ	前回振り返った改善案を使用して1年生への指導				動物看護科1年生と合同で授業		
第29回	動物飼育指導結果確認	1年生と一緒に単位認定試験に参加する。				動物看護科1年生と合同で授業		
第30回	指導を振り返って	1年生を指導してきた半年を振り返って、自身がこの授業を通して身につけたスキルを確認する。				1年生の授業終了後、3年生のみで実施		
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可(D):69点~60点
発表・作品		○	○	○	◎		50	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介				

科目名	動物看護総合実習Ⅰ		単位数	1	科目コード	NE2409																																								
授業形態	体験型実習		対象学生	1年生	開設期	通期																																								
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有																																								
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<p>愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業「動物看護総合実習Ⅰ」と「動物看護総合実習Ⅱ」、「動物看護総合実習Ⅲ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物看護総合実習」の履修となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションを受け、動物病院の概要、動物看護師の職務内容を理解する。</li> <li>・獣医師・看護師の業務内容を把握する。</li> <li>・動物病院の施設見学をし、施設の概況や機能を理解する。</li> <li>・動物病院の衛生管理・環境整備の必要性を理解する。</li> <li>・学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。</li> <li>・学内でのカリキュラムや各教科と実際の業務との関連を知り、必要性を理解する。</li> </ul>																																													
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物看護業務の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割を理解する</li> <li>2) 動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する</li> <li>3) 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する</li> </ol> </li> <li>2. 動物看護業務の体験 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診察室における獣医療補助行為を体験する</li> <li>2) 各種検査や処置、外科手術の補助を体験する</li> <li>3) 入院動物の看護を体験する</li> <li>4) 飼い主との適切なコミュニケーションを体験する</li> </ol> </li> <li>3. 動物看護業務の実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する</li> <li>2) スタッフと連携協働し、チーム獣医療を実践する</li> <li>3) 動物看護計画を立案し、実践する</li> <li>4) 飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する</li> </ol> </li> </ol>																																													
受講条件	動物看護科に在籍している。																																													
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし																																													
授業の到達目標	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 <input type="checkbox"/> 態度の観点 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																													
	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 <input type="checkbox"/> 態度の観点 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																													
	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 <input type="checkbox"/> 態度の観点 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																													
	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 <input type="checkbox"/> 態度の観点 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																													
	<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点 <input type="checkbox"/> 思考・判断の観点 <input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点 <input type="checkbox"/> 態度の観点 <input type="checkbox"/> 技能・表現の観点																																													
授業計画(全体)	<p>学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。  ※実習中は必ず実習服を着用していること。</p>																																													
授業計画(授業単位)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>主 題</th> <th>授 業 内 容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td rowspan="2">事前学習</td> <td rowspan="2">オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td rowspan="11">動物病院実習&lt;見学&gt;</td> <td rowspan="11">各自で選んだ動物病院にて、合計2日間の見学実習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td rowspan="2">事後学習</td> <td rowspan="2">自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						回	主 題	授 業 内 容	備 考	第1回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入		第2回		第3回	動物病院実習<見学>	各自で選んだ動物病院にて、合計2日間の見学実習		第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第9回		第10回		第11回		第12回		第13回		第14回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表		第15回	
回	主 題	授 業 内 容	備 考																																											
第1回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入																																												
第2回																																														
第3回	動物病院実習<見学>	各自で選んだ動物病院にて、合計2日間の見学実習																																												
第4回																																														
第5回																																														
第6回																																														
第7回																																														
第8回																																														
第9回																																														
第10回																																														
第11回																																														
第12回																																														
第13回																																														
第14回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表																																												
第15回																																														
成績評価方法	<p>単位認定 総合成績60点、出席率80%以上  成績点70%、提出物&amp;授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。</p>																																													
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準																																						
定期試験							-	秀 (S):100点~90点																																						
小テスト							-	優 (A):89点~80点																																						
宿題授業外レポート		◎	◎	○			50	良 (B):79点~70点																																						
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点~60点																																						
発表・作品							-	不可 (E):59点以下																																						
演習							-																																							
出席			◎				20																																							
担当教員	北村 昌樹、小林 永実			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-net.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-net.ac.jp/voice/kitamura/</a>																																									

科目名	動物看護総合実習Ⅱ		単位数	2	科目コード	NE2410		
授業形態	補助型実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<p>愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業「動物看護総合実習Ⅰ」と「動物看護総合実習Ⅱ」、「動物看護総合実習Ⅲ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物看護総合実習」の履修となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な範囲で行われる実習項目において、動物看護師としての業務、役割を果たす。</li> <li>・チーム動物医療は獣医師・動物看護師、スタッフ全員が協力して行うチーム医療であることを理解し、良好なコミュニケーションをとる。</li> <li>・動物愛護の精神、言葉遣い、プライバシーの尊重など基本的な事項について認識を深める。</li> <li>・展示動物や産業動物などの飼養施設での各動物のQOL向上や環境エンリッチメントに配慮した飼育方法や、そういった動物たちとの動物看護師との関わりを学び、自身の今後のキャリア形成を考えるきっかけとする</li> </ul>							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物看護業務の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) チーム動物医療における愛玩動物看護師の役割を理解する</li> <li>2) 動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する</li> <li>3) 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する</li> </ol> </li> <li>2. 動物看護業務の体験 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診察室における獣医療補助行為を体験する</li> <li>2) 各種検査や処置、外科手術の補助を体験する</li> <li>3) 入院動物の看護を体験する</li> <li>4) 飼い主との適切なコミュニケーションを体験する</li> </ol> </li> <li>3. 動物看護業務の実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する</li> <li>2) スタッフと連携協働し、チーム動物医療を実践する</li> <li>3) 動物看護計画を立案し、実践する</li> <li>4) 飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する</li> </ol> </li> </ol>							
受講条件	動物看護総合実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	-							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	・臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。 ・今まで学んできた知識をもとに動物展示施設での動物看護師の役割を考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	-							
授業計画(全体)								
学内での事前・事後学習および動物病院内・動物飼養施設での見学・講義・実習授業。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1-2回	動物病院実習 事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。各種書類配布および記入				学内にて		
第3-18回	動物病院実習	京都市獣医師会会員病院、滋賀県動物病院での実習				※校外学習		
第19-20回	動物病院実習 事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表				学内にて		
第21回	動物園宿泊研修（2泊3日） 事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る。				学内にて		
第22-29回	動物園宿泊研修（2泊3日）	神戸どうぶつ王国、高知県立のいち動物公園、しるとり動物園にて実習や講義を受ける。				※校外学習		
第30回	動物園宿泊研修（2泊3日） 事後学習	レポート（研修内容のまとめ）				学内にて		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎	◎	○			50	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎				20	
担当教員	学年担任			実務経験紹介				

科目名	動物看護総合実習Ⅲ	単位数	3	科目コード	NE2411			
授業形態	実務型実習	対象学生	3年生	開設期	通期			
区分	必修	開設時期	通期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師カリキュラム「実習」に位置する授業 「動物看護総合実習Ⅰ」と「動物看護総合実習Ⅱ」、「動物看護総合実習Ⅲ」で構成されており、これらの履修を以て愛玩動物看護師カリキュラム「動物看護総合実習」の履修となる。 ・指導者の助言を受けながら動物病院における獣医師との連携を通じ看護計画の展開を修得し、動物看護を遂行できる能力を養う。 ・可能な限り多くの項目について技術を体験学習する。 ・動物病院内における、動物看護師の役割やチーム動物医療の機能、行動について考えることができる。							
授業の一般目標	1. 動物看護業務の理解 1) チーム動物医療における愛玩動物看護師の役割を理解する 2) 動物診療施設を見学し、設備や機能を理解する 3) 愛玩動物を適正に管理する方法について理解する 2. 動物看護業務の体験 1) 診察室における獣医療補助行為を体験する 2) 各種検査や処置、外科手術の補助を体験する 3) 入院動物の看護を体験する 4) 飼い主との適切なコミュニケーションを体験する 3. 動物看護業務の実践 1) 実際の動物診療施設で、診察室における診療の補助を実践する 2) スタッフと連携協働し、チーム動物医療を実践する 3) 動物看護計画を立案し、実践する 4) 飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導を実践する							
受講条件	動物看護総合実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	-							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	-							
授業計画(全体)	学内での事前・事後学習および動物病院内での実習授業。 ※実習中は必ず実習服を着用していること。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る 各種書類配布および記入						
第2回	動物病院実習	(就職先を見据えた) 動物病院実習	動物病院へ就職しない学生も 本実習は必須					
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回								
第8回								
第9回	事後学習	自己評価、ポートフォリオ（実習記録、課題）の記入および発表						
第10回	事前学習	オリエンテーション：実習の目的・目標を知る 各種書類配布および記入						
第11回	高度動物医療研修	山口大学動物医療センター研修	2026年実施予定					
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	事後学習	自己評価、課題の記入および発表						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S) : 100点～90点
小テスト							-	優 (A) : 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B) : 79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D) : 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E) : 59点以下
演習	○		◎				20	
出席			○				10	
担当教員	学年担任		実務経験紹介					

科目名	動物飼育実習 I	単位数	1	科目コード	NI2401			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	愛玩動物学 I 学んだ知識を用いて正確性、迅速性を身につけ、飼育を行うことができる。							
受講条件	愛玩動物学 I の単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	本校飼育動物の適正と言われる飼育について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	事前準備 1	飼育を取りかかる前の確認			講義			
第2回	飼育時の留意点 1	飼育時の留意点を確認						
第3回	協働で質の高い飼育を目指す	伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける			伴侶動物学で学んだ知識を用いて、正確性、迅速性を身につける また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける			
第4回	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す							
第5回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 1							
第6回	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す 2							
第7回	チームを意識した高い飼育を目指す 1							
第8回	チームを意識した高い飼育を目指す 2							
第9回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 1							
第10回	コミュニケーションを活かし質の高い飼育を目指す 2							
第11回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 1							
第12回	情報の共有から質の高い飼育を目指す 2							
第13回	試験の説明・準備	今まで勉強したことを踏まえ、その動物の飼育についてのポスターを作る				※飼育は当番学生のみで行う。 試験はグループで行うため、グループに分かれ、準備をする。		
第14回	試験準備							
第15回	期末試験(発表)	まとめたポスターを用いて、その動物の飼育についての発表を行う			※飼育は当番学生のみで行う。			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○	○	○		60	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	動物飼育実習Ⅱ	単位数	2	科目コード	NI2402			
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	通期			
区分	必修	開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、グループとして適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループでコミュニケーションをとり、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して個人のスキルアップから観察力のアップ、そして質の高い飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。 また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	観察力アップから質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回								
第10回	自己評価から質の高い飼育を目指す							
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回	飼育実技試験				グループで、担当動物の飼育を正しく行う事ができる 飼育動物の生態・習性などについてを口頭で説明する事ができる			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	◎	○	○	○		60	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			



科目名	動物飼育実習Ⅲ	単位数	1	科目コード	NI2403			
授業形態	講義	対象学生	3年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。							
授業の一般目標	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。							
受講条件	動物飼育実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 6巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	エキゾチックアニマルの飼育についての飼い主からの質問に、個人で適切な解答ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	チーム医療を意識し、事故なく飼育動物の飼育が行うことができる。							
授業計画(全体)								
小動物の飼育を通して質の高い飼育を目指し、動物看護師として倫理観を備えた飼育が出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容	備考					
第1回	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す	動物飼育実習Ⅱでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す							
第6回								
第7回								
第8回								
第9回	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す							
第10回								
第11回								
第12回								
第13回	学年末試験①	2チームに分かれ、前半組が実習試験 後半組は筆記試験を行う		※飼育動物の頭数・ストレスを考え、学年末試験は2回に分けて行う				
第14回	学年末試験②	前回のチームで、後半組が実習試験 前半組は筆記試験を行う		※学生証が必要				
第15回	飼育実習の総括	動物飼育実習Ⅲでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹		実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>				

科目名	ドッグトレーニング実習 I		単位数	3	科目コード	N12404		
授業形態	実習		対象学生	2年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬を飼っている方へ適正な飼養指導ができる。							
授業の一般目標	犬の基本的扱いを習得した上で活用し、適正飼養ができるようにしつけに関する事項を飼い主に説明・指導ができるようになる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	ドッグトレーニングやしつけの知識を活用して、飼い主さんへ“しつけの重要性や方法”について説明・指導ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬や飼い主の様子を観察し、それぞれに合ったトレーニングやしつけができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	動物の基本的な扱い方が出来るように、動物に応じたハンドリングを行う。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業説明、進め方について 糞とトレーニングについて 犬具について	授業の必要性と内容説明、進め方 糞・トレーニングの違い、糞とトレーニングの重要性について 犬具（リード、カラー、おもちゃ等）の種類				座学		
第2回	動物について 動物の行動と心理①	ライフステージと社会化について ボディランゲージとカーミングシグナル				座学		
第3回	犬との接し方について 物馴れ(犬具)	・犬と人(会い方・抱っこ)、犬と犬同士(挨拶)の接し方について ・物慣れ(犬具の付け方となれさせ方)				実技		
第4回	動物の行動と心理②	生得的行動(走性・反射・本能行動など) 習得的行動(レスポナント条件付け①)				座学		
第5回	犬の行動と心理③ 適正飼養指導(社会化①)	犬の報酬について(5つのP) 人慣れ・犬慣れ				実技		
第6回	動物の行動と心理④	習得的行動(レスポナント条件付け②)				座学		
第7回	トレーニング①	ファンダメンタルトレーニング(ベーストレーニング) (名前や褒め言葉・ターゲットハンドなど)				実技		
第8回	動物の行動と心理⑤	習得的行動(オペラント条件付け)				座学		
第9回	適正飼養指導(社会化②)	場所慣れ・物慣れ・音慣れ アプライドトレーニング				実技		
第10回	動物の行動と心理⑥	習得的行動(行動形成・馴化・鋭敏化・消去など)				座学		
第11回	実技小テスト トレーニング③	復習 ファンダメンタルトレーニング小テスト(褒め言葉、ターゲットハンド)				実技		
第12回	動物の行動と心理⑦	習得的行動(行動形成・シェーピング・クリッカーなど)				座学		
第13回	トレーニング②	アプライドトレーニング (招呼・停座・伏臥など)				実技		
第14回	定期テスト(実技)	適正飼養指導→社会化の仕方 (人慣れ→怖がり後ろに隠れて吠える) (物慣れ→ハウス入らない・スリッパブラシ嫌がる)				実技		
第15回	授業の振り返り ドッグトレーニング実習 II について	適正使用指導について 犬の問題行動とその種類について				座学・実技		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			○		60	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○		○		○		10	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			20	可 (D): 69点~60点

## シラバス 2024

発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	小笠原 季輝			実務経験紹介				

科目名	ドッグトレーニング実習Ⅱ			単位数	3	科目コード	NI2405	
授業形態	実習			対象学生	2年次	開設期	半期	
区分	必修			開設時期	後期	教員実務経験対象	-	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬を飼っている方へ適正な飼養指導ができる。							
授業の一般目標	犬の基本的扱いを習得した上で活用し、適正飼養ができるようにしつつけに関する事項を飼い主に説明・指導ができるようになる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物の基本的な扱い方が出来るように、動物に応じたハンドリングや基本的なグルーミングを行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	授業説明、進め方について 基本的なしつけとトレーニングについての 復習	授業の必要性と内容説明、進め方 基本的なしつけ・トレーニング方法の復習						
第2回	生理的行動と習慣的行動①	誉め言葉、ターゲットハンドの応用						
第3回	生理的行動と習慣的行動②	お座り、伏せ、ヒール、待て、来い						
第4回	トイレトレーニング	トイレ習慣のしつけ・タイミングについて						
第5回	散歩、ストレスについて	散歩の実施方法、ストレスの見方						
第6回	飼養ルールについて	自宅飼養におけるルール付け、ハウストレーニング						
第7回	犬の反抗期	犬の反抗期について						
第8回	振り返り授業、小テスト	習得した内容の復習、小テストの実施						
第9回	問題行動①	問題行動について 問題行動における対処法(咬み癖)						
第10回	問題行動②	問題行動における対処法(無駄吠え)						
第11回	問題行動③	問題行動における対処法(その他の行動について)						
第12回	肥満犬や老犬のためのしつけ・トレーニング 方法	肥満犬の対応について、老犬に向けた道具使用とトレーニング方法						
第13回	飼い主への対応	様々な対応についての対処方法						
第14回	授業の振り返り、学年末試験	授業を振り返り、授業内にて学年末試験の実施						
第15回	試験の答え合わせ、まとめ	試験の答え合わせ、授業のまとめ						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	小笠原 季輝			実務経験紹介				

科目名	トータルケア実習Ⅰ	単位数	3	科目コード	NI2406			
授業形態	実習	対象学生	2年次	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物内科看護学実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)	動物の基本的な扱い方が出来るように、動物に応じたハンドリングや基本的なグルーミングを行う。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	グルーミング実習Ⅱ ①	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第2回	グルーミング実習Ⅱ ②	シャンプー実習						
第3回	グルーミング実習Ⅱ ③							
第4回	グルーミング実習Ⅱ ④	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第5回	グルーミング実習Ⅱ ⑤	シャンプー実習						
第6回	グルーミング実習Ⅱ ⑥							
第7回	グルーミング実習Ⅱ ⑦	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第8回	グルーミング実習Ⅱ ⑧	シャンプー実習						
第9回	グルーミング実習Ⅱ ⑨							
第10回	グルーミング実習Ⅱ ⑩	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第11回	グルーミング実習Ⅱ ⑪	シャンプー実習						
第12回	グルーミング実習Ⅱ ⑫							
第13回	グルーミング実習Ⅱ ⑬	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置) (試験)/ブラッシング (試験)						
第14回	グルーミング実習Ⅱ ⑭	シャンプー実習 (試験)						
第15回	グルーミング実習Ⅱ ⑮							
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	丸山 圭太、西田 沙季、佐藤 萌美			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/</a>			

科目名	トータルケア実習Ⅱ		単位数	3	科目コード	NI2407		
授業形態	実習		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。							
授業の一般目標	修得した知識の実践力を身に付ける							
受講条件	動物内科看護学実習Ⅱの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 7巻」 EDUWARD Press出版「愛玩動物看護師カリキュラム準拠 動物看護実習テキスト 第3版」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法や手順を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	日常的な健康管理や内科診療補助等の各種技法を適宜実施できる。							
授業計画(全体)								
動物の基本的な扱い方が出来るように、動物に応じたハンドリングや基本的なグルーミングを行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	グルーミング実習Ⅱ ①	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第2回	グルーミング実習Ⅱ ②	シャンプー実習						
第3回	グルーミング実習Ⅱ ③							
第4回	グルーミング実習Ⅱ ④	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第5回	グルーミング実習Ⅱ ⑤	シャンプー実習						
第6回	グルーミング実習Ⅱ ⑥							
第7回	グルーミング実習Ⅱ ⑦	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第8回	グルーミング実習Ⅱ ⑧	シャンプー実習						
第9回	グルーミング実習Ⅱ ⑨							
第10回	グルーミング実習Ⅱ ⑩	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)/ブラッシング						
第11回	グルーミング実習Ⅱ ⑪	シャンプー実習						
第12回	グルーミング実習Ⅱ ⑫							
第13回	グルーミング実習Ⅱ ⑬	基本的なグルーミング(爪切り、耳掃除、肛門嚢処置)(試験)/ブラッシング(試験)						
第14回	グルーミング実習Ⅱ ⑭	シャンプー実習(試験)						
第15回	グルーミング実習Ⅱ ⑮							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	丸山 圭太、西田 沙季、佐藤 萌美			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/</a>			

科目名	愛玩動物看護師試験対策 I		単位数	1	科目コード	NI2408		
授業形態	講義		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師国家資格試験に合格するための勉強ができるようになる。							
授業の一般目標	今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。							
受講条件	2025年度 動物看護師統一認定試験受験学生							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護師統一認定試験の過去問や予想問題の各問題について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護師統一認定機構の過去問題から検定合格を目指してアクティブラーニングで授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	過去問実施①	2023年度に実施された国家資格試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第2回	勉強の仕方について 2024年度過去問解説	この授業の進み方を知り、試験勉強を効率よくすることができる 前回の問題の正答率が低い問題を解くことができる						
第3回	2023年度過去問グループワーク①	正答率の低い問題を他者に説明する					4人1組のグループで問題を解説できるよう話し合い、全員の前で発表	
第4回	2023年度過去問グループワーク②	正答率の低い問題を他者に説明する						
第5回	2023年度過去問グループワーク③	正答率の低い問題を他者に説明する						
第6回	2023年度過去問グループワーク④	正答率の低い問題を他者に説明する						
第7回	2023年度過去問グループワーク⑤	正答率の低い問題を他者に説明する						
第8回	過去問実施②	2024年度に実施された国家資格試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第9回	2024年度過去問グループワーク①	正答率の低い問題を他者に説明する					4人1組のグループで問題を解説できるよう話し合い、全員の前で発表	
第10回	2024年度過去問グループワーク②	正答率の低い問題を他者に説明する						
第11回	2024年度過去問グループワーク③	正答率の低い問題を他者に説明する						
第12回	2024年度過去問グループワーク④	正答率の低い問題を他者に説明する						
第13回	2024年度過去問グループワーク⑤	正答率の低い問題を他者に説明する						
第14回	授業振り返り/単位認定試験	授業を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける					※学生証が必要	
第15回	テスト返し/解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹、丸山 圭太、西田 沙季			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/			

科目名	愛玩動物看護師試験対策Ⅱ		単位数	2	科目コード	NI2409		
授業形態	講義		対象学生	3年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	愛玩動物看護師国家資格試験に合格するための勉強ができるようになる。							
授業の一般目標	今まで学んできた内容をもとに、動物看護師統一認定試験の過去問題を解き、本試験に向けて弱点の克服や対策を練る。							
受講条件	愛玩動物看護師試験対策Ⅰの履修							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布 テキスト:2025年度資格試験対策問題集							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物看護師統一認定試験の過去問や予想問題の各問題について説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護師統一認定機構の過去問題から検定合格を目指してアクティブラーニングで授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1・2回	過去問実施④	2022年度に実施された国家資格試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第3・4回	2022年度過去問ペアワーク①	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第5・6回	2022年度過去問ペアワーク②	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第7・8回	2022年度過去問ペアワーク③	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第9・10回	2022年度過去問ペアワーク④ (解説発表)	人前で各問題の解説ができる						
第11・12回	過去問実施⑤	2021年度に実施された統一試験(過去問)を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第13・14回	2021年度過去問ペアワーク①	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第15・16回	2021年度過去問ペアワーク②	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第17・18回	2021年度過去問ペアワーク③	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第19・20回	2021年度過去問ペアワーク④ (解説発表)	人前で各問題の解説ができる						
第21・22回	過去問実施⑥	2025年度予想問題を解き、自身の弱点分野・わからない部分を分析できる						
第23・24回	2025年度予想問題ペアワーク①	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第25・26回	2025年度予想問題ペアワーク②	2人1組のペアを作り、実施した過去問をグループで話し合い、各問題を人に解説できる						
第27・28回	2025年度予想問題過去問ペアワーク③ (解説発表)	人前で各問題の解説ができる						
第29・30回	単位認定試験	授業内にて単位認定試験を受ける				※学生証が必要		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹、丸山 圭太、西田 沙季			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/maruyama/</a>			



科目名	キャリアデザイン I		単位数	1	科目コード	NF2401		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。							
授業の一般目標	一人ひとりが自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	-							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	相手の気持ちを考えて、誠実な態度で人の話を聞くことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループワークや発表において、自身の考えを相手に伝えることができる。							
授業計画(全体)								
専門学校は社会に出る前の最終学校という認識を持ち、学校生活2年間を社会人になるための準備期間として捉えることができる。 また、人との関わり方や就職についてなどを個人ワークやグループワークでいろんな意見を受け入れ、自身のキャリア延いては人生について考えることができるように授業を進めていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業概要 専門学校と今までの学校の違い	学校が社会の縮図であることを知り、今後の学校生活を社会人として行動できる				課題：3年後どうなっていたいか		
第2回	報告・連絡・相談の重要性	社会人に必要な報告・連絡・相談について学ぶ						
第3回	報告・連絡・相談の仕方	報告・連絡・相談の使い分けや使うタイミングを学ぶ						
第4回	ポジティブシンキング	ポジティブな考え方とは						
第5回	コミュニケーション能力とは	コミュニケーションには自己理解と他者理解が必要であることを知る						
第6回	メールの送信・返信	ビジネスメールの送信・返信について学ぶ				課題：ビジネスメール		
第7回	自己理解①	自己を知る (QUアンケート)						
第8回	自己理解②	自己の長所と短所を知る。						
第9回	自己理解③	ストレスと向き合う						
第10回	他者理解	価値観の違いを受け入れる						
第11回	自己理解④ 自己尊重	第7回「自己理解①」(QUアンケート)の結果をみて他者との違いを知る。						
第12回	企業研究	就職先を考える						
第13回	求人票の見方	求人票に書かれている内容を知る。						
第14回	電話のかけ方、履歴書・お礼状の書き方	動物病院見学に向けて、企業への電話のかけ方や履歴書・お礼状の書き方を知る。				キャリアサポート室職員担当		
第15回	計画立案	効果的な計画を立案する				課題：計画立案		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		○	○				20	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			30	可 (D): 69点~60点
発表・作品				○	○		20	不可 (E): 59点以下
演習				○	○		20	
出席			○				10	
担当教員	丸山 圭太、小林 永美			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	キャリアデザインⅡ		単位数	1	科目コード	NF2402		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	個人ワーク・グループワークを行い、就職活動において、実践で活用できる内容を身につけることができる。							
授業の一般目標	一人ひとりが自分のキャリアの方向性を主体的に定めることができる。							
受講条件	キャリアデザインⅠの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就職NAVIノート・未来ノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	相手の気持ちを考えて、誠実な態度で人の話を聞くことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループワークや発表において、自身の考えを相手に伝えることができる。							
授業計画(全体)								
専門学校は社会に出る前の最終学校という認識を持ち、学校生活2年間を社会人になるための準備期間として捉えることができる。 また、人との関わり方や就職についてなどを個人ワークやグループワークでいろいろな意見を受け入れ、自身のキャリア延いては人生について考えることができるように授業を進めていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	動物病院理解型実習 振り返り 計画立案 (目標を達成するために)	動物病院体験型実習を終え、感想等発表 P D C A サイクルを知り、自身の目標と目標達成計画を立てることができる				2023/4/10		
第2回	自己理解Ⅰ『チーム学習を進めるために』	コミュニケーション能力を高めるには 「チームワーク」の大切さとうまく「コミュニケーション」を取る秘訣について学ぶ				2023/4/17		
第3回	自己理解Ⅱ	職務適正テスト				2023/4/24		
第4回	自己理解Ⅲ『過去を振り返ろう』	過去のライフイベントを通して、自分の人生に対する態度の根っこにあるものに気づき、自分らしさについて考える				2023/5/1		
第5回	自己理解Ⅳ	第3回にて行った職務適正テストのフィードバック 自身を他者に伝えることを意識し、自己イメージを言語化・明確化する				2023/5/8		
第6回	自己理解Ⅴ『ジョハリの窓』	「自分から見た自分」と「他人から見た自分」についての気づきを得て、自己理解とより良い人間関係について考える				2023/5/22		
第7回	自己理解Ⅵ 『私の大切なもの探し・ネガポジ まっぶ』	自分の価値観、また自分自身を「他者に伝える」ことを意識して、「自己イメージ」を言語化・明確化できるようにする				2023/5/29		
第8回	自己理解Ⅶ『なぜ働くの?』	自分にとっての「働く理由」や思いについて洞察を深める				2023/6/5		
第9回	求人票の見方 企業研究Ⅰ (理想の職場とは)	基本給・諸手当・保険など求人票に書かれている基本的な部分を学ぶ 自身に合った職場を考える				2023/6/12		
第10回	企業研究Ⅰ (説明会希望調査)/面談	学内合同企業説明会希望調査 希望する動物病院のリストアップをする				2023/6/19		
第11回	電話のかけ方/尊敬語と謙譲語 履歴書・お礼状の書き方	電話でのアポイントメントの取り方を学ぶ。/敬語を再確認する 履歴書・お礼状の書き方を学び、実際に書いてみる				2023/6/26		
第12回	動物病院訪問、学内合同企業説明会について (諸注意・所作)	動物病院訪問、学内合同企業説明会に向けての諸注意や所作を学ぶ				2023/7/3		
第13回	動物病院訪問、学内合同企業説明会					2023/7/10		
第14回						7/24(4組)、7/31(3組)		
第15回	動物病院訪問、学内合同企業説明会 振り返り	動物病院訪問、学内合同企業説明会を終え、感想等発表				2023/9/4		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		○	○				20	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	○			30	可 (D): 69点~60点
発表・作品				○	○		20	不可 (E): 59点以下
演習				○	○		20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹、佐藤 萌美、キャリアサポート室職員			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	キャリアデザインⅢ		単位数	1	科目コード	NF2403		
授業形態	講義		対象学生	3年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	就職活動において実践的に活用できる内容を学ぶことができる。							
授業の一般目標	個人ワーク・チームワークを通して自分への洞察を深め、仕事全般についての理解を高めて、仕事選択ができるようになる。							
受講条件	キャリアデザインⅡの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	就職NAVIノート・未来ノート							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	相手の気持ちを考えて、誠実な態度で人の話を聞くことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	グループワークや発表において、自身の考えを相手に伝えることができる。							
授業計画(全体)								
キャリアデザインⅡで学んだ内容を踏まえ、自己分析や企業研究など、2年生から始まる就職活動を見据えた内容を進めていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	働くとは/就職活動の流れ	学生と社会人の違いを再認識する 「未来ノート」での学習の振り返り						
第2回	仕事理解Ⅰ『チラシ作り』①	「チラシ作り」を通して、仕事はどのようにすると時間内で成果を出せるのか、その能力や姿勢について理解させる						
第3回	仕事理解Ⅱ『チラシ作り』②	「チラシ作り」を通して仕事の進め方、自分自身のコミュニケーション特性を学び、コミュニケーションの取り方を体得する						
第4回	仕事理解Ⅲ『ケーススタディで学ぶ実際の仕事』	社会・組織の一員として、どのように行動すれば良いのかや、組織の中での自分の役割について考えられる						
第5回	仕事理解Ⅳ『未来ページ』	「自己理解」と「仕事理解」の気づきから自分のキャリア目標を設定させる。それを実現するためのキャリア・プランニングができ、具体的な「学習目標」を明確にさせる						
第6回	就活メイクを学ぶ	ビューティ専門学校の先生や学生から、メイクのポイントを学ぶ						
第7回	生活設計・家計管理	「SMBCコンシューマーファイナンス」特別授業 計画的な貯蓄・給与明細書の見方・お金のトラブル・資産運用などについて学ぶ						
第8回	動物看護総合実習に向けて(企業研究①)	動物看護総合実習の事前学習(企業研究①)						
第9回	動物病院体験型実習について(所作・諸注意)	動物病院体験型実習に向けての所作や諸注意を学ぶ						
第10回	動物病院体験型実習 振り返り	動物病院体験型実習を終え、感想等発表						
第11回	企業研究②	自身に合った職場を見つける②						
第12回	企業研究③	自身に合った職場を見つける③						
第13回	動物病院実務型実習について(動物病院研究)	動物病院実務型実習に向けての実習先の動物病院を調べる						
第14回	動物病院実務型実習について(所作・諸注意)	動物病院実務型実習に向けての所作・諸注意を学ぶ						
第15回	動物病院体験型実習 振り返り	動物病院体験型実習を終え、感想等発表						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		○	○				20	良(B):79点~70点
授業態度			○	○			30	可(D):69点~60点
発表・作品				○	○		20	不可(E):59点以下
演習				○	○		20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹、佐藤 萌美			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	ボランティア活動 I		単位数	1	科目コード	NF2404		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
授業の一般目標	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 今まで勉強してきた動物看護技術を用いてボランティア活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
京都動物愛護センターの子猫の一時預りボランティアに参画し動物看護の知識が社会貢献出来ることを考えるように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業概論 主体性とは？	この授業の意義・流れを理解し、今後の授業に臨むことができるようになる。「主体性」と「自主性」の違いを自分の言葉で説明できる						
第2回	動物関係の社会貢献	動物看護の知識を使ってできる社会貢献にどんなものがあるかを知る						
第3回	自分たちでできること	自分たちで、動物看護の知識を使ってできる社会貢献を考える						
第4回	京都動物愛護センター見学	京都動物愛護センター見学をしてボランティア活動とは何かを知る						
第5回								
第6回	グループワーク：マニュアル作成①	子猫の一時預りボランティアに参画する際に必要なマニュアルを考える						
第7回	グループワーク：マニュアル作成②							
第8回	グループワーク：マニュアル作成③							
第9回	グループワーク：マニュアル作成④							
第10回	グループワーク：マニュアル作成⑤							
第11回	グループワーク：活動前最終確認	子猫の一時預りボランティア開始前に決まったこと最終確認・全体共有						
第12回	グループワーク：活動中間報告①	子猫の一時預りボランティア開始 1 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第13回	グループワーク：活動中間報告②	子猫の一時預りボランティア開始 2 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第14回	グループワーク：活動中間報告③	子猫の一時預りボランティア開始 3 週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第15回	この授業を受けて	クラス全体で授業で学んだことを共有						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				20	良 (B):79点~70点
授業態度		◎	○	◎			70	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹、佐藤 萌美			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	ボランティア活動Ⅱ		単位数	1	科目コード	NF2405		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
授業の一般目標	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何が出来るかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。							
受講条件	ボランティア活動Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜資料配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	今まで勉強してきた動物看護技術を用いてボランティア活動に参加できる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
京都動物愛護センターの子猫の一時預りボランティアに参画し、縦割りの取組みを通じてボランティア意義を伝えられるような事を学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業概論 主体性とは？	この授業の意義・流れを理解し、今後の授業に臨むことができるようになる。 「主体性」と「自主性」の違いを自分の言葉で説明できる						
第2回	動物関係の社会貢献	動物看護の知識を使ってできる社会貢献にどんなものがあるかを知る						
第3回	自分たちでできること	自分たちで、動物看護の知識を使ってできる社会貢献を考える						
第4回	京都動物愛護センター見学	京都動物愛護センター見学をしてボランティア活動とは何かを知る						
第5回								
第6回	グループワーク：マニュアル作成①	子猫の一時預りボランティアに参画する際に必要なマニュアルを考える						
第7回	グループワーク：マニュアル作成②							
第8回	グループワーク：マニュアル作成③							
第9回	グループワーク：マニュアル作成④							
第10回	グループワーク：マニュアル作成⑤							
第11回	グループワーク：活動前最終確認	子猫の一時預りボランティア開始前に決まったことの最終確認・全体共有						
第12回	グループワーク：活動中間報告①	子猫の一時預りボランティア開始1週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第13回	グループワーク：活動中間報告②	子猫の一時預りボランティア開始2週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第14回	グループワーク：活動中間報告③	子猫の一時預りボランティア開始3週間目の情報共有・今後の問題点を話し合う						
第15回	この授業を受けて	クラス全体で授業で学んだことを共有						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A): 89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B): 79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D): 69点～60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹、佐藤 萌美			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	損害保険学		単位数	1	科目コード	NG2401		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ペット保険及び損害保険募集人に関連する内容を覚える。 アニコム損害保険の合格レベル、知識を覚える。							
授業の一般目標	アニコム損害保険に合格する。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	動物の医療保険について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場を想定した各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	ペット保険及び損害保険募集人資格を集中講座で学ぶ。							
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	ペット保険講座	ペット保険」を扱うペットショップで働く際、あるいはペット保険加入者が多数来院する動物病院で働く際に役立つ「ペット保険(アニコム損保等)」の知識全般について学習します						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	損害保険募集人 一般試験対策講座	損害保険会社のペット保険を扱うペットショップ、動物病院等への就職に有利な資格で、「損害保険募集人試験」の合格を目指す						
第6回								
第7回								
第8回								
成績評価方法								
各項目では、理解力テストを行う。 単位認定：総合成績60点、出席率80%以上 理解力テスト点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					80	秀(S):100点~90点
小テスト							-	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良(B):79点~70点
授業態度							-	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○	○			20	
担当教員	外部講師(アニコムバフェ)			実務経験紹介				

科目名	基本IT技術 I	単位数	2	科目コード	NG2402			
授業形態	実習	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	コンピュータを利用した事務作業やビジネスに必要な文書の作成や表計算について学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。							
授業の一般目標	必要に応じたコンピュータの利用技術の取得。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	「Microsoft Word2013 クイックマスター 基本編」「Microsoft Excel2013 クイックマスター 基本編」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	求められている資料をWord、Excelで作成出来る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べる事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
Word、Excelを使いこなせるようにし、文書の作成・表の作成編集関数を理解し出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	コンピュータの基本操作	ログイン、メールアドレス登録、課題提出の仕方						
第2回	文書の作成	ワードの基本操作、文章作成、編集、文字修飾						
第3回	文書の作成	インデントやタブ、ビジネス文書について						
第4回	表の作成	表を挿入し、編集する						
第5回	表の編集	表の体裁を整える						
第6回	表現力アップ	図などの挿入・編集						
第7回	表現力アップ	SmartArtグラフィックなどの挿入・編集						
第8回	エクセルの基礎	エクセルの基本操作と簡単な表の作成						
第9回	エクセルの基本	表の作成、演算子や数式について						
第10回	数式の利用	関数の理解、オートSUMボタンを利用した関数の利用						
第11回	関数の利用	絶対参照と相対参照、関数の挿入ボタンを利用した関数について						
第12回	グラフ	グラフの作成・編集						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習						
第14回	前期振り返り／期末テスト	前期を振り返り、授業内にて前期末試験を受ける						
第15回	テスト返し／解説	前回行った試験の問題用紙を見ながら、問題の意義・答えを復習する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	吉野 正巳			実務経験紹介				

科目名	基本IT技術Ⅱ		単位数	1	科目コード	NG2403		
授業形態	実習		対象学生	3年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	パワーポイントを使用したスライド作成							
授業の一般目標	パワーポイントを使用して発表スライドを制作できるようになる。							
受講条件	基本IT技術Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	「Microsoft Power Point2013 クイックマスター」							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 効果的なスライド作成が出来るようになる。 2. 自身の考えや企画を形にする為に、効果的なスライド作成が出来るようになる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた内容において、自分の意見を論理的に述べる事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
PowerPointを使いこなせるようにし、プレゼンのスライド作成ができプレゼンテーションが出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	基本操作 1	PowerPointソフトはどのようなものか 基本操作とソフトの理解						
第2回	基本操作 2	スライドの作成・デザイン・文字入力と構成						
第3回	基本操作 3	図形や絵の挿入・アニメーション効果・画面の切り替え						
第4回	基本操作 4	表・グラフの挿入						
第5回	基本操作 5	音の挿入と効果的な画像挿入						
第6回	基本操作の振り返り	これまでの基本操作で簡単なスライドを制作する						
第7回	プレゼンのスライド制作 1	序論・本論・結論の構成を踏まえ、簡単なスライドを制作出来るようになる。						
第8回	プレゼンのスライド制作 2	序論・本論・結論の構成を踏まえ、簡単なスライドを制作出来るようになる。 参考・引用文献の表記方法						
第9回	発表用スライド作成 1	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第10回	発表用スライド作成 2	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第11回	発表用スライド作成 3	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第12回	発表用スライド作成 4	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第13回	発表用スライド作成 5	発表計画を立て、基本操作を取り入れたスライド作りを行う						
第14回	プレゼン発表 1	模擬発表 内容が明確で分かりやすく構成されているかを自己判断出来るようになる						
第15回	プレゼン発表 2	模擬発表 内容が明確で分かりやすく構成されているかを自己判断出来るようになる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	吉野 正巳			実務経験紹介				



科目名	イベントプロジューズ		単位数	1	科目コード	NH2401		
授業形態	講義/実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前期/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。							
授業の一般目標	イベントの企画から実際にイベント運営を体験し、制作/ノウハウを身につける。 自分達の考えたイベントが来場者にどう評価されたかを調査・分析し、グループワークで各自が役割に対する責務を果たし、チーム全体の力を発揮することができる。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点								
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点								
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
動物看護に関わるイベントの企画運営を学ぶ。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	イベントとは?	2020年度のイベントについて/イベントの意義について						
第2回	イベント①	しが動物フェスティバルの企画運営				2020年7月実施予定		
第3回								
第4回	イベント②	ほりかわ祭(学園祭)の企画運営				2020年10月実施予定		
第5回								
第6回	イベント③	京都動物フォーラムの企画運営				2021年3月実施予定		
第7回								
成績評価方法								
単位認定 60点以上 各イベントの参加状況・運営・実施状況にて総合判断								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S): 100点~90点
小テスト								優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート			○	○			40	良 (B): 79点~70点
授業態度			◎	◎			50	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			◎	◎			10	
担当教員	北村 昌樹、佐藤 萌美			実務経験紹介	<a href="https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	社会常識	単位数	1	科目コード	NH2402			
授業形態	講義	対象学生	2年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	-			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。サービス接客検定3級合格のために必要な知識の習得。							
授業の一般目標	社会人としての基本的なマナーを身につけ、円滑にコミュニケーションを図れるようになる。 ビジネス電話検定に準じた電話応対ができるようになる。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	サービス接客検定 受験ガイド3級 改訂版、サービス接客検定 問題集							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	.社会常識を知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	日常生活における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
社会人としてのマナーを身に付けサービス接客検定3級取得を目指して授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	授業開始について サービス接客接客とは何か	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サービスの意味、接客とは何かを覚える、効果的な自己紹介の仕方ができる						
第2回	サービススタッフの資質(1)	必要とされる要件 明るさと誠実さ・適切な判断と表現・身だしなみについてを覚える						
第3回	サービススタッフの資質(2)	従業要件 良識をもつ、適切な判断と表現、清潔感についてを覚える						
第4回	専門知識(1)	サービス知識 サービスの意義・機能・種類を覚える						
第5回	専門知識(2)	従業知識 商業用語・経済用語を覚える						
第6回	一般知識	社会常識を覚える、時事問題を知る						
第7回	対人技能(1)	一般的な人間関係を築く						
第8回	対人技能(2)	接客知識、対人心理が理解できる 接客者としてマナーを心得る						
第9回	対人技能(3)	話し方、接客用語を覚える 提示・説明の仕方を覚える						
第10回	対人技能(4)	服装 接客者としての適切な服装を装う						
第11回	実務技能(1)	問題処理。環境整備についてを覚える						
第12回	実務技能(2)	金品管理・社交儀礼の業務ができる						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習			試験範囲説明			
第14回	振り返り授業・試験実施	サービス接客検定合格のポイント、受験			単位認定試験			
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説			試験解説			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S): 100点~90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員				実務経験紹介				

科目名	ビジネス文筆 I		単位数	1	科目コード	NH2403		
授業形態	講義と実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	硬筆検定4級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。							
授業の一般目標	硬筆書写検定4級合格のための学び							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	硬筆書写技能検定4級合格のポイント							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で書写について主体的に考えることができる							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
硬筆書写技能検定4級取得のために必要な学びを行う								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	オリエンテーション	美しい文字を書く基本を学ぶ。用具、テキスト、ドリルの活用方法、学習計画が理解できる						
第2回	速書き	一定の時間内に、一定の文章を書き終える事ができる						
第3回	漢字と平仮名を大きく書く	5~6字くらいの語句を、2.5センチのますめに1字ずつ書くことができる						
第4回	縦書き(漢字と仮名交じり文)	ボールペン・サインペンで40字ほどの感じ仮名交じり文を、行の幅1.7センチの縦けいのあるところに楷書で書くことができる						
第5回	横書き(漢字仮名交じり文)	片仮名、数字、ローマ字が混ざっている55字くらいの文を、横書きで書くことが出来る						
第6回	簡単な掲示を書く	10字くらいの短い文を、わくの中に適当な位置に大きさ・太さに留意しながら書くことができる						
第7回	教育漢字と仮名の筆順	多く用いられる平易な漢字の点画、筆順を正しく字形を整えて書くことが出来る						
第8回	過去問題実施 模擬試験の実施①	硬筆書写検定4級受験を想定し模試を実施						
第9回	過去問題実施 模擬試験の実施②	硬筆書写検定4級受験を想定し模試を実施						
第10回	速書き	一定の時間内に、一定の文章を美しく正しく書き終える事ができる						
第11回	漢字(楷・行)を大きく書く	漢字の楷書と行書の基本を理解し書くことができる						
第12回	縦書き(漢字と仮名交じり文)	ボールペン・サインペンで45字ほどの漢字仮名交じり文を、行の幅1.7センチの縦けいのあるところに行書で書くことができる						
第13回	横書き(漢字仮名交じり文)	片仮名、数字、ローマ字が混ざっている60字くらいの文を、感じは楷書で、数字やローマ字は似合うもので横書きで書くことが出来る						
第14回	添え状、履歴書、お礼状の作成①	添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する						
第15回	添え状、履歴書、お礼状の作成①	添え状、履歴書、お礼状を書く上での留意点を学び実際に作成する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	S(4):90点以上
小テスト	◎	○	◎				30	A(3):80点以上
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	B(2):70点以上
授業態度			○				10	C(1):60点以上
発表・作品							評価なし	D:59点未満 未修得
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	上川 華生			実務経験紹介				

科目名	コミュニケーション学		単位数	1	科目コード	NH2404		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	コミュニケーションについて学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。							
授業の一般目標	社会人としての基本的なマナーを身につけ、円滑にコミュニケーションを図れるようになる。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	参考図書:あなたのコミュニケーション能力の課題が分かる本①							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	コミュニケーションに必要な技術を知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	日常生活における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
コミュニケーションの重要性を理解し社会人に必要なコミュニケーション技術を身につける								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	授業概要 ビジネスメールについて	授業概要「何を身につけてほしいのか」 ビジネスメールについて						
第2回	コミュニケーション能力ってなに？	グループワーク「コミュニケーション能力のある人の特徴」						
第3回	自身のコミュニケーション能力の課題を知る	グループワーク「自身のコミュニケーション能力の課題を知る」						
第4回	コミュニケーションの基本	(1)悩みはすべて対人関係 (2)コミュニケーション能力を高める (3)簡単なはじめの一步						
第5回	問いかける技術 看護師さんの「コミュニケーション能力」	(1)第一印象(つかみ) (2)安心感(プロ意識) (3)雰囲気づくり(問い力) (4)組織の原理						
第6回	問いを受け入れる技術①	視覚情報(メラビアンの法則)、聴覚情報、第一印象の重要性						
第7回	問いを受け入れる技術②	傾聴力 グループワーク「授業における“自身の聴く姿勢”はどうか？」						
第8回	問いに答える技術	正しく答える						
第9回	問う技術	オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン 相手が喜ぶ質問						
第10回	伝える技術①	言葉遣い 相手の目線に合わせる						
第11回	伝える技術②	話し方 3つの基本(言葉遣い・スピード・声の大きさを合わせる) 3つの応用(抑揚、共感、話す順番)						
第12回	試験演習	試験について説明し、実際の試験の流れで演習を行う。						
第13回	試験①	試験①						
第14回	試験②	試験② (試験①とはメンバーを変えて実施)						
第15回	試験後改善グループワーク	2回の試験を終えての考察(グループワーク)						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 試験取得点数70% 提出物&授業態度20% 出席点10%を換算し、総合評価とする。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			○		50	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				20	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			20	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	西田 沙季、北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	プレゼンテーション学		単位数	1	科目コード	NH2405		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	社会人に必要なプレゼンテーション能力。 この授業ではビジネスにおけるプレゼンテーションの考え方や心理学的、実践的なプレゼンテーションテクニックを学び、動物看護師としてその知識・技術を活用できるようにすることを目標とする。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の伝えたい内容を伝えられるようにプレゼンテーションが行える。</li> <li>人前に出て、緊張せずにプレゼンテーションが行える。</li> </ul>							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	テキスト:資料適宜配布 参考書:日本経済新聞出版「プレゼンテーションの技術」(山本 御稔 著)							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	-							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	プレゼンテーションを行う相手や各種場面を分析し、その相手・場面に合わせたプレゼンテーションを行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	自分の伝えたい内容を相手に伝えることができる。2チームでプレゼンテーションを行うことができる。							
授業計画(全体)								
プレゼンテーションの目的・重要性を理解し実践的なテクニックを学び自らプレゼンテーションが出来るように授業を進める								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの目的・重要性を知る						
第2回	プレゼンテーションの目的設定	自分の話したい内容を客観的に捉え、プレゼンテーションの目的を設定できる						
第3回	自分自身をコントロールするテクニック	人前に出て緊張しなくなるための知識を学ぶ						
第4回	眠くなるプレゼンテーションとは	聴衆が眠たくなるプレゼンテーションの共通点を見出す						
第5回	プレゼンテーションのテクニック①	わかりやすいプレゼンテーションの共通点を見出す						
第6回	プレゼンテーションのテクニック②	認知心理学のテクニックを活用できる (アンカリング、返報性、呼びかけ効果、希少性の原理、楽しさの伝達)						
第7回	プレゼンテーションの実践①	プレゼンテーションのテクニック①、②で学んだテクニックを使って実際にプレゼンテーションができる						
第8回	プレゼンテーションのテクニック③	プレゼンテーションを行う相手を知る。自身の「声の魅力」を生かす						
第9回	プレゼンテーションのテクニック④	実践で活用できるテクニックを知る						
第10回	プレゼンテーションの実践②	プレゼンテーションのテクニック③、④で学んだテクニックを使って実際にプレゼンテーションができる						
第11回	チームプレゼンテーション①	チームプレゼンテーションにおける、チームワーク・役割分担の重要性を知る						
第12回	発表準備①	14、15回目に行うクラス内発表に向けての準備を行う						
第13回	発表準備②	14、15回目に行うクラス内発表に向けての準備を行う						
第14回	発表①	授業内で学んだテクニックを生かし、発表ができる						
第15回	発表②、総括	授業内で学んだテクニックを生かし、発表ができる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			20	可 (D):69点~60点
発表・作品		○	○	○	◎		60	不可(E):59点以下
演習		○	○	○	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	環境整備	単位数	1	科目コード	NH2406			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	環境整備による職場への効果を知識として学び、クラス内を職場と見立てたうえで具体的な行動指針を策定し環境整備を実践する。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な(一定期間で達成することができる)目標・計画の立案ができるようになる。</li> <li>目標が達成されたかどうかを客観的に評価することができる。</li> <li>効果的な環境整備ができるようになる。</li> </ul>							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	-							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	一定期間で達成することができる目標を立てることができる。 目標が達成されたかどうかを客観的に評価することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	効果的な環境整備活動ができる。							
授業計画(全体)								
環境整備の考え方を理解した上で、全員で使用教室の「環境整備」を実施する。 グループに別れ、各グループ1週間で達成できる環境整備目標を立案し、授業時間外にその目標を達成するための環境整備活動を実施。 本授業時間内では、「目標が達成できたか」どうかを担当したグループ以外のグループが判断・評価する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	主体性とは/環境整備とは	社会人に求められる主体性と環境整備について考える						
第2回	身支度の重要性	身支度の重要性・必要性について考える						
第3回	整理整頓とは	整理整頓の意味を考えた上で、実際に教室を整理整頓してみる						
第4回	環境整備の流れ説明・改善目標考案	この授業における「環境整備」の流れ 「目標の立て方」を学び、実際に環境整備の目標を立てる						
第5回	環境整備点検①	実際に環境整備として担当箇所を周り、改善箇所を探す	Google 「スプレッドシート」 使用					
第6回	環境整備点検② 改善点・整理状態継続考案②	授業外で行っていた環境整備活動を別グループが視察	Google 「スプレッドシート」 使用					
第7回	環境整備点検③ 改善点・整理状態継続考案③	授業外で行っていた環境整備活動を別グループが視察 “周りを巻き込む”方法を考える	Google 「スプレッドシート」 使用					
第8回	環境整備点検④ 改善点・整理状態継続考案④	授業外で行っていた環境整備活動を別グループが視察 “周りを巻き込む”方法を考える	Google 「スプレッドシート」 使用					
第9回	環境整備点検⑤ 改善点・整理状態継続考案⑤	授業外で行っていた環境整備活動を別グループが視察 要望に応える。	Google 「スプレッドシート」 使用					
第10回	環境整備点検⑥ 改善点・整理状態継続考案⑥	授業外で行っていた環境整備活動を別グループが視察 “周りを巻き込む”方法を考えて気づいたことを発表①	Google 「スプレッドシート」 使用					
第11回	環境整備点検⑦ 改善点・整理状態継続考案⑦	授業外で行っていた環境整備活動を別グループが視察 “周りを巻き込む”方法を考えて気づいたことを発表②	Google 「スプレッドシート」 使用					
第12回	課題:環境整備目標考案(模擬試験)	この授業の試験について 次回の試験に向けて、目標・計画立案	Google 「スプレッドシート」 使用					
第13回	試験① 環境整備目標達成確認 評価・採点・ 問題点抽出・改善活動①	各グループの目標達成度を評価・採点 改善点を踏まえ、次回の試験に向けて目標・計画立案	Google 「スプレッドシート」 使用					
第14回	試験② 環境整備目標達成確認 評価・採点・ 問題点抽出・改善活動②	各グループの目標達成度を評価・採点 改善点を踏まえ、次回の試験に向けて目標・計画立案	Google 「スプレッドシート」 使用					
第15回	最終評価/この授業を終えて	各グループの目標達成度を評価・採点 グループワーク「授業を終えて」グループ発表	Google 「スプレッドシート」 使用					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	○			10	可 (D):69点~60点
発表・作品		○	○	○	◎		60	不可 (E):59点以下
演習			○	○			10	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹、丸山 圭太			実務経験紹介	<a href="https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/">https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/</a>			

科目名	アニマルヘルパー		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義/実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	独立開業を目指す場合やトリマー、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテルなどの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。							
授業の一般目標	アニマルヘルパーが行うペット訪問サポートについて実践的に身につける。							
受講条件	動物看護科に在籍している。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	生涯学習とは何かについて説明できる。2. 教育の各領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で教育問題について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
犬・猫の行動特性を理解しヘルパー業務を身に付ける。また要介護が必要な動物のケアも学ぶ								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	導入・インフォメーション	講座の目標、講座終了までの流れ、配布資料の確認						
第2回	犬の行動 ①	犬の発達過程、犬種特性、ボディランゲージ						
第3回	猫の行動 ①	猫の発達過程、ボディランゲージ、排泄や爪とぎなど猫特有の行動						
第4回	ヘルパー業務 (犬 ①)	犬のお世話をする際の注意事項や散歩や食事など依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項						
第5回	ヘルパー業務 (犬 ②)							
第6回	ヘルパー業務 (猫 ①)	猫のお世話をする際の注意事項やトイレ掃除や遊びなど依頼される可能性が高い内容について、手順や注意事項						
第7回	ヘルパー業務 (猫 ②)							
第8回	エキゾチックアニマル	一般的な小動物の具体的なお世話や注意事項						
第9回	要介護動物のケア ①	食事介護や排泄介護、運動介護など、特別に看護が必要な動物の対応						
第10回	要介護動物のケア ②							
第11回	訪問時の心肺蘇生術	訪問サービス時の心肺蘇生法のタイミングや具体的な方法						
第12回	修了試験	確認テスト						
成績評価方法								
単位認定 修了試験で総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			25	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習							-	
出席			○				25	
担当教員	外部講師(日本ペットサービス研究会)			実務経験紹介				

科目名	ビジネス文章力Ⅱ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択		開設時期	後期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	硬筆検定3級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。							
授業の一般目標	文字を書くにあたって心を整える。文字を書いて相手に伝えることはコミュニケーションの1つであることを知る。書写の基礎基本を自分のものとして定着する。							
受講条件	ビジネス文章力Ⅰの単位認定							
事前学習について (テキスト・参考書等)	硬筆書写技能検定3級合格のポイント							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	楷書、行書、草書それぞれの違いを知る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	臨床現場や日常生活における各種場面において、最良とされる判断ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	自ら疑問点を見出し、追究することができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	積極性と主体性を持った謙虚な振る舞いができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
硬筆書写技能検定3級取得のために必要な学びを行う								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	オリエンテーション	美しい文字を書く基本。用具テキスト、ドリルなど3級の概要説明						
第2回	硬筆ドリル・理論	文字・漢字の基本的な決まり						
第3回	硬筆ドリル・理論	文字のハネ、はらい、角度を学ぶ						
第4回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第5回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第6回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第7回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第8回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第9回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第10回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第11回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第12回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第13回	硬筆ドリル・理論	漢字の基本文字を練習						
第14回	硬筆2級受験模擬	硬筆検定3級試験を想定した模擬試験						
第15回	硬筆2級受験模擬	硬筆検定3級試験を想定した模擬試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	○	○		50	秀 (S): 100点~90点
小テスト							-	優 (A): 89点~80点
宿題授業外レポート	○		○				10	良 (B): 79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D): 69点~60点
発表・作品							-	不可 (E): 59点以下
演習			○	○			20	
出席			○				10	
担当教員	上川 華生			実務経験紹介				